

加古川市
障害福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和2年10月

加古川市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
(1)	回答者属性.....	3
(2)	あなたの障害の状況について.....	22
(3)	住まいや暮らしについて.....	33
(4)	日中活動や就労について.....	40
(5)	障害福祉サービス等の利用について.....	56
(6)	相談相手について.....	114
(7)	権利擁護について.....	119
(8)	災害時の避難等について.....	123

I 調査の概要

1 調査の目的

第6期障害福祉計画策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

加古川市在住の障害福祉サービス受給者もしくは障害者手帳所持者から無作為抽出
(平成29年度調査：加古川市在住の障害者手帳所持者から無作為抽出)

3 調査期間

令和2年7月22日から令和2年8月11日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	1,017通	50.9%

6 調査結果の表示方法

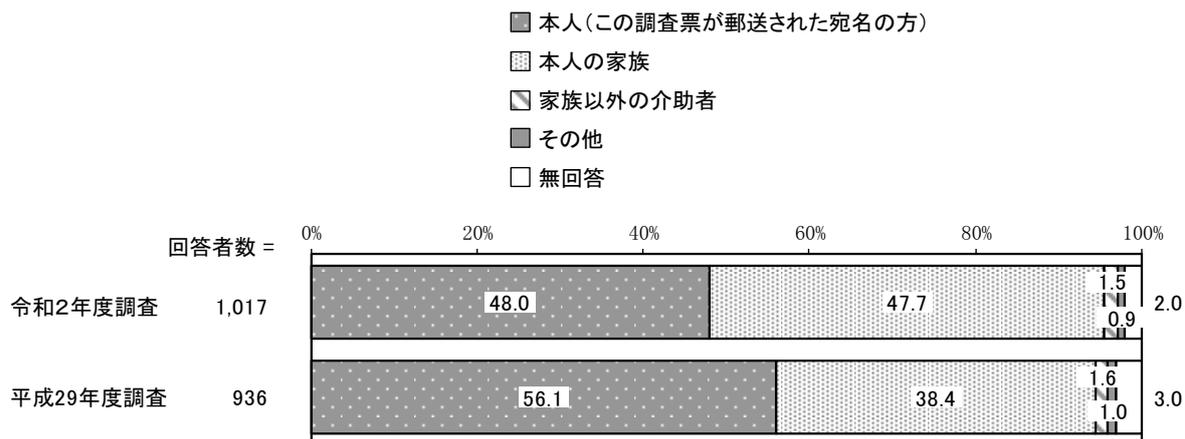
- ・今回の計画にあたり、調査対象者を変更しました。分析にあたり、基本的に前回の調査結果と比較していますが、調査対象者の変更に大きく影響が出るアンケート内容については解説しておりません。
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(〇は1つだけ)

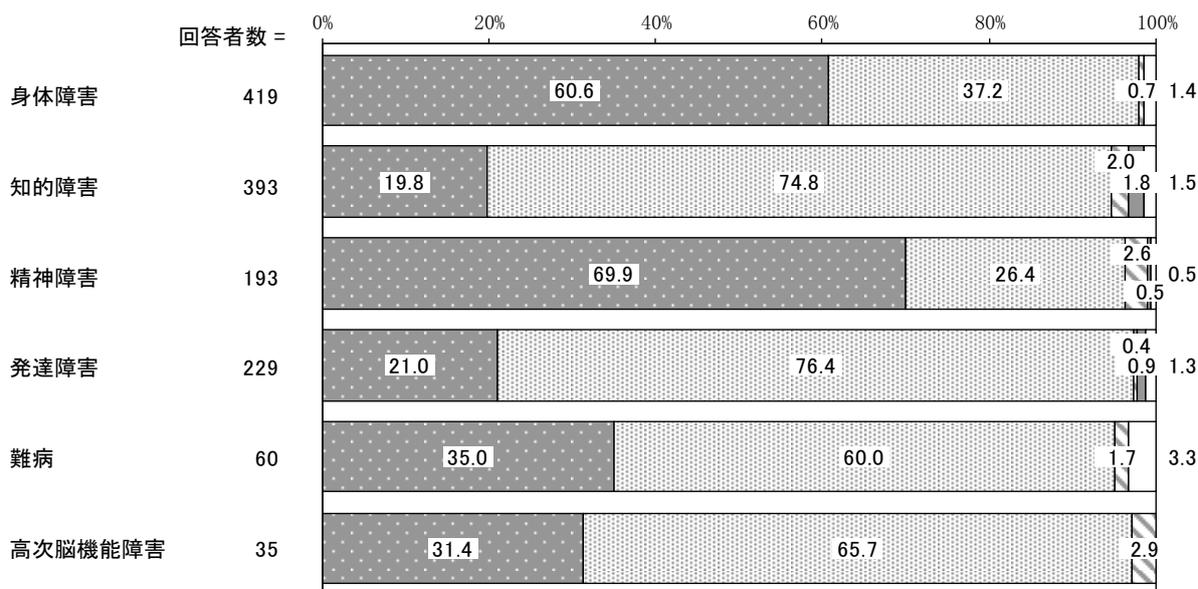
「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」の割合が48.0%と最も高く、次いで「本人の家族」の割合が47.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「本人の家族」の割合が増加しています。一方、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」の割合が減少しています。



【障がい種別】

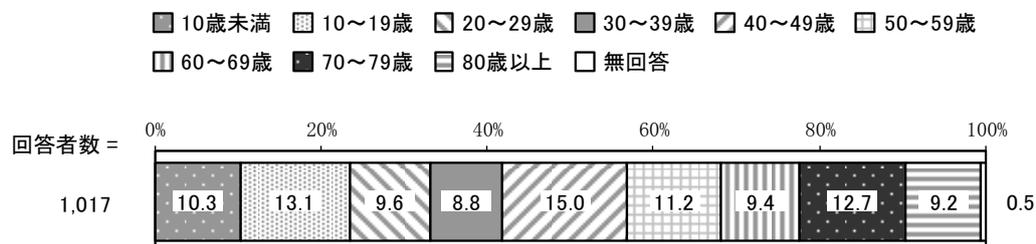
障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障害、発達障害で「本人の家族」の割合が高くなっています。



(1) 回答者属性

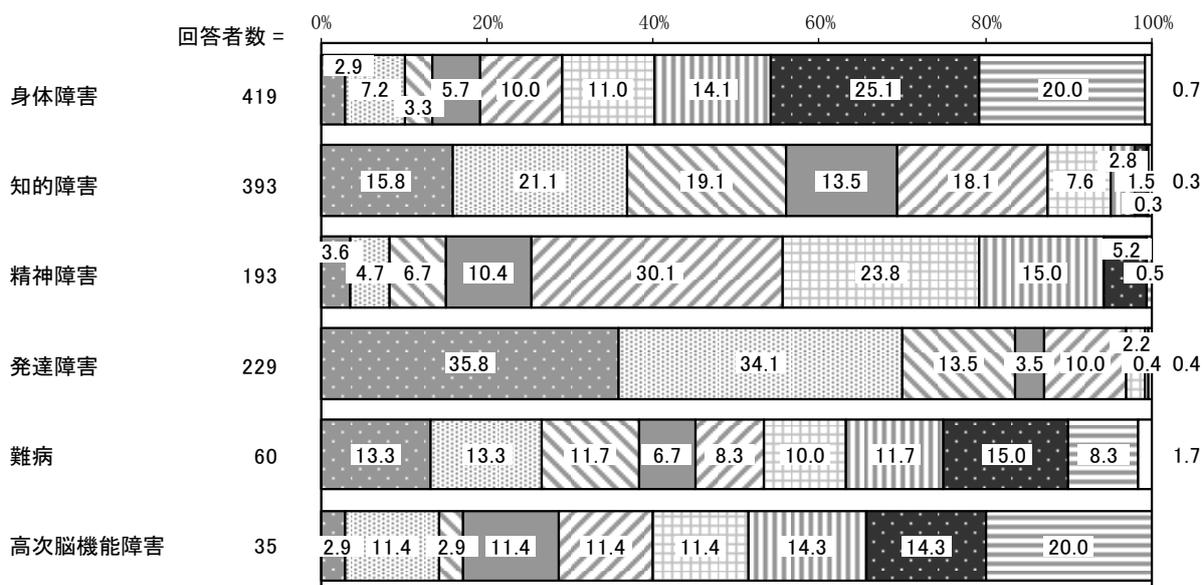
問2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年7月1日現在)

「40～49歳」の割合が15.0%と最も高く、次いで「10～19歳」の割合が13.1%、「70～79歳」の割合が12.7%となっています。



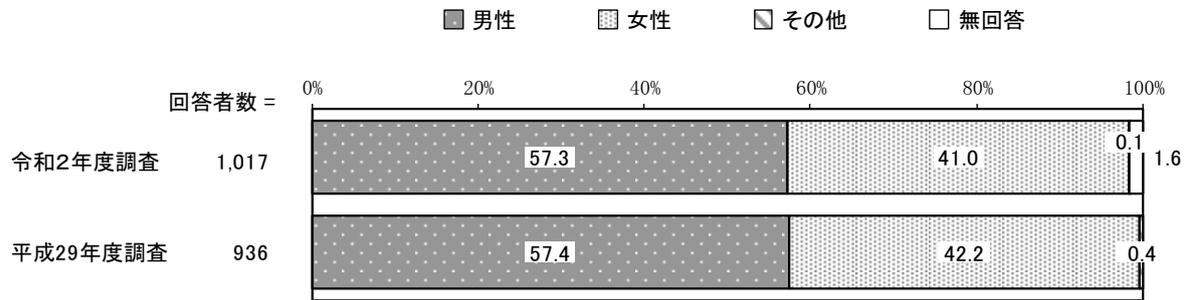
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「10歳未満」「10～19歳」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障害で「20～29歳」「30～39歳」の割合が、精神障害で「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」の割合が、身体障害で「70～79歳」「80歳以上」の割合が、高次脳機能障害で「80歳以上」の割合が高くなっています。



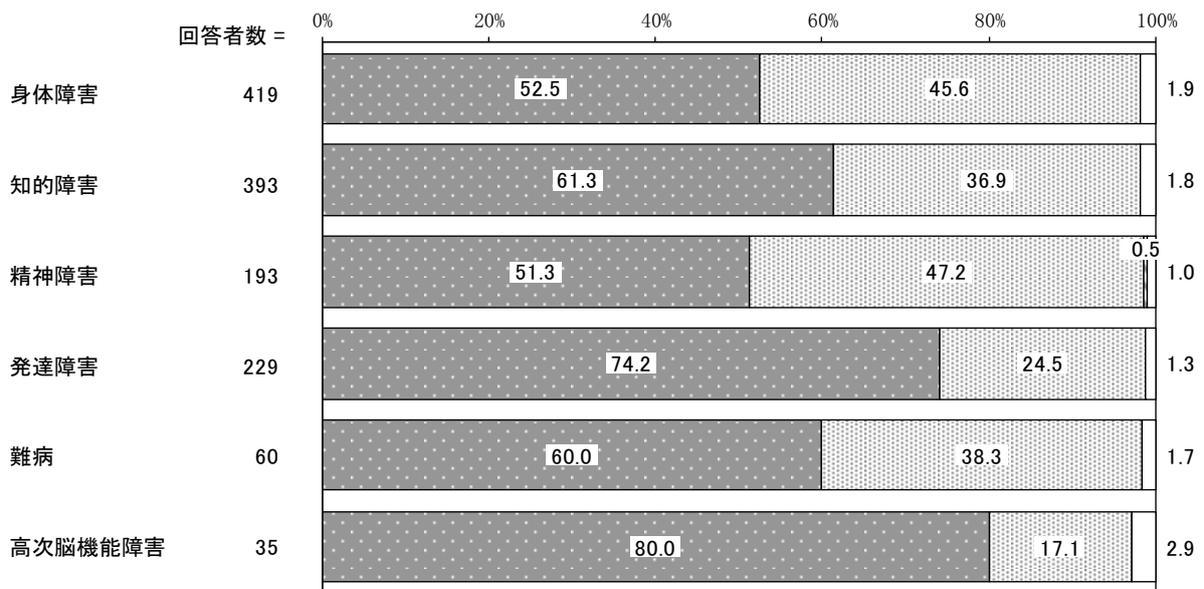
問3 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

「男性」の割合が57.3%、「女性」の割合が41.0%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

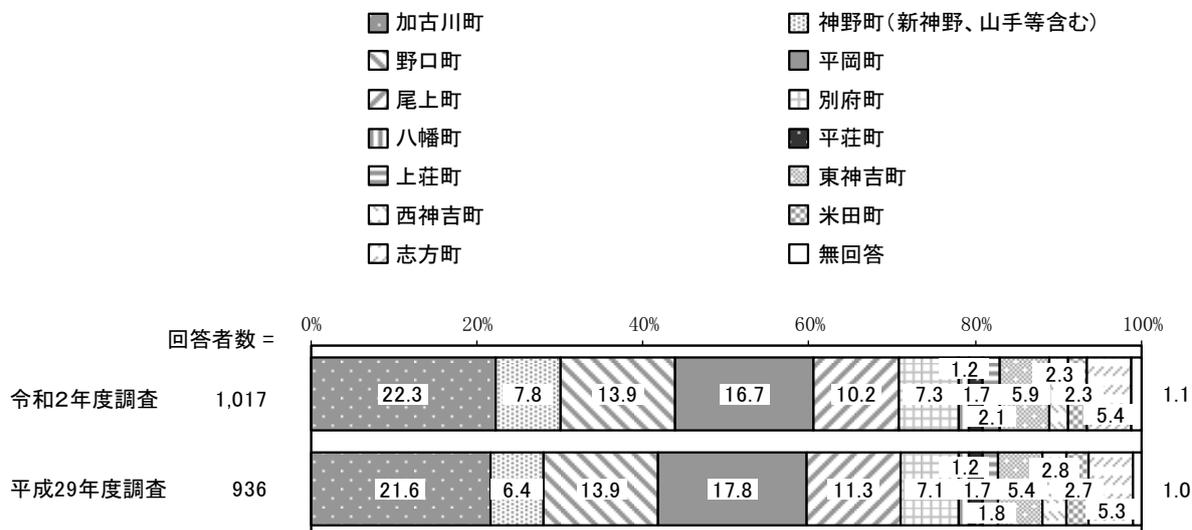
障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害、高次脳機能障害で「男性」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、身体障害、精神障害で「女性」の割合が高くなっています。



問4 あなたがお住まいの地域はどこですか。(〇は1つだけ)

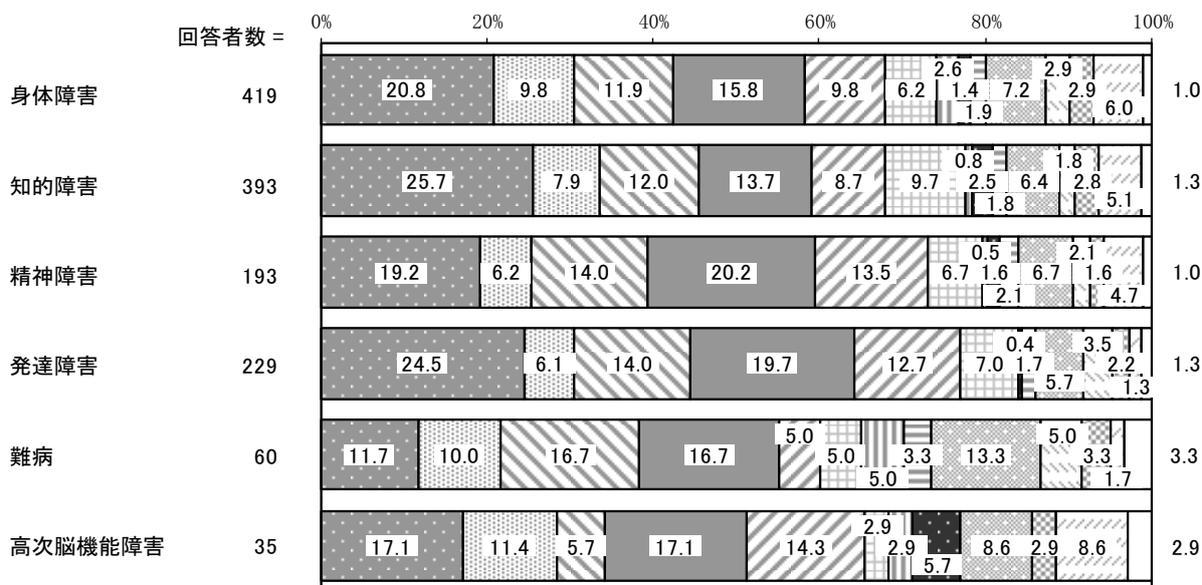
「加古川町」の割合が22.3%と最も高く、次いで「平岡町」の割合が16.7%、「野口町」の割合が13.9%となっています。町別の人口に概ね比例しています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

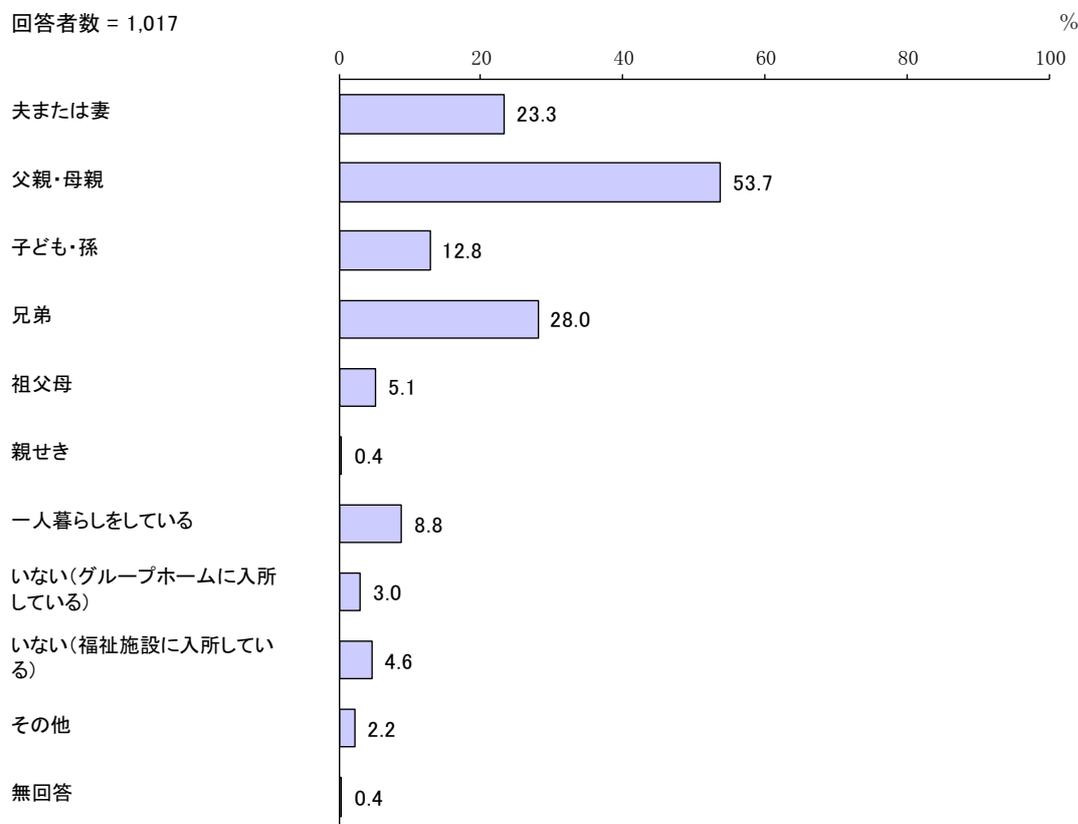
障がい種別で見ると、他に比べ、知的障害、発達障害で「加古川町」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「野口町」「東神吉町」の割合が、高次脳機能障害で「尾上町」の割合が高くなっています。



問5 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

「父親・母親」の割合が53.7%と最も高く、次いで「兄弟」の割合が28.0%、「夫または妻」の割合が23.3%となっています。

回答者数 = 1,017



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、身体障害、高次脳機能障害で「夫または妻」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「父親・母親」「兄弟」、身体障害で「子ども・孫」「一人暮らしをしている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	夫または妻	父親・母親	子ども・孫	兄弟	祖父母	親せき	一人暮らしをしている	いない(グループホームに入所している)	いない(福祉施設に入所している)	その他	無回答
身体障害	419	43.4	28.2	23.6	12.4	1.9	0.5	12.2	1.7	5.0	3.1	0.2
知的障害	393	3.1	81.7	2.3	42.7	8.4	0.5	3.3	2.3	4.8	2.5	0.3
精神障害	193	16.6	52.3	9.3	26.4	2.1	—	11.4	8.3	3.6	4.7	0.5
発達障害	229	3.5	90.8	3.1	62.9	9.6	—	0.9	0.4	1.3	0.9	0.4
難病	60	26.7	53.3	13.3	25.0	6.7	—	8.3	1.7	6.7	1.7	1.7
高次脳機能障害	35	42.9	34.3	11.4	11.4	—	—	8.6	8.6	2.9	2.9	—

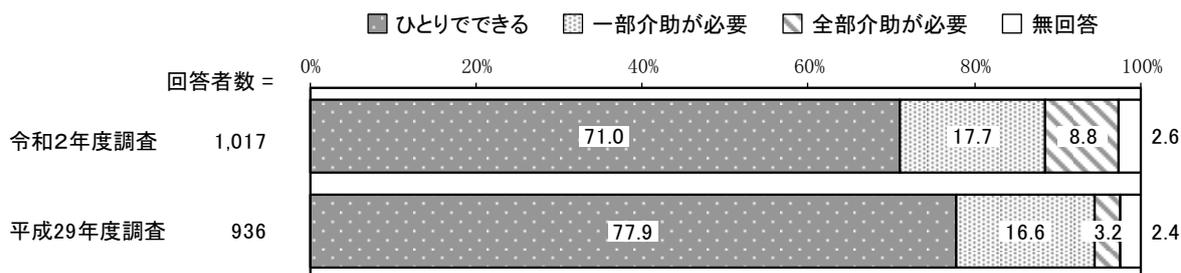
問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①～⑩のそれぞれにお答えください。(①～⑩それぞれに○を1つ)

※今回、調査対象者を変更したため、平成29年度調査と比べ、大きく差が出ている可能性があります。

①食事

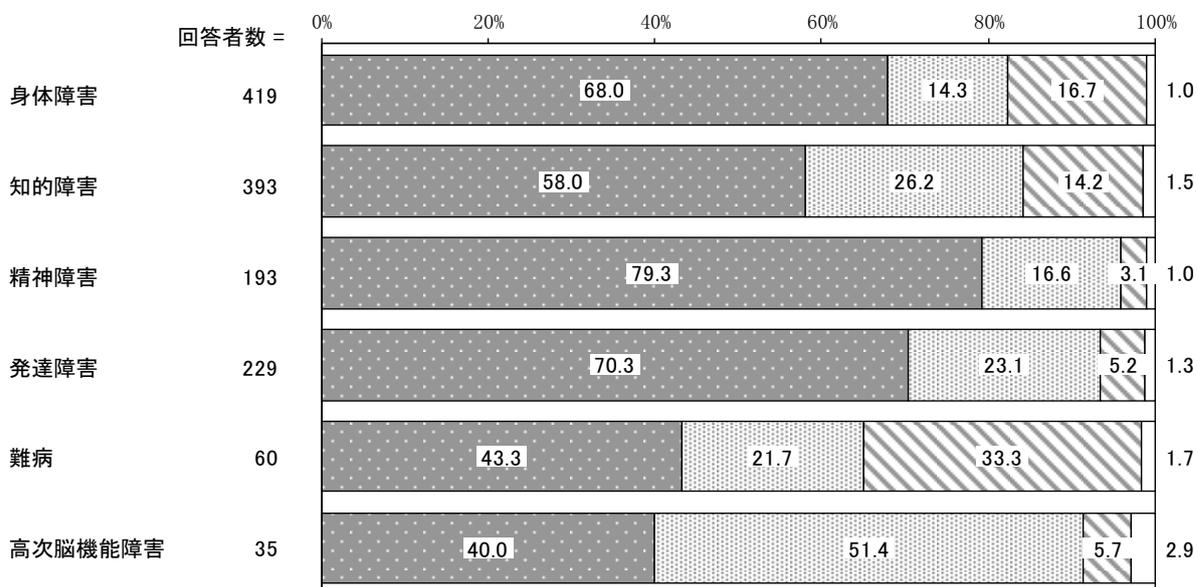
「ひとりでできる」の割合が71.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が17.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

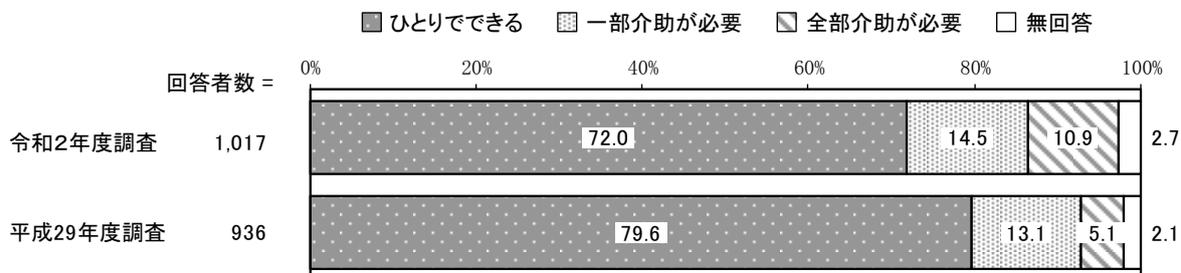
障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



②トイレ

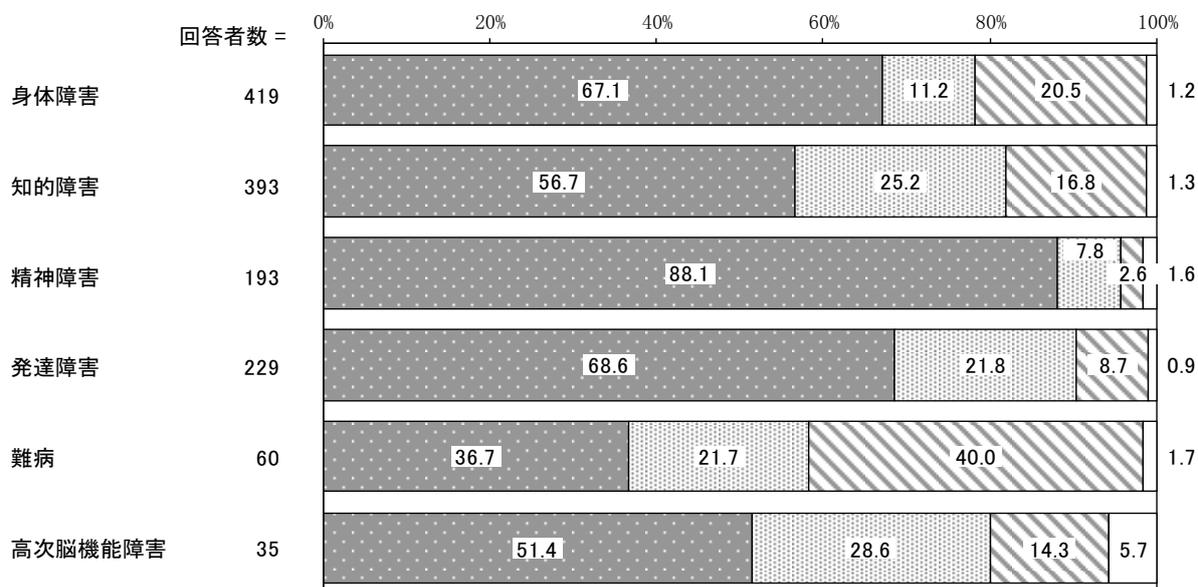
「ひとりでできる」の割合が72.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が14.5%、「全部介助が必要」の割合が10.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

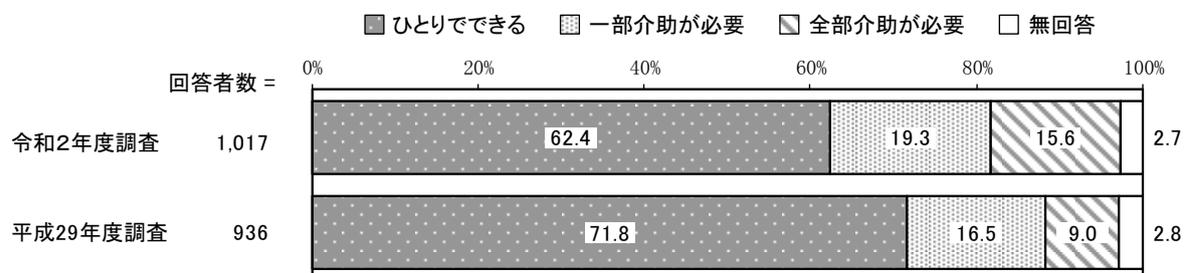
障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



③入浴

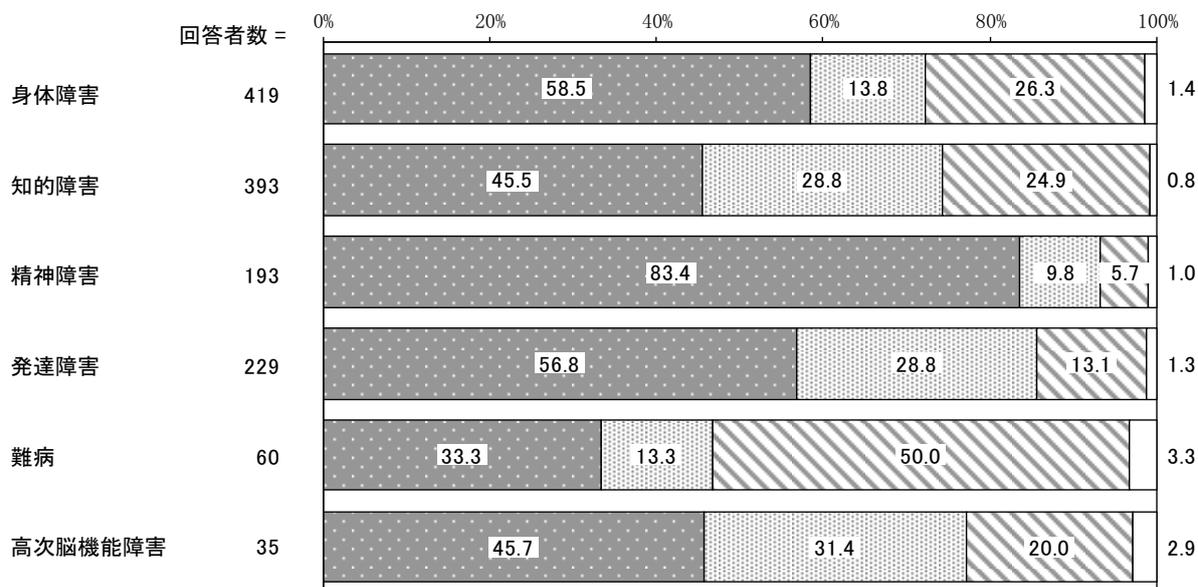
「ひとりでできる」の割合が62.4%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が19.3%、「全部介助が必要」の割合が15.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

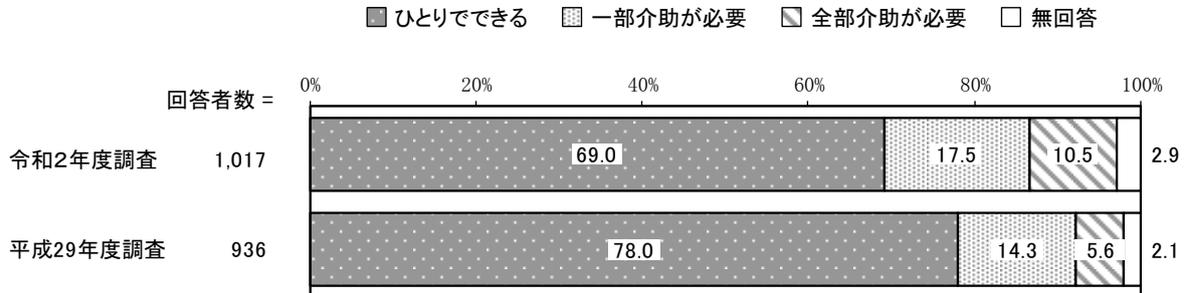
障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



④衣服の着脱

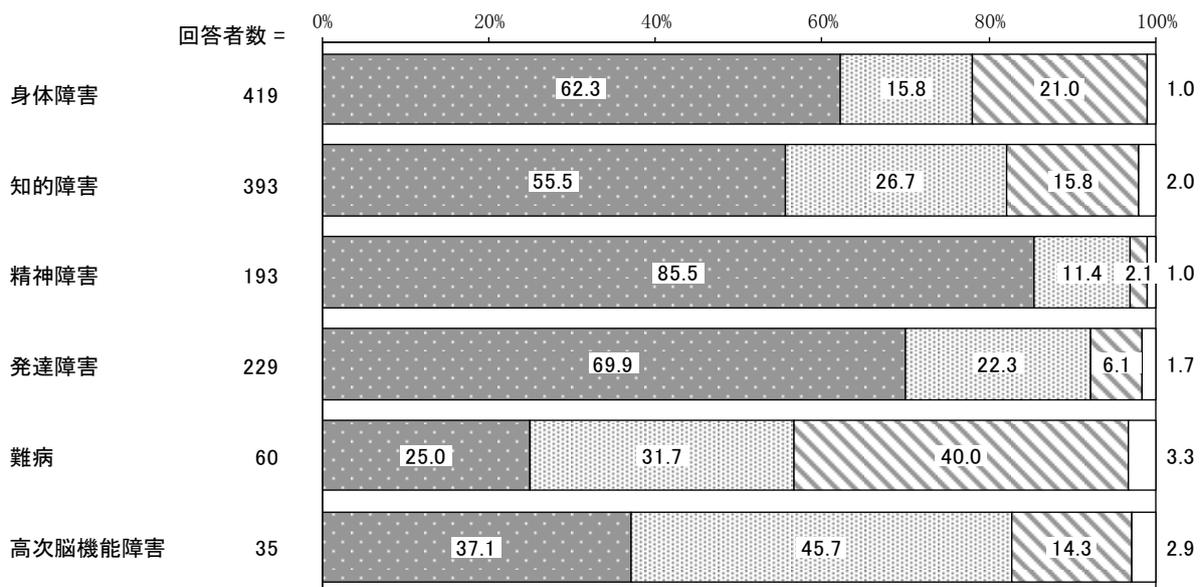
「ひとりでできる」の割合が69.0%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が17.5%、「全部介助が必要」の割合が10.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

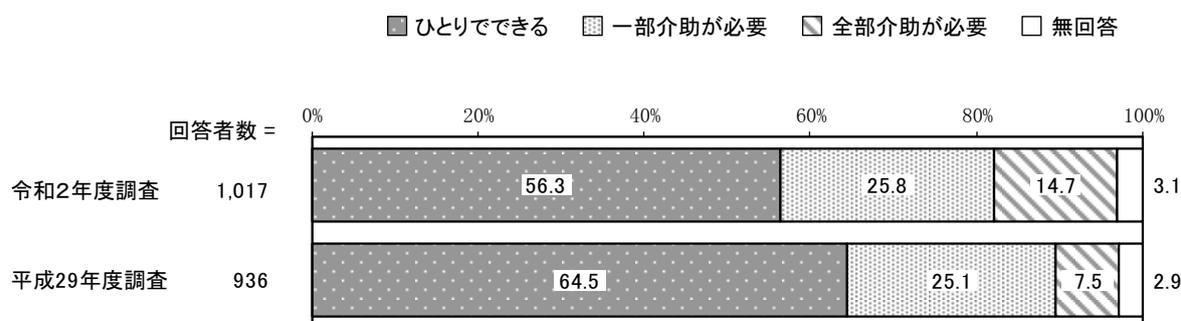
障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



⑤身だしなみ

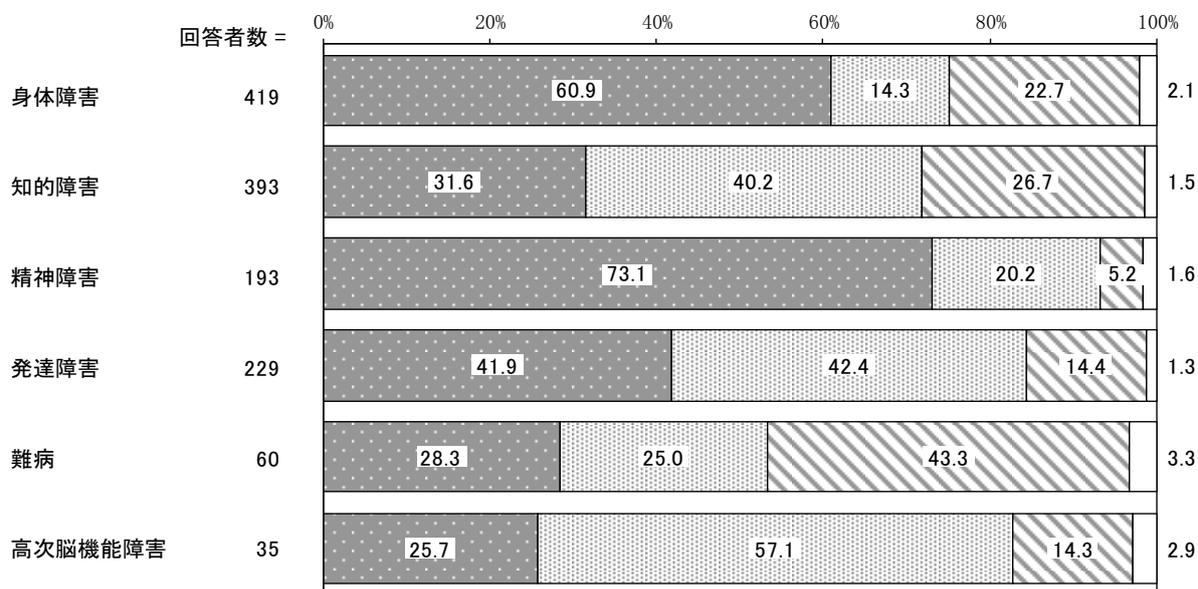
「ひとりでできる」の割合が56.3%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が25.8%、「全部介助が必要」の割合が14.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



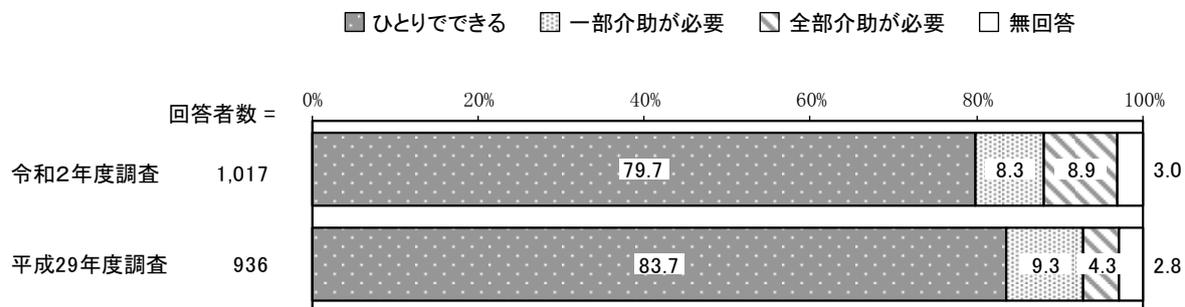
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



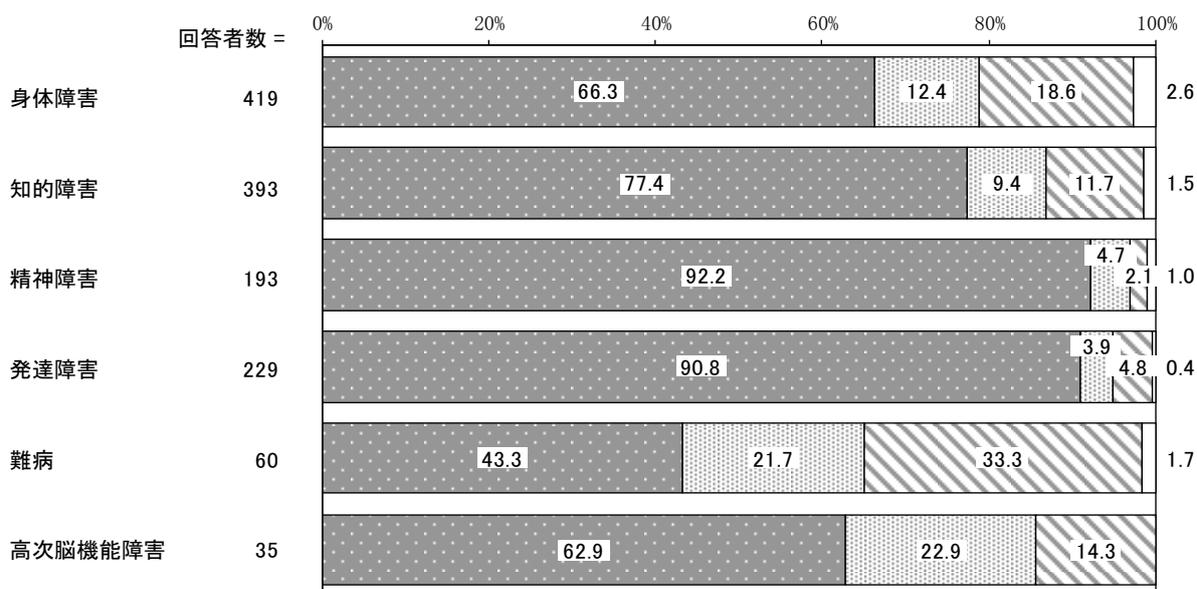
⑥家の中の移動

「ひとりでできる」の割合が79.7%と最も高くなっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

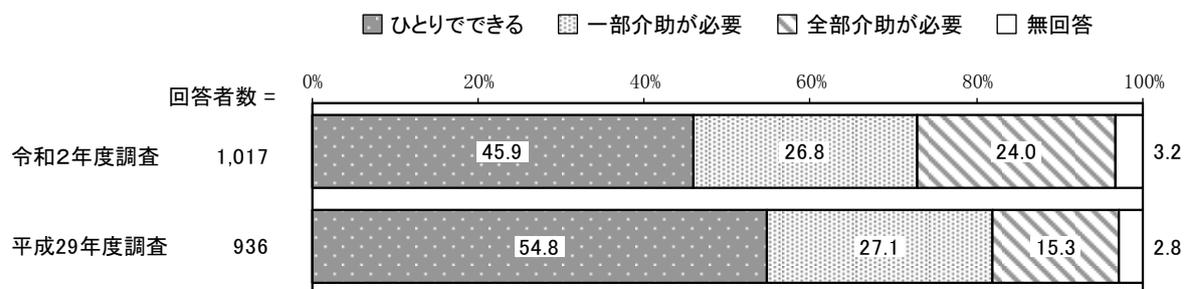
障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害、発達障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



⑦外出

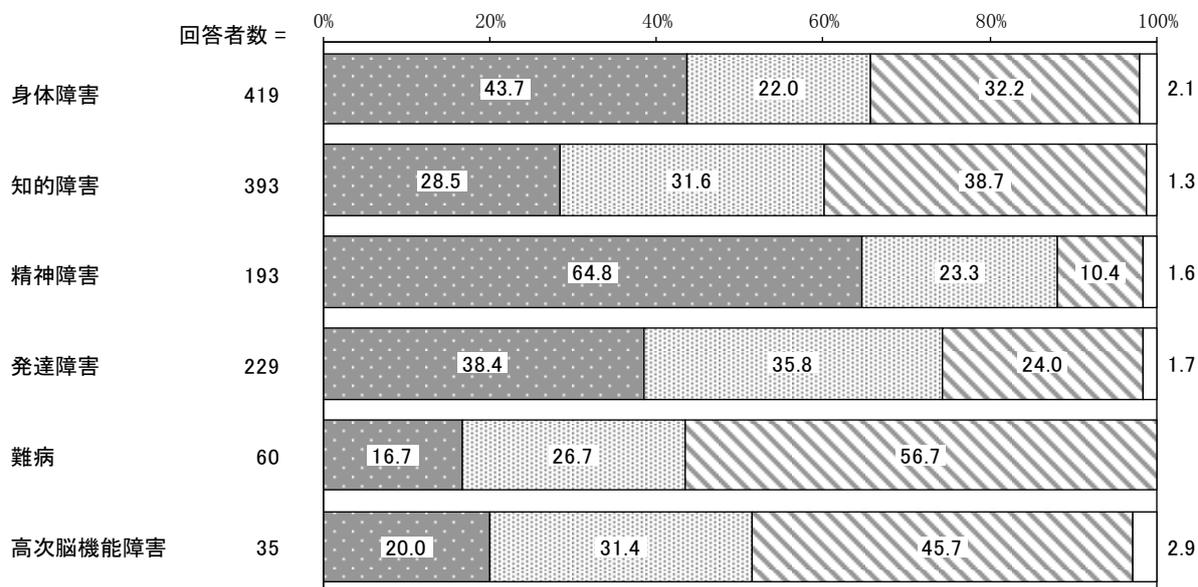
「ひとりでできる」の割合が45.9%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が26.8%、「全部介助が必要」の割合が24.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

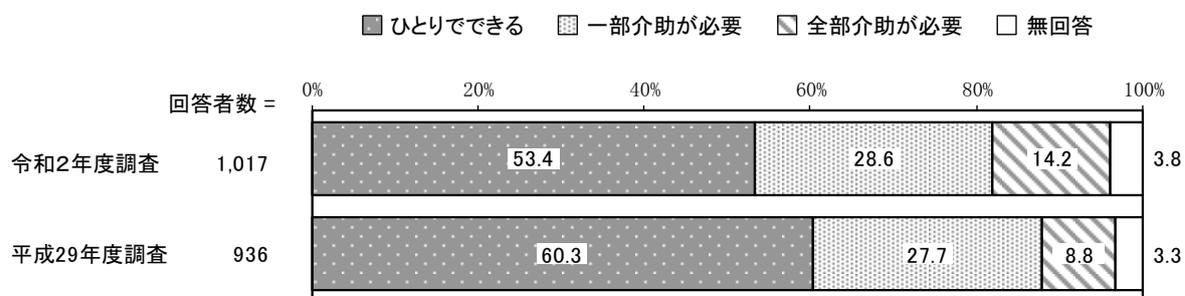
障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



⑧家族以外の人との意思疎通

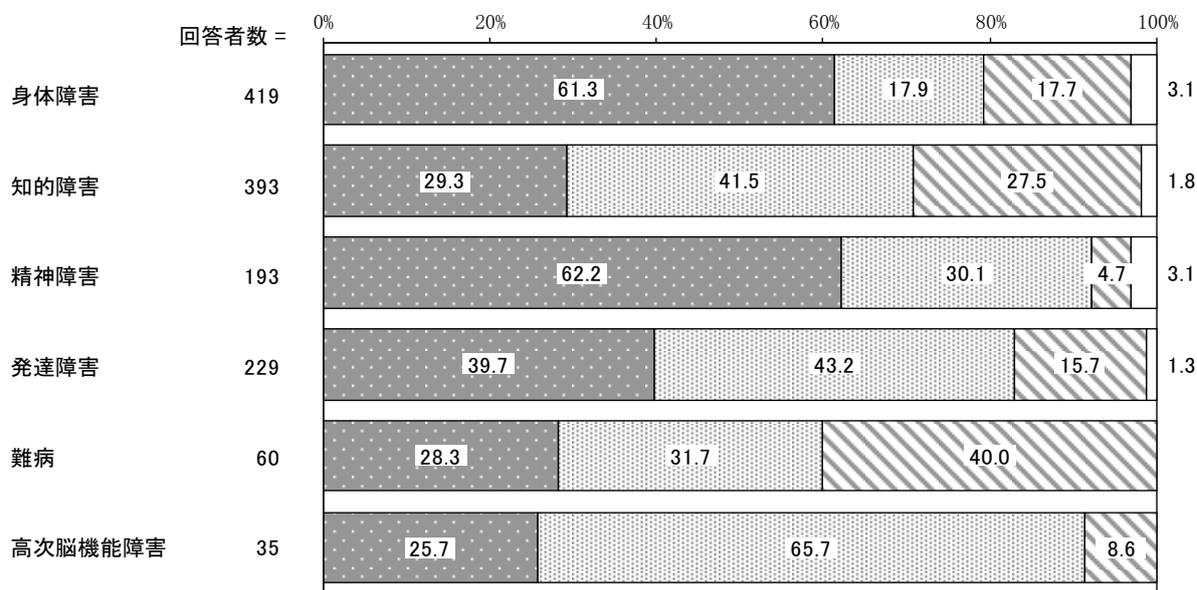
「ひとりでできる」の割合が53.4%と最も高く、次いで「一部介助が必要」の割合が28.6%、「全部介助が必要」の割合が14.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

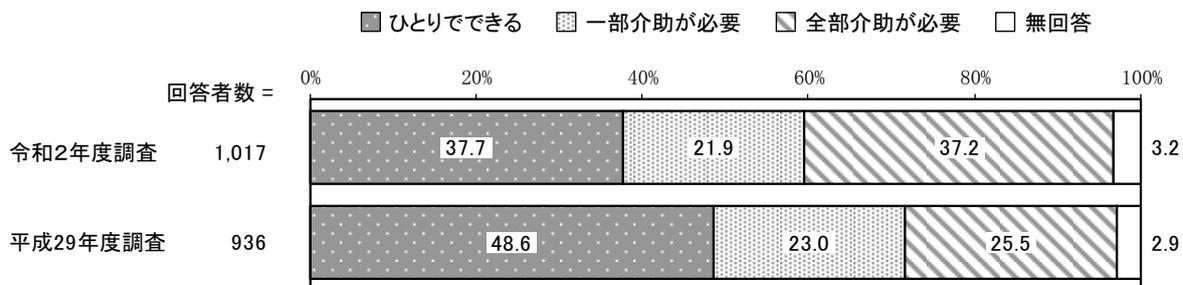
障がい種別でみると、他に比べ、身体障害、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、難病で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



⑨お金の管理

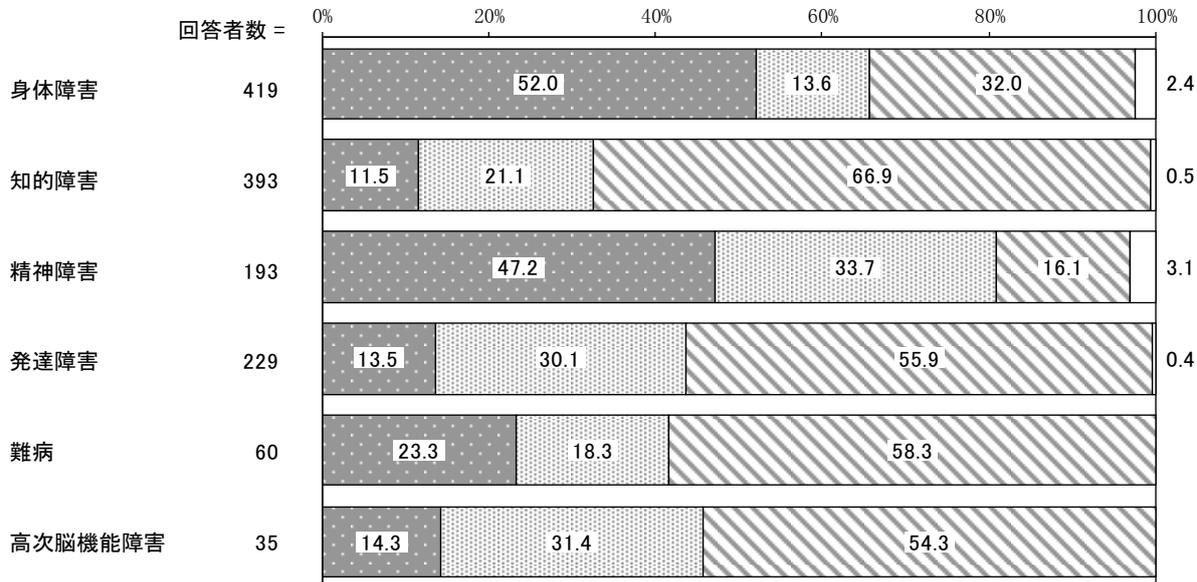
「ひとりでできる」の割合が37.7%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が37.2%、「一部介助が必要」の割合が21.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

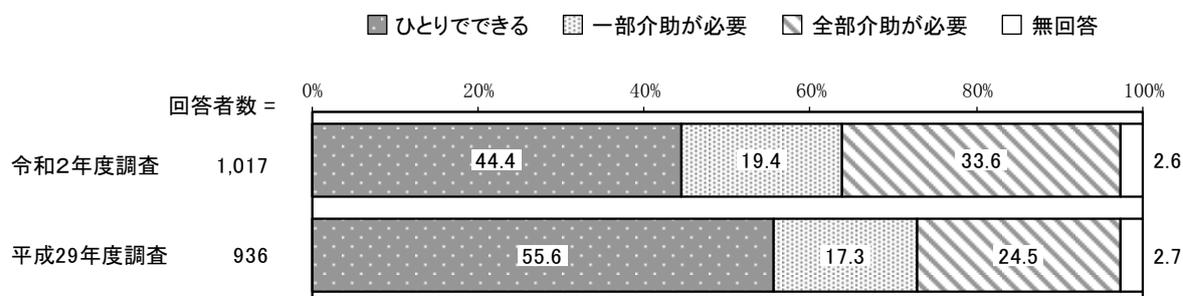
障がい種別で見ると、他に比べ、身体障害、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障害で「一部介助が必要」の割合が、知的障害で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。



⑩薬の管理

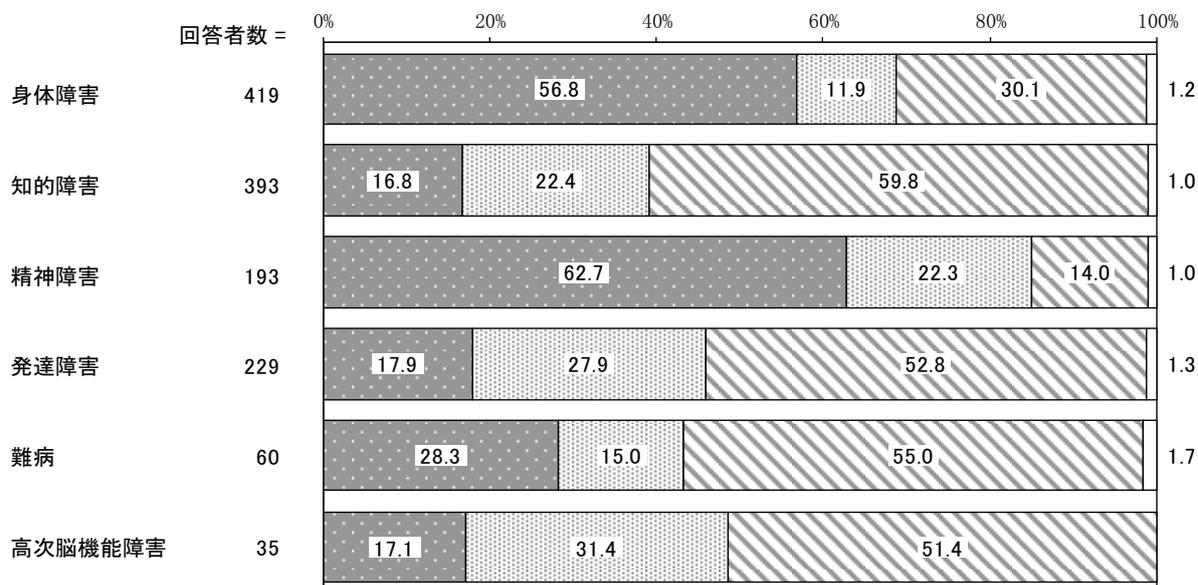
「ひとりでできる」の割合が44.4%と最も高く、次いで「全部介助が必要」の割合が33.6%、「一部介助が必要」の割合が19.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「全部介助が必要」の割合が増加しています。一方、「ひとりでできる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「一部介助が必要」の割合が、知的障害で「全部介助が必要」の割合が高くなっています。

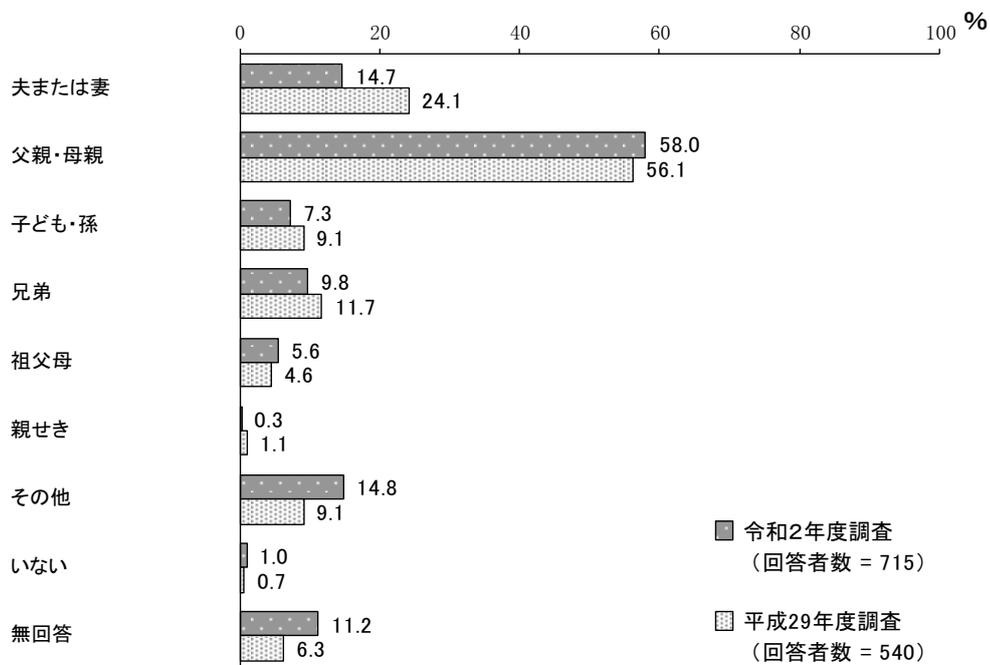


問6で「一部介助が必要」または「全部介助が必要」と答えた方にお聞きします。

問7 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「父親・母親」の割合が58.0%と最も高く、次いで「夫または妻」の割合が14.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「夫または妻」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「夫または妻」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「父親・母親」の割合が、身体障害で「子ども・孫」の割合が、精神障害で「兄弟」の割合が、難病で「祖父母」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	夫または妻	父親・母親	子ども・孫	兄弟	祖父母	親せき	その他	いない	無回答
身体障害	263	29.7	36.5	18.3	6.5	4.2	—	18.3	0.8	9.5
知的障害	358	1.4	77.9	0.6	12.0	8.4	0.6	11.7	0.8	10.6
精神障害	123	19.5	47.2	2.4	13.8	0.8	—	20.3	3.3	11.4
発達障害	203	0.5	82.8	0.5	9.4	7.9	1.0	5.4	1.0	12.8
難病	52	23.1	59.6	15.4	11.5	13.5	1.9	11.5	—	5.8
高次脳機能障害	34	44.1	32.4	5.9	2.9	2.9	—	14.7	—	11.8

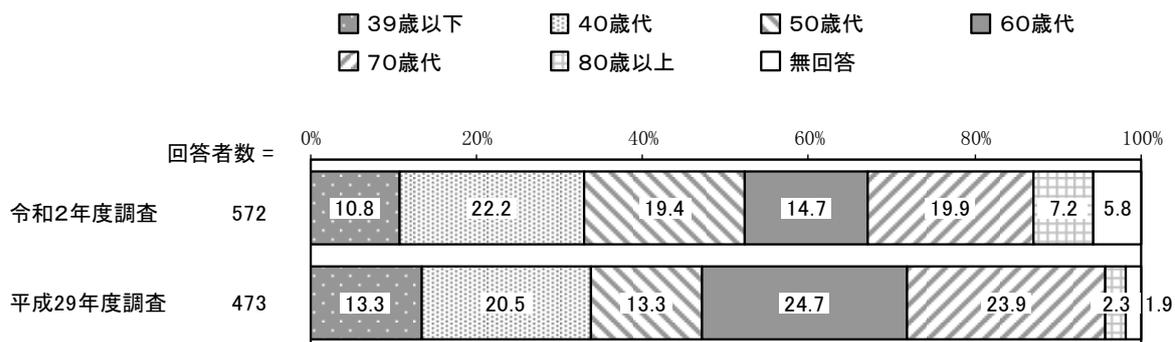
問7で「1」～「6」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方についてお答えください。

①年代（令和2年7月1日現在）

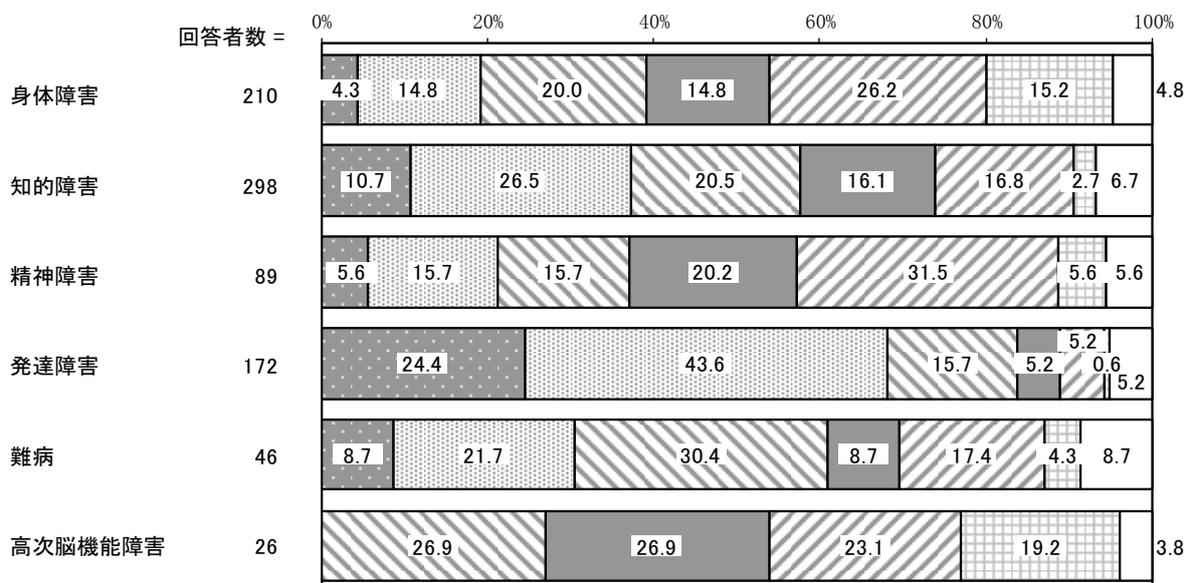
「40歳代」の割合が22.2%と最も高く、次いで「70歳代」の割合が19.9%、「50歳代」の割合が19.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「50歳代」の割合が増加しています。一方、「60歳代」の割合が減少しています。



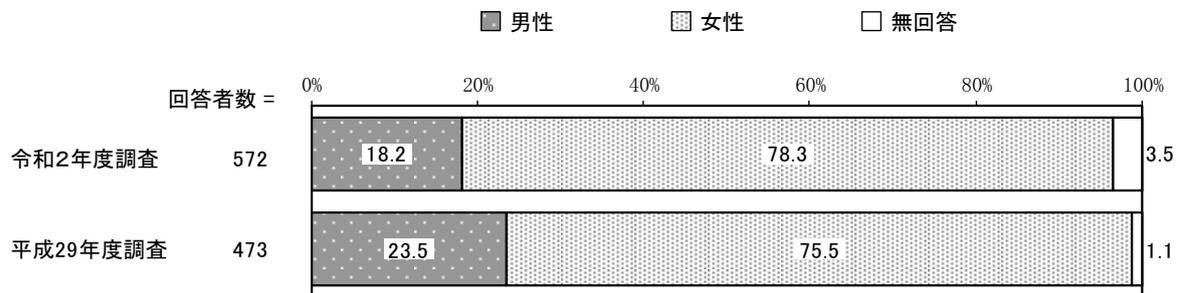
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「39歳以下」「40歳代」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「50歳代」の割合が、高次脳機能障害で「60歳代」「80歳以上」の割合が、精神障害で「70歳代」の割合が高くなっています。



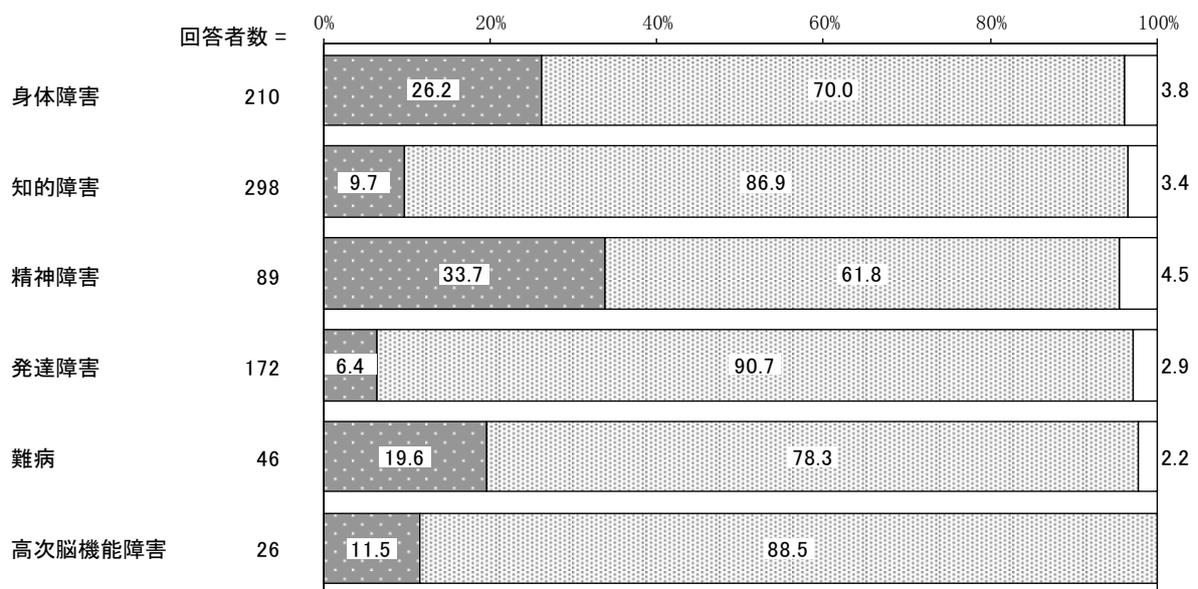
②性別（いずれか1つに○）

「男性」の割合が18.2%、「女性」の割合が78.3%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「男性」の割合が減少しています。



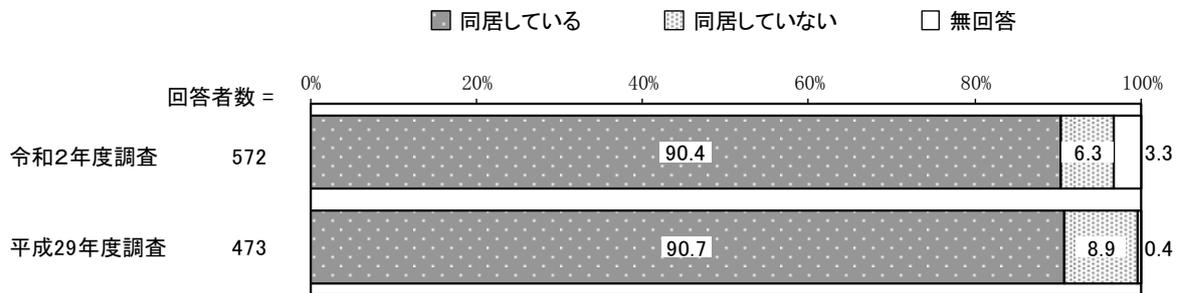
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「男性」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「女性」の割合が高くなっています。



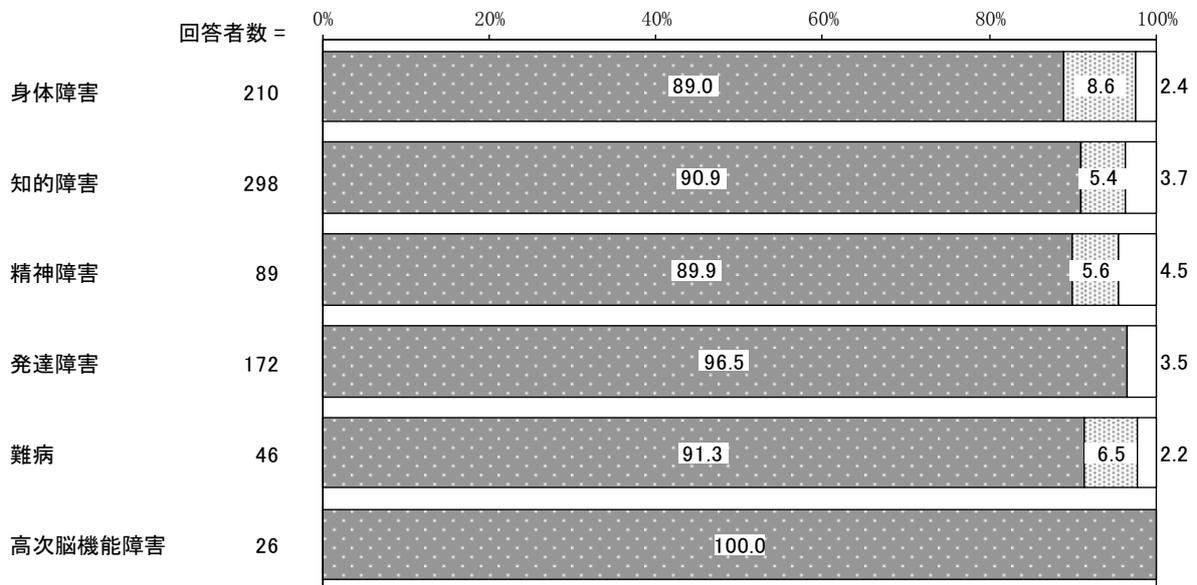
③主な介助者はあなたと同居していますか（いずれか1つに○）

「同居している」の割合が90.4%、「同居していない」の割合が6.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

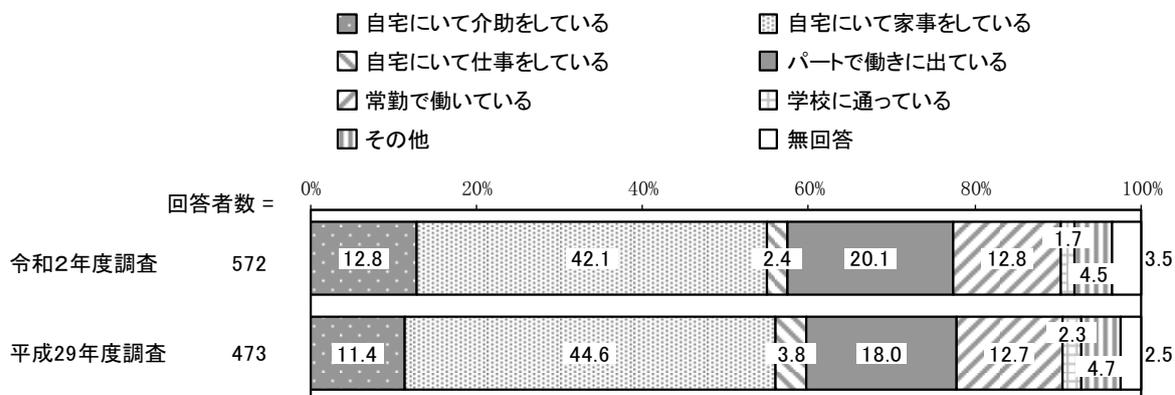
障がい種別で見ると、大きな差異はみられません。



④主な介助者の昼間の生活状況は、次のうちどれに当てはまりますか。(○は1つだけ)

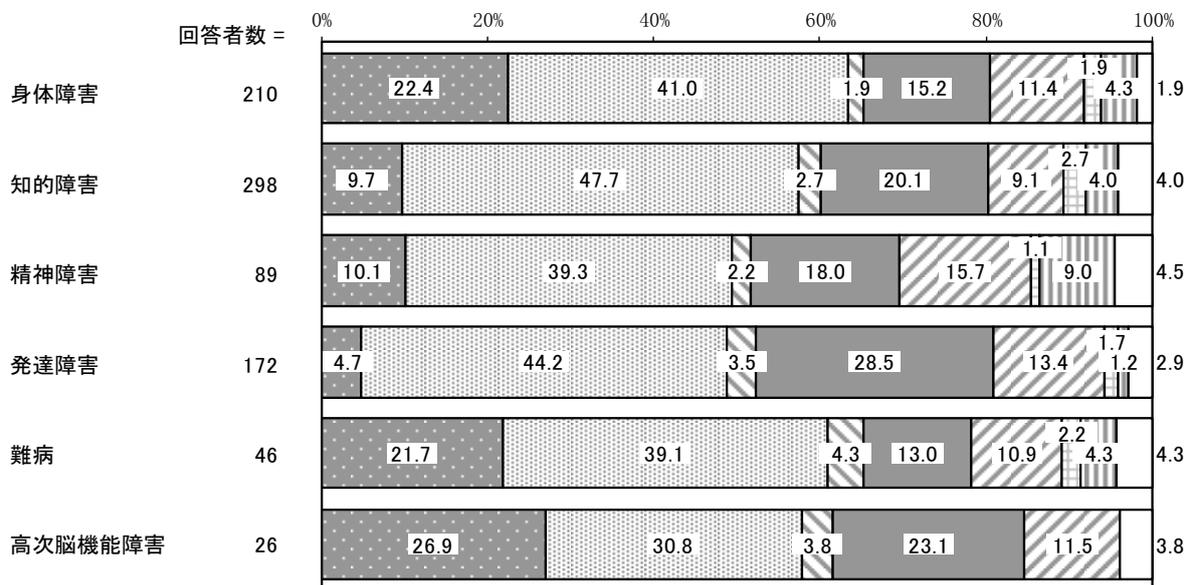
「自宅にいて家事をしている」の割合が42.1%と最も高く、次いで「パートで働きに出ている」の割合が20.1%、「自宅にいて介助をしている」、「常勤で働いている」の割合が12.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「自宅にいて介助をしている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障害で「自宅にいて家事をしている」の割合が、発達障害で「パートで働きに出ている」の割合が高くなっています。

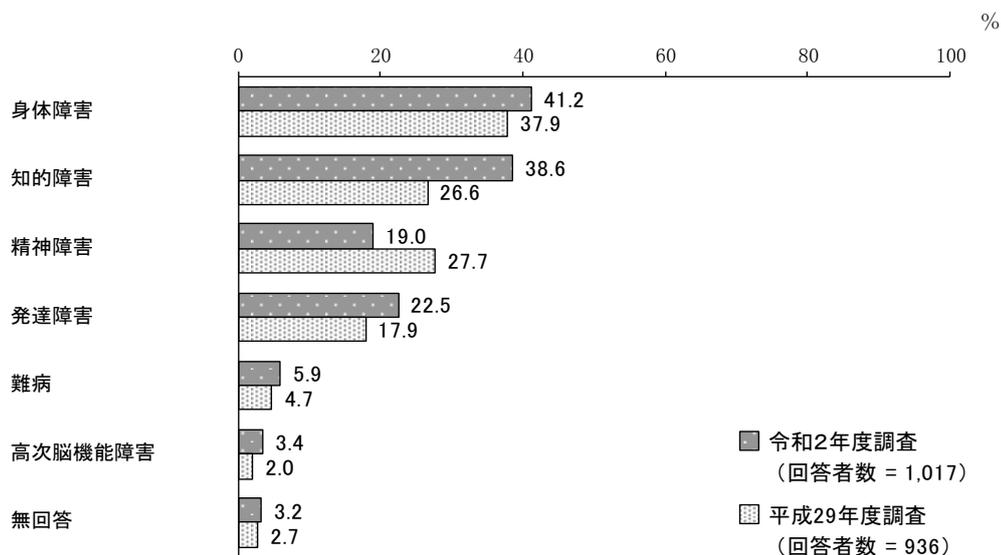


(2) あなたの障害の状況について

問9 あなたの障害は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

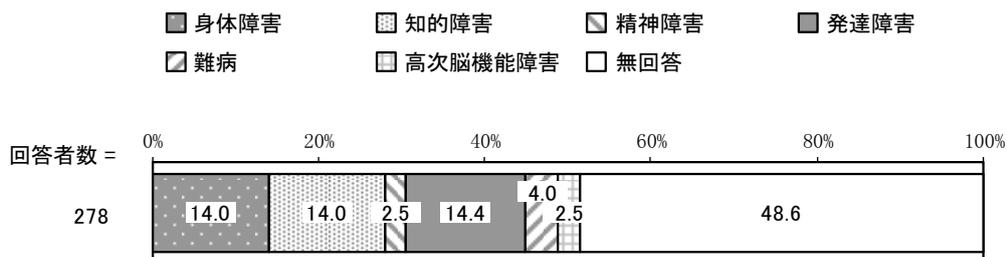
「身体障害」の割合が41.2%と最も高く、次いで「知的障害」の割合が38.6%、「発達障害」の割合が22.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「知的障害」の割合が増加しています。一方、「精神障害」の割合が減少しています。



【主な障害】

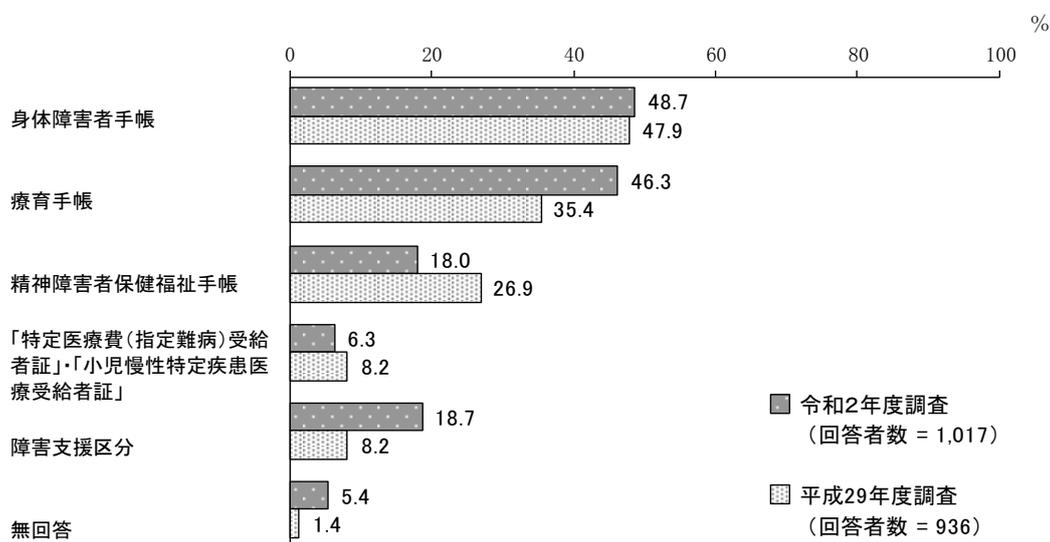
「発達障害」の割合が14.4%と最も高く、次いで「身体障害」、「知的障害」の割合が14.0%となっていますが、無回答が多く、正確なものとはいえません。



問 10 あなたがお持ちの障害者手帳などについてお答えください。

「身体障害者手帳」の割合が48.7%と最も高く、次いで「療育手帳」の割合が46.3%、「障害支援区分」の割合が18.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「療育手帳」「障害支援区分」の割合が増加しています。一方、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、身体障害で「身体障害者手帳」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障害で「療育手帳」「障害支援区分」の割合が、精神障害で「精神障害者保健福祉手帳」の割合が、難病で「特定医療費(指定難病)受給者証」・「小児慢性特定疾患医療受給者証」の割合が高くなっています。

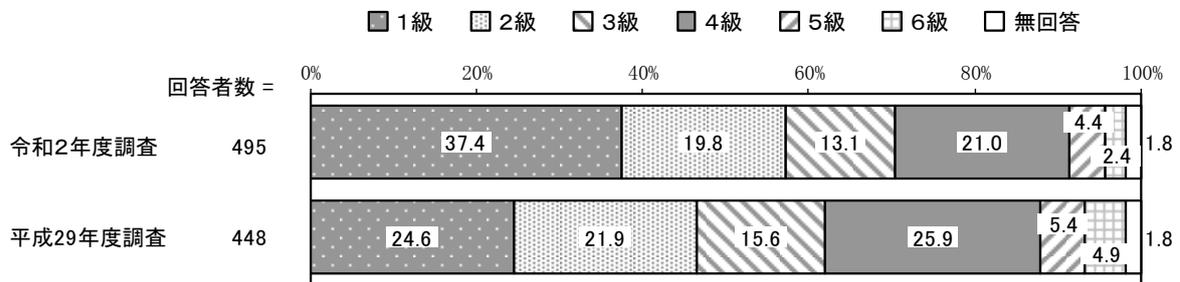
単位：%

区分	有効回答数(件)	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	「特定医療費(指定難病)受給者証」・「小児慢性特定疾患医療受給者証」	障害支援区分	無回答
身体障害	419	97.1	22.4	4.1	8.6	17.7	1.2
知的障害	393	25.2	94.1	8.4	7.6	32.8	2.5
精神障害	193	26.4	19.7	73.1	7.8	18.7	7.3
発達障害	229	9.6	79.9	7.9	3.1	11.8	12.7
難病	60	85.0	43.3	11.7	43.3	30.0	1.7
高次脳機能障害	35	77.1	22.9	22.9	2.9	22.9	2.9

1. 身体障害者手帳 (1) 等級は何級ですか。(いずれか1つに○)

「1級」の割合が37.4%と最も高く、次いで「4級」の割合が21.0%、「2級」の割合が19.8%となっています。

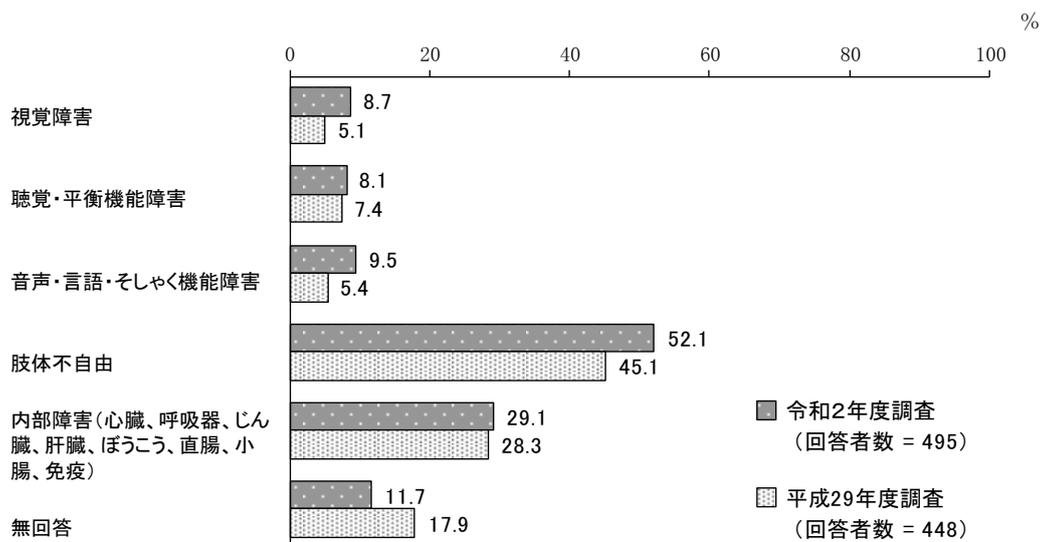
平成29年度調査と比較すると、「1級」の割合が増加しています。



1. 身体障害者手帳 (2) 障害は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「肢体不自由」の割合が52.1%と最も高く、次いで「内部障害(心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫)」の割合が29.1%となっています。

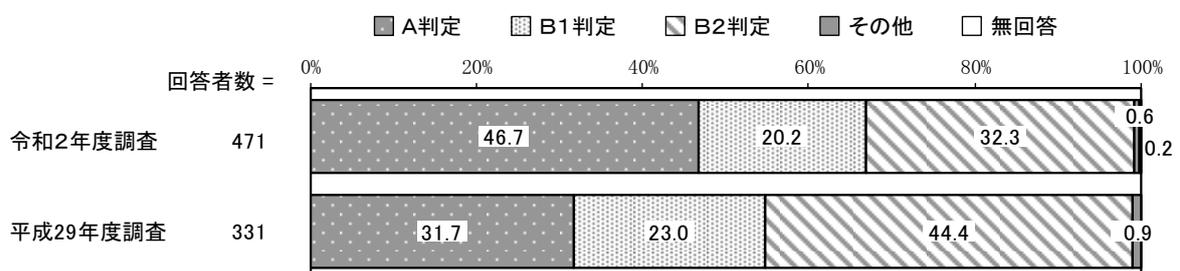
平成29年度調査と比較すると、「肢体不自由」の割合が増加しています。



2. 療育手帳 判定は何判定ですか。(いずれか1つに○)

「A判定」の割合が46.7%と最も高く、次いで「B2判定」の割合が32.3%、「B1判定」の割合が20.2%となっています。

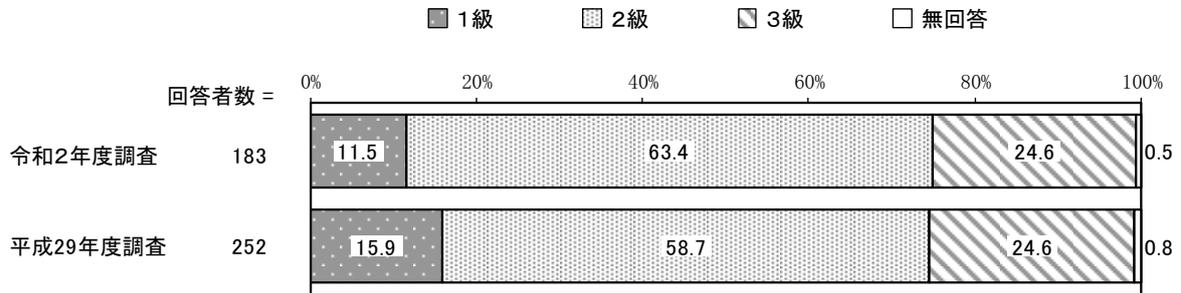
平成29年度調査と比較すると、「A判定」の割合が増加しています。一方、「B2判定」の割合が減少しています。



3. 精神障害者保健福祉手帳 等級は何級ですか。(いずれか1つに○)

「2級」の割合が63.4%と最も高く、次いで「3級」の割合が24.6%、「1級」の割合が11.5%となっています。

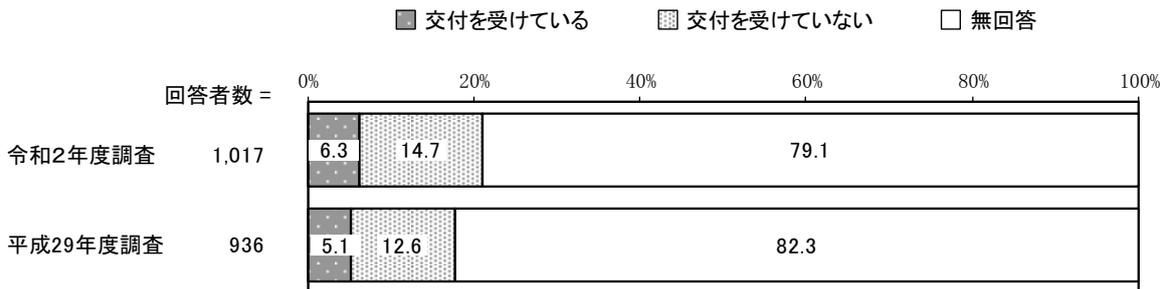
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



4. 「特定医療費（指定難病）受給者証」・「小児慢性特定疾患医療受給者証」(いずれか1つに○)

「交付を受けている」の割合が6.3%、「交付を受けていない」の割合が14.7%となっています。

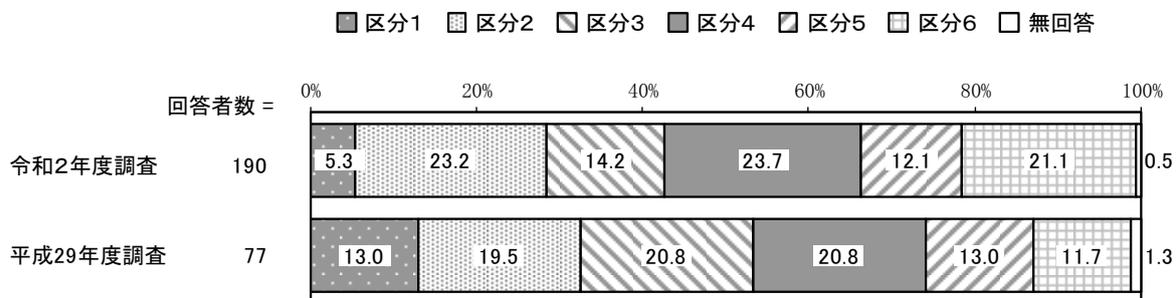
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



5. 障害支援区分 受けている区分はどれですか。(いずれか1つに○)

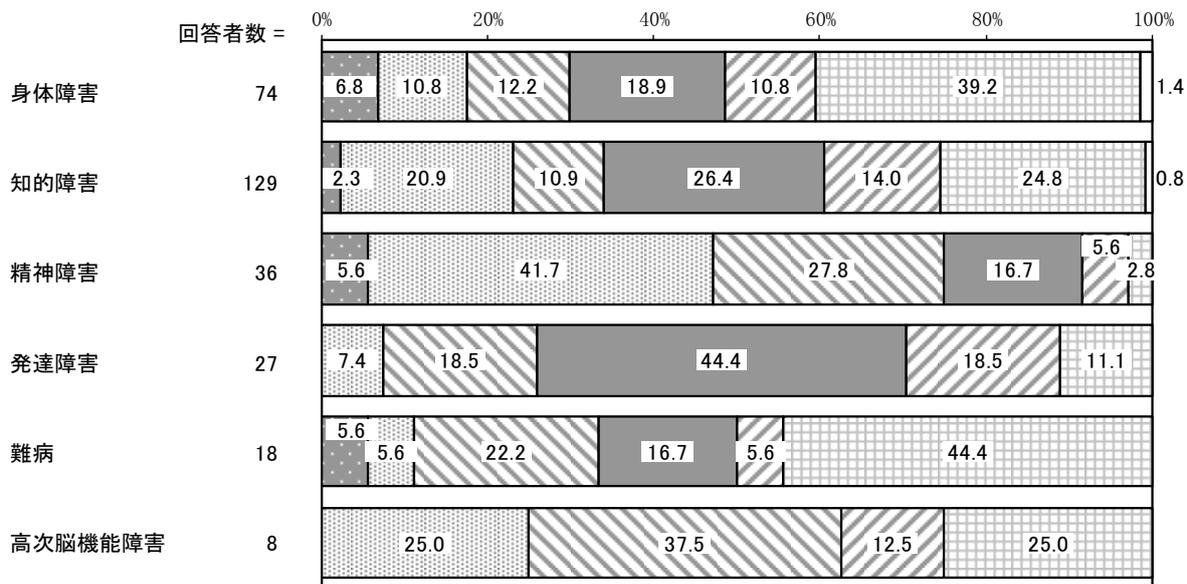
「区分4」の割合が23.7%と最も高く、次いで「区分2」の割合が23.2%、「区分6」の割合が21.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「区分6」の割合が増加しています。一方、「区分1」「区分3」の割合が減少しています。



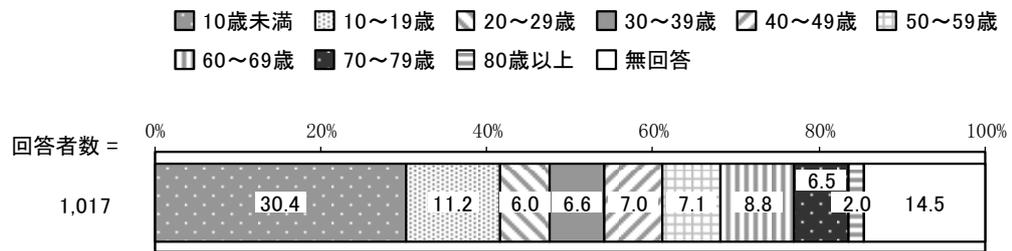
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「区分2」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「区分3」の割合が、発達障害で「区分4」「区分5」の割合が、難病で「区分6」の割合が高くなっています。



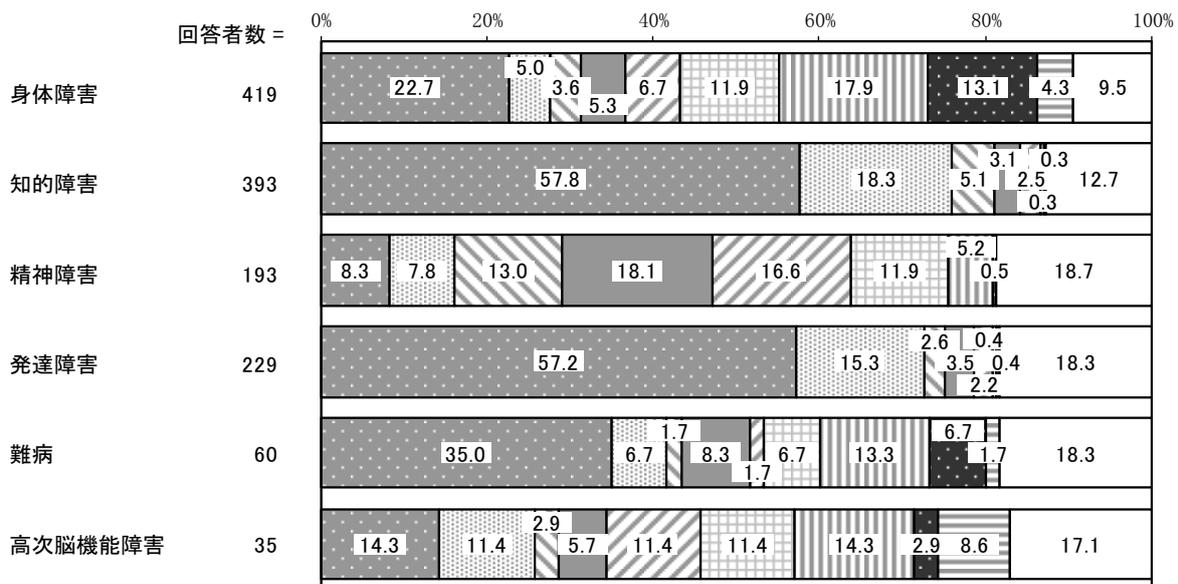
問 11 あなたが障害者手帳を初めて取得したのは何歳のときですか。

「10歳未満」の割合が30.4%と最も高く、次いで「10～19歳」の割合が11.2%となっています。



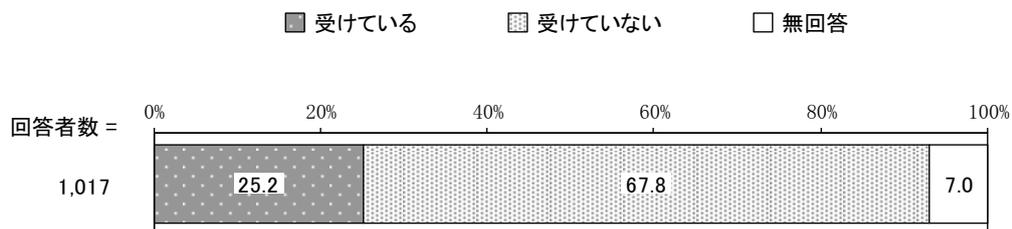
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、知的障害、発達障害で「10歳未満」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障害で「10～19歳」の割合が、精神障害で「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」の割合が、身体障害で「50～59歳」「60～69歳」「70～79歳」の割合が高くなっています。



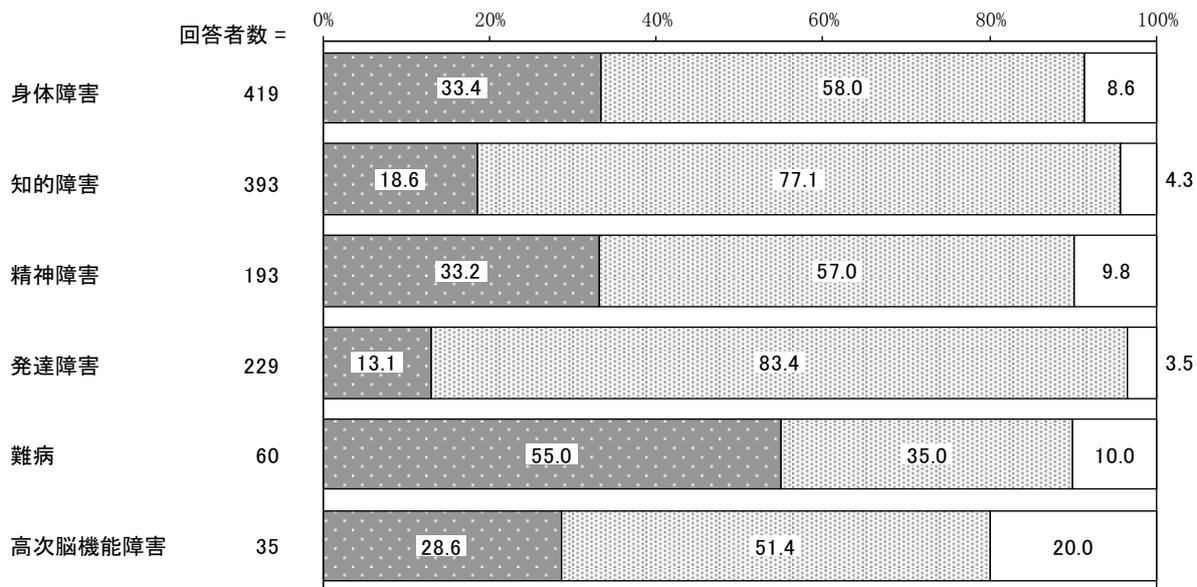
問 12 あなたは、医療的ケアを受けていますか。(いずれか1つに○)

「受けている」の割合が25.2%、「受けていない」の割合が67.8%となっています。



【障がい種別】

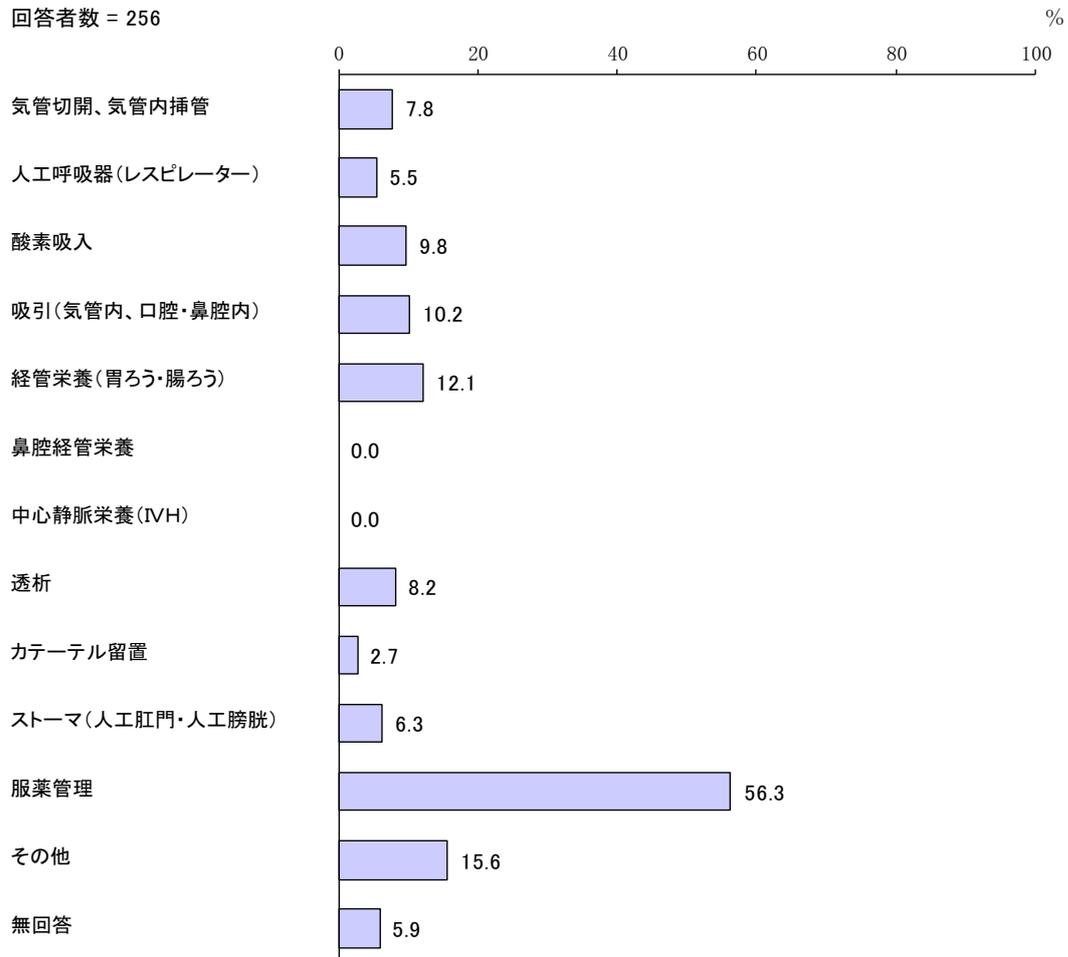
障がい種別でみると、他に比べ、難病で「受けている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「受けていない」の割合が高くなっています。



問 12 で「1. 受けている」と答えた方にお聞きします。

問 13 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「服薬管理」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「経管栄養(胃ろう・腸ろう)」の割合が 12.1%、「吸引(気管内、口腔・鼻腔内)」の割合が 10.2%となっています。



【障がい種別】

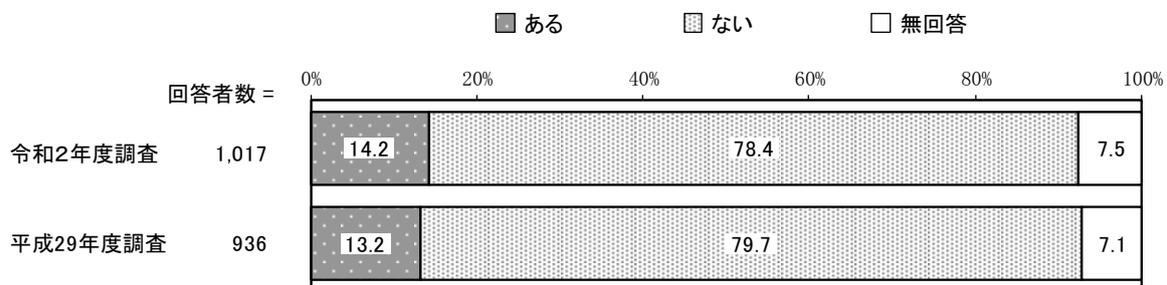
障がい種別で見ると、他に比べ、難病で「気管切開、気管内挿管」「人工呼吸器（レスピレーター）」「酸素吸入」「吸引（気管内、口腔・鼻腔内）」「経管栄養（胃ろう・腸ろう）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、身体障害で「透析」の割合が、高次脳機能障害で「服薬管理」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	気管切開、 気管内挿管	人工呼吸器 (レスピ レーター)	酸素吸入	吸引(気管内、 口腔・ 鼻腔内)	経管栄養(胃 ろう・ 腸ろう)	鼻腔 経管 栄養	中心 静脈 栄養 (I V H)	透 析	カ テ ー テ ル 留 置	ス ト ー マ (人 工 肛 門・ 人 工 膀 胱)	服 薬 管 理	そ の 他	無 回 答
身体障害	140	11.4	8.6	15.7	17.1	20.7	—	—	13.6	4.3	10.0	42.1	13.6	5.7
知的障害	73	16.4	13.7	15.1	26.0	27.4	—	—	1.4	1.4	1.4	68.5	17.8	2.7
精神障害	64	3.1	—	3.1	1.6	1.6	—	—	—	—	1.6	78.1	17.2	6.3
発達障害	30	10.0	6.7	3.3	13.3	10.0	—	—	—	3.3	—	73.3	20.0	—
難病	33	27.3	27.3	36.4	30.3	36.4	—	—	9.1	3.0	3.0	42.4	15.2	6.1
高次脳機能障害	10	—	—	—	—	—	—	—	—	10.0	—	90.0	20.0	—

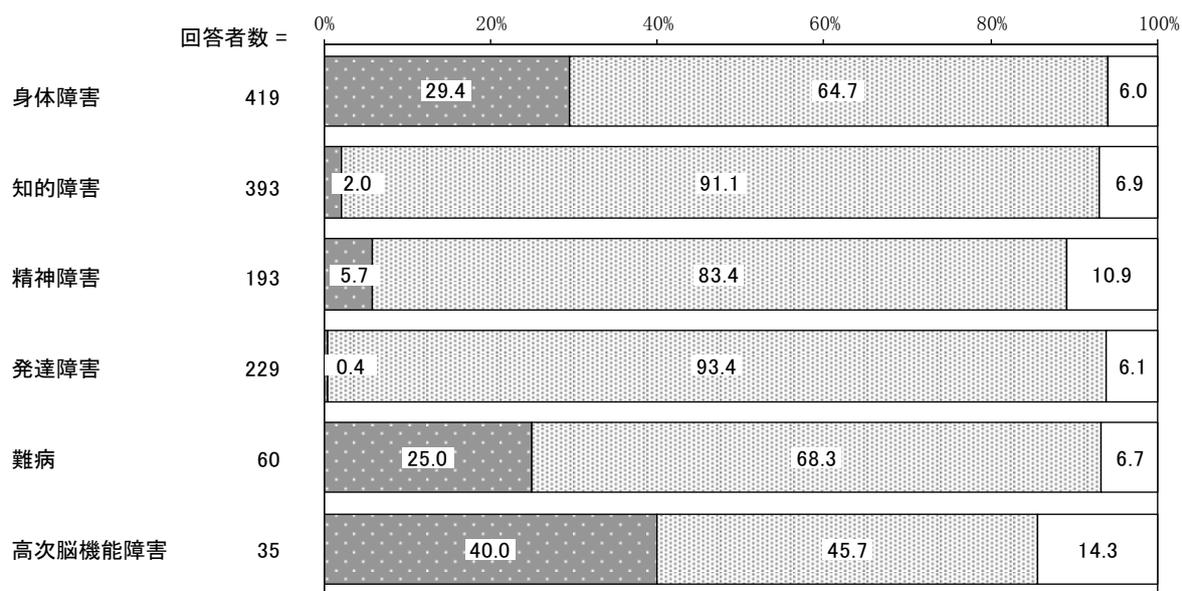
**問 14 あなたは、介護保険制度の要介護認定の申請をしたことがありますか。
(いずれか1つに○)**

「ある」の割合が14.2%、「ない」の割合が78.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「ある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「ない」の割合が高くなっています。

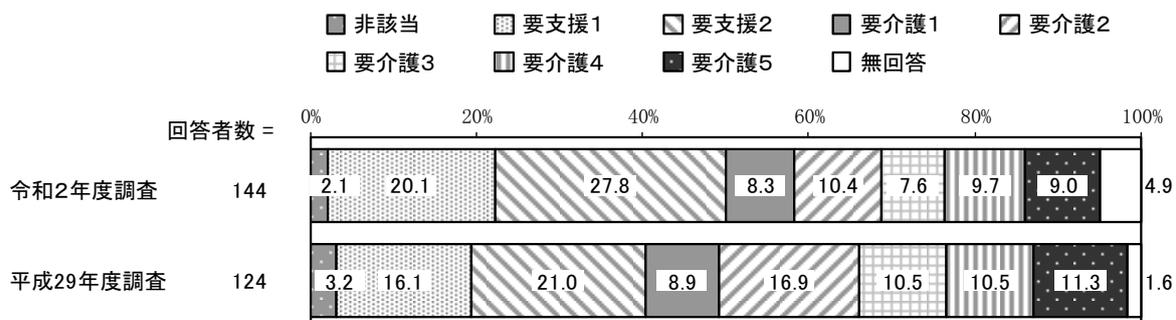


問 14 で「1. ある」と答えた方にお聞きします。

問 15 該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

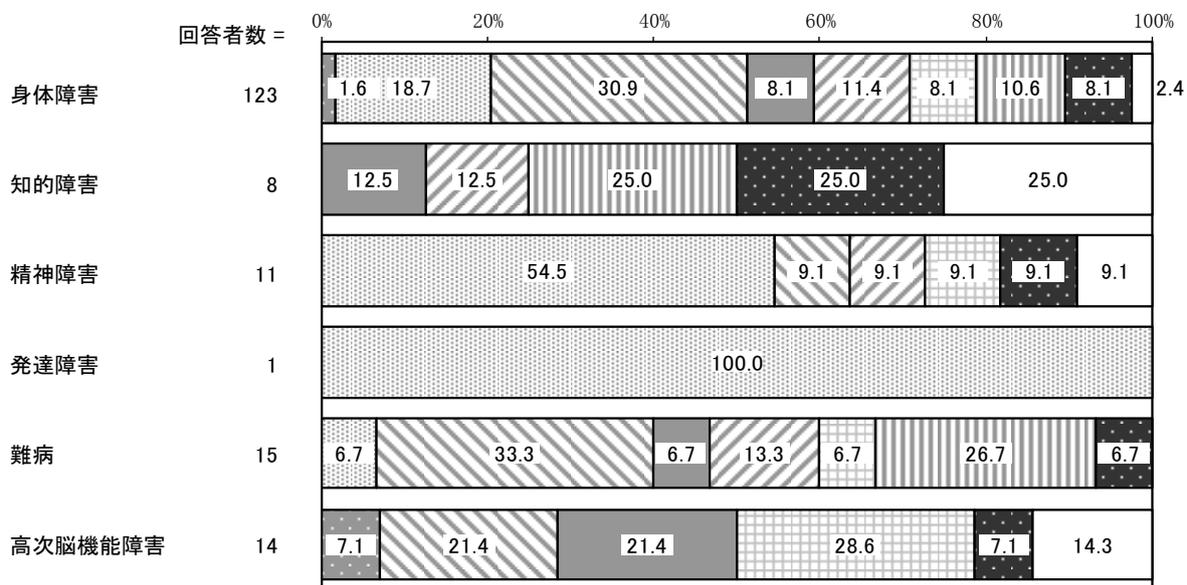
「要支援2」の割合が27.8%と最も高く、次いで「要支援1」の割合が20.1%、「要介護2」の割合が10.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「要支援2」の割合が増加しています。一方、「要介護2」の割合が減少しています。



【障がい種別】

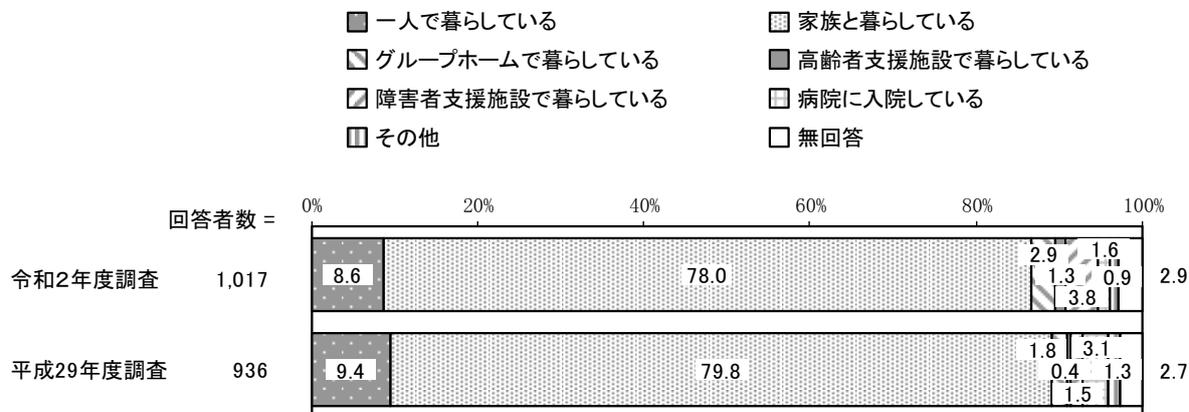
障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「要支援1」の割合が、難病で「要介護4」の割合が、高次脳機能障害で「要介護3」の割合が高くなっていますが、有効回答数が少ないため、正確なものとはいえません。



(3) 住まいや暮らしについて

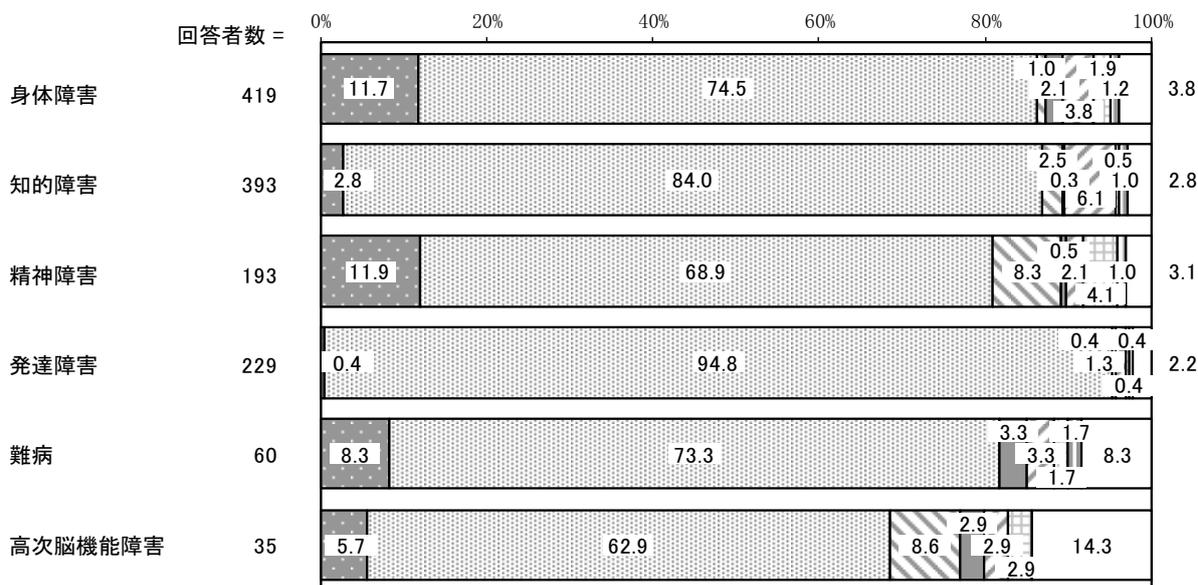
問 16 あなたは現在どのように暮らしていますか。(〇は1つだけ)

「家族と暮らしている」の割合が78.0%と最も高くなっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、身体障害、精神障害で「一人で暮らしている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「家族と暮らしている」の割合が高くなっています。

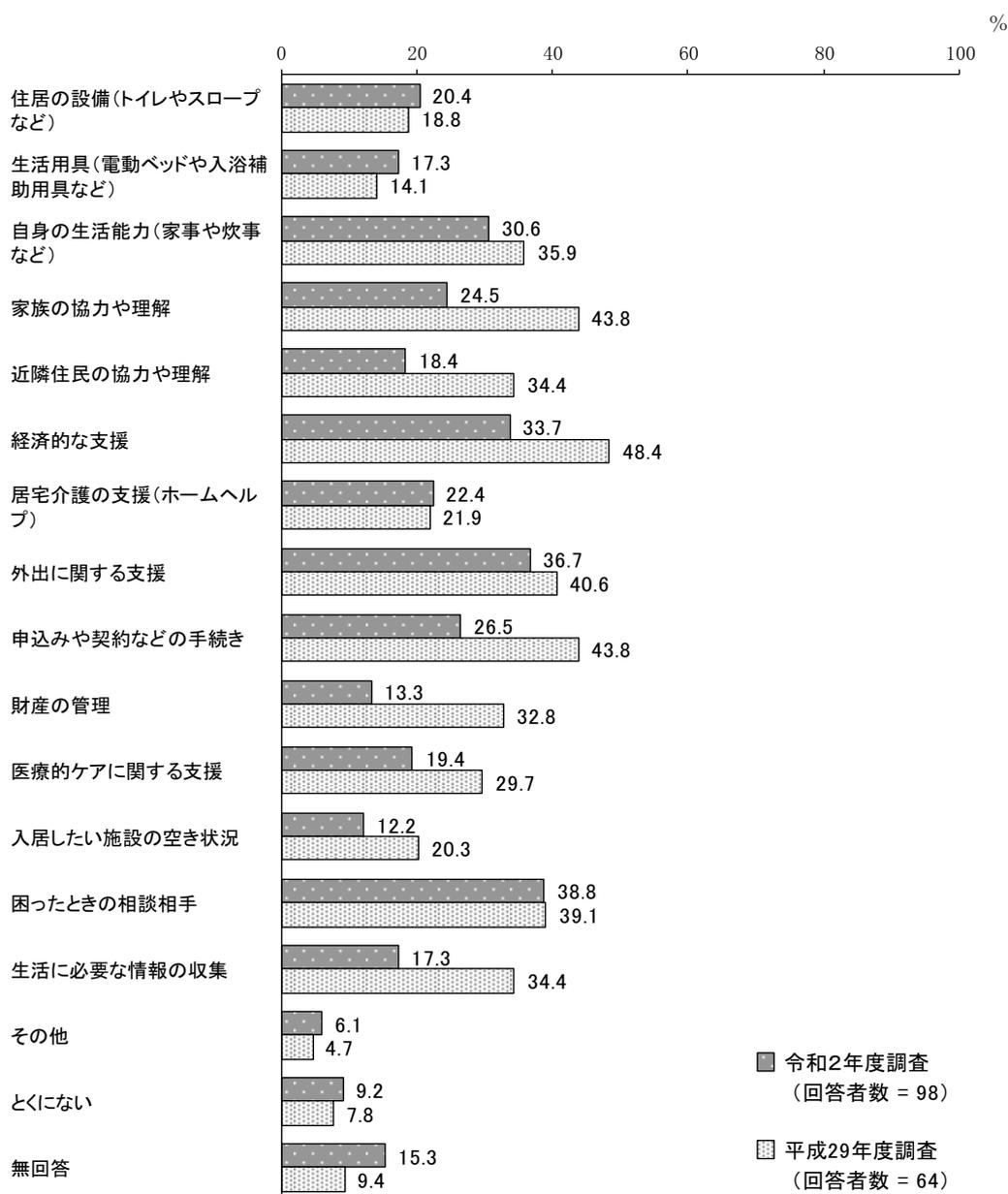


問 16 で「3」から「6」と答えた方にお聞きします。

問 17 あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「困ったときの相談相手」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「外出に関する支援」の割合が 36.7%、「経済的な支援」の割合が 33.7%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「自身の生活能力(家事や炊事など)」「家族の協力や理解」「近隣住民の協力や理解」「経済的な支援」「申込みや契約などの手続き」「財産の管理」「医療的ケアに関する支援」「入居したい施設の空き状況」「生活に必要な情報の収集」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「住居の設備（トイレやスロープなど）」「生活用具（電動ベッドや入浴補助用具など）」「自身の生活能力（家事や炊事など）」「家族の協力や理解」「医療的ケアに関する支援」「入居したい施設の空き状況」「困ったときの相談相手」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「近隣住民の協力や理解」「経済的な支援」「居宅介護の支援（ホームヘルプ）」「外出に関する支援」「生活に必要な情報の収集」の割合が、発達障害で「申込みや契約などの手続き」「財産の管理」の割合が高くなっています。

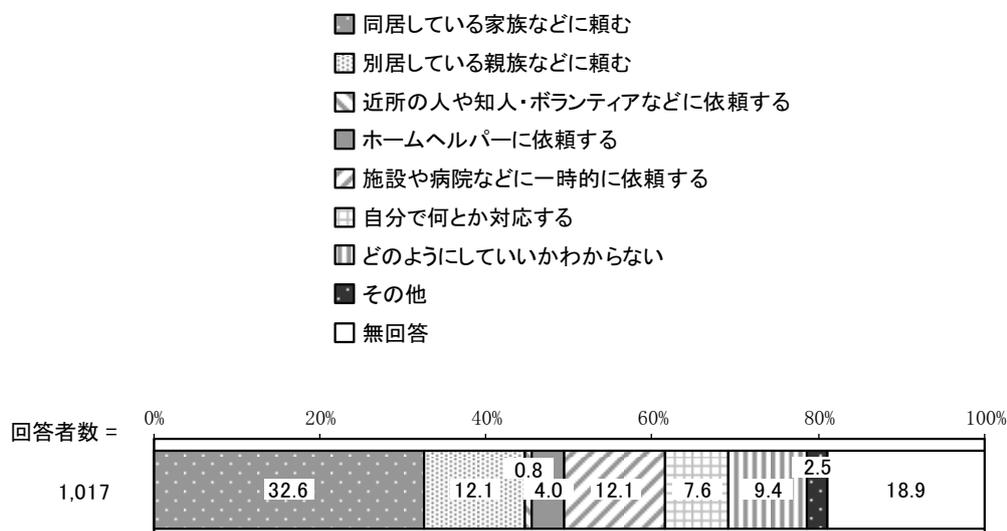
単位：％

区分	有効回答数(件)	住居の設備(トイレやスロープなど)	生活用具(電動ベッドや入浴補助用具など)	自身の生活能力(家事や炊事など)	家族の協力や理解	近隣住民の協力や理解	経済的な支援	居宅介護の支援(ホームヘルプ)	外出に関する支援
身体障害	37	24.3	24.3	24.3	24.3	13.5	29.7	32.4	32.4
知的障害	37	16.2	16.2	29.7	18.9	24.3	27.0	21.6	43.2
精神障害	29	24.1	10.3	41.4	37.9	17.2	37.9	6.9	27.6
発達障害	5	—	—	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
難病	5	60.0	40.0	60.0	60.0	20.0	60.0	40.0	40.0
高次脳機能障害	6	33.3	33.3	50.0	33.3	33.3	66.7	50.0	50.0

区分	申込みや契約などの手続き	財産の管理	医療的ケアに関する支援	入居したい施設の空き状況	困ったときの相談相手	生活に必要な情報の収集	その他	とくにない	無回答
身体障害	8.1	2.7	21.6	8.1	24.3	16.2	2.7	8.1	27.0
知的障害	32.4	18.9	18.9	8.1	32.4	10.8	5.4	16.2	16.2
精神障害	37.9	17.2	20.7	24.1	58.6	20.7	6.9	3.4	3.4
発達障害	40.0	40.0	—	20.0	20.0	—	20.0	—	40.0
難病	20.0	20.0	60.0	40.0	60.0	—	—	—	20.0
高次脳機能障害	16.7	16.7	16.7	—	33.3	33.3	—	—	—

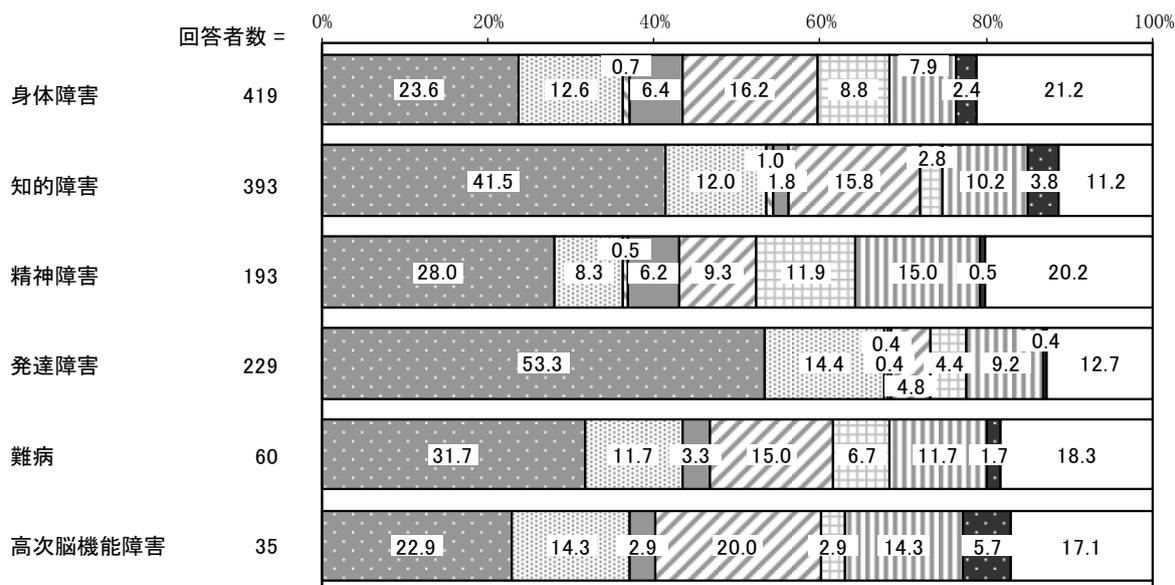
問 18 主な介助・支援者が、万一急病や事故、用事などのために一時的に介助や支援ができなくなった場合、どのようにしますか。(○は1つだけ)

「同居している家族などに頼む」の割合が32.6%と最も高く、次いで「別居している親族などに頼む」、「施設や病院などに一時的に依頼する」の割合が12.1%となっています。



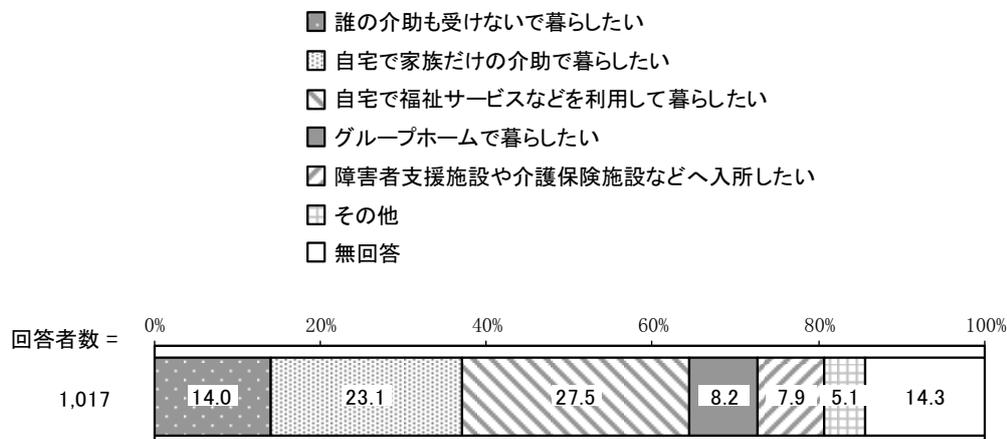
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「同居している家族などに頼む」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「施設や病院などに一時的に依頼する」の割合が、精神障害で「どのようにしていいかわからない」の割合が高くなっています。



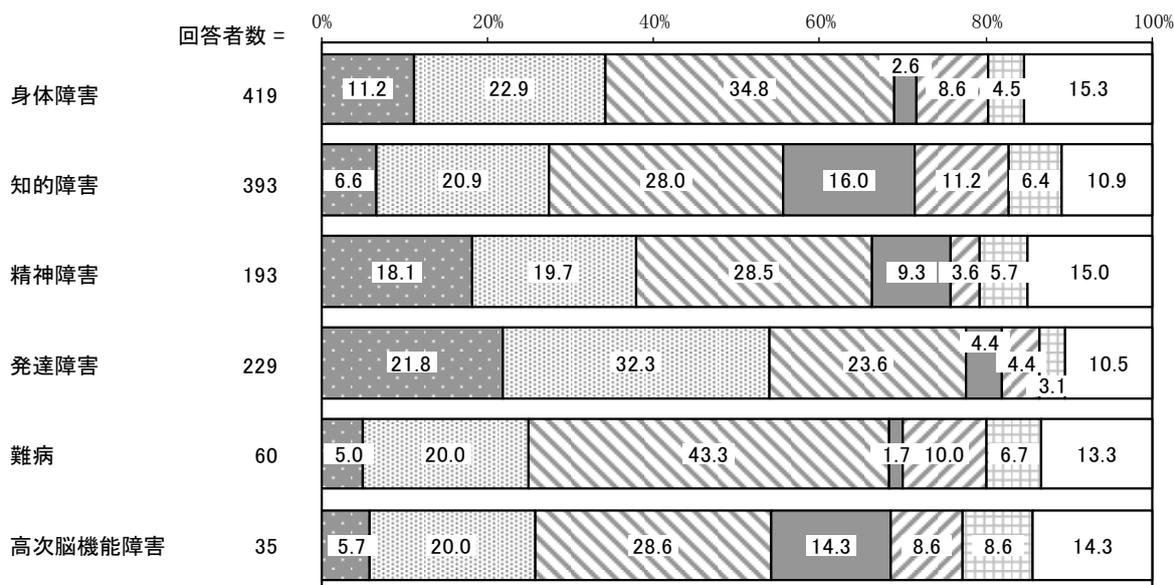
問 19 これからの生活をどこでどのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

「自宅で福祉サービスなどを利用して暮らしたい」の割合が27.5%と最も高く、次いで「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」の割合が23.1%、「誰の介助も受けなくて暮らしたい」の割合が14.0%となっています。



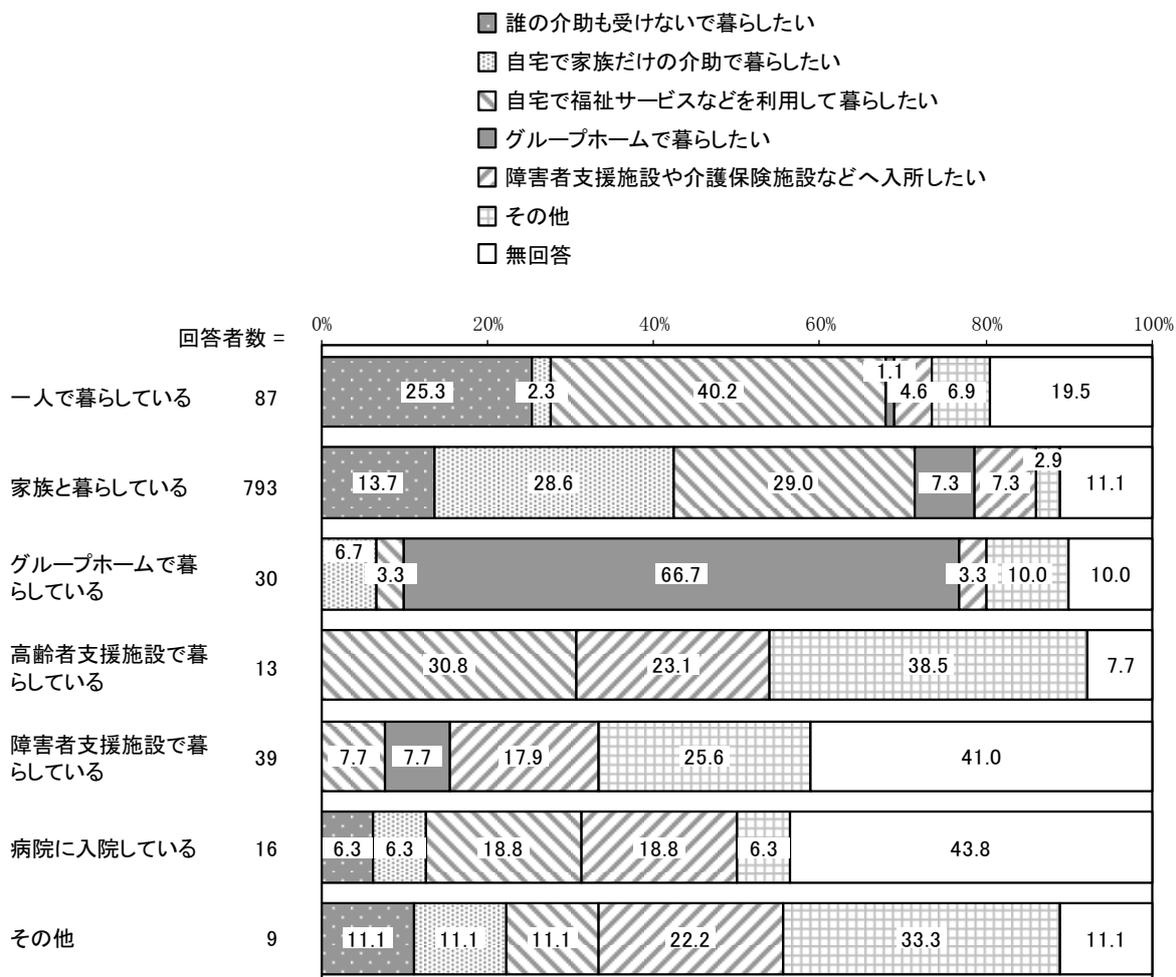
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「誰の介助も受けなくて暮らしたい」「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「自宅で福祉サービスなどを利用して暮らしたい」の割合が、知的障害で「グループホームで暮らしたい」の割合が高くなっています。



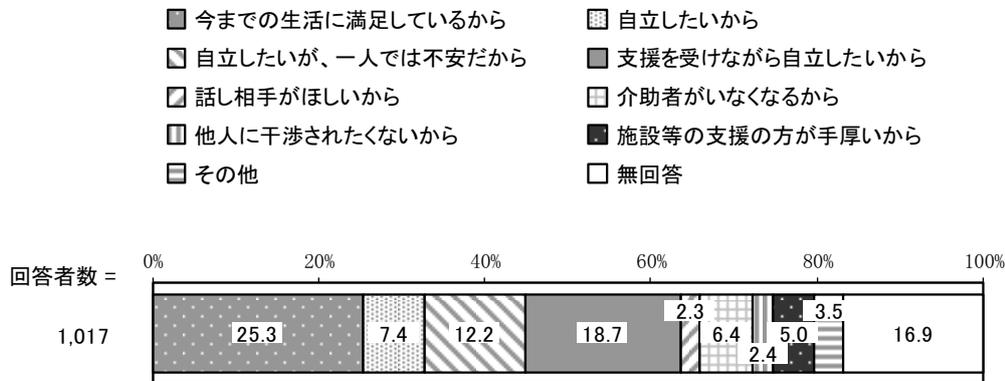
【居住形態別】

居住形態別でみると、他に比べ、一人で暮らしているで「誰の介助も受けなくて暮らしたい」「自宅で福祉サービスなどを利用して暮らしたい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、家族と暮らしているで「自宅で家族だけの介助で暮らしたい」の割合が、グループホームで暮らしているで「グループホームで暮らしたい」の割合が、高齢者支援施設で暮らしているで「障害者支援施設や介護保険施設などへ入所したい」の割合が高くなっています。



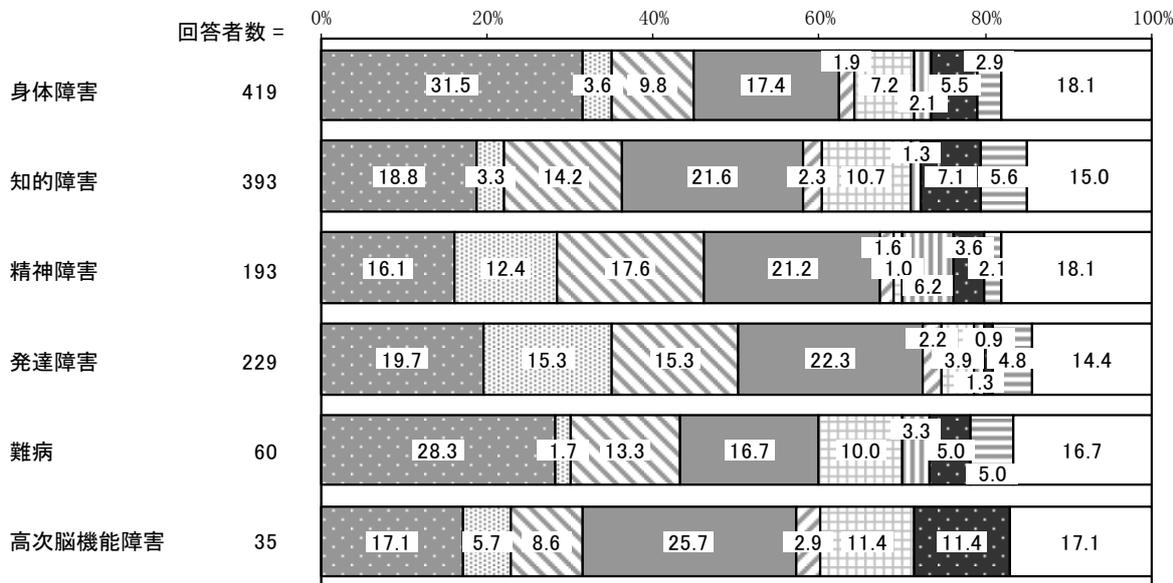
問 20 問 19 で回答した内容の理由は何ですか。(○は1つだけ)

「今までの生活に満足しているから」の割合が 25.3%と最も高く、次いで「支援を受けながら自立したいから」の割合が 18.7%、「自立したいが、一人では不安だから」の割合が 12.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、身体障害で「今までの生活に満足しているから」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「自立したいから」の割合が、精神障害で「自立したいが、一人では不安だから」の割合が、高次脳機能障害で「施設等の支援の方が手厚いから」の割合が高くなっています。

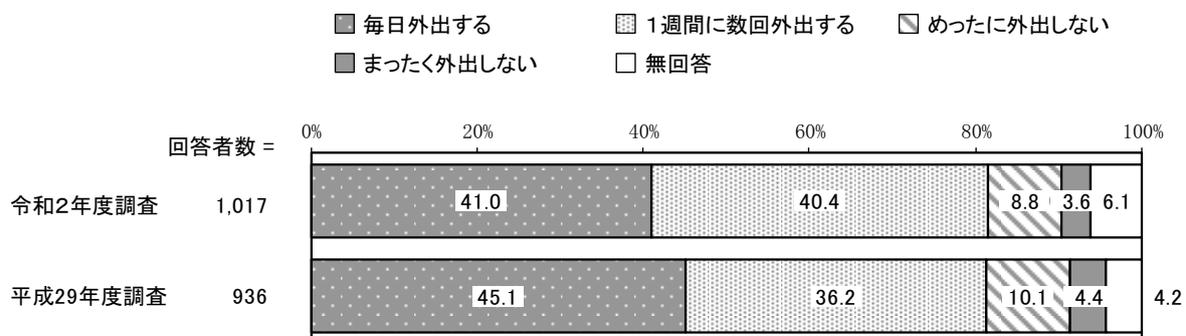


(4) 日中活動や就労について

問 21 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

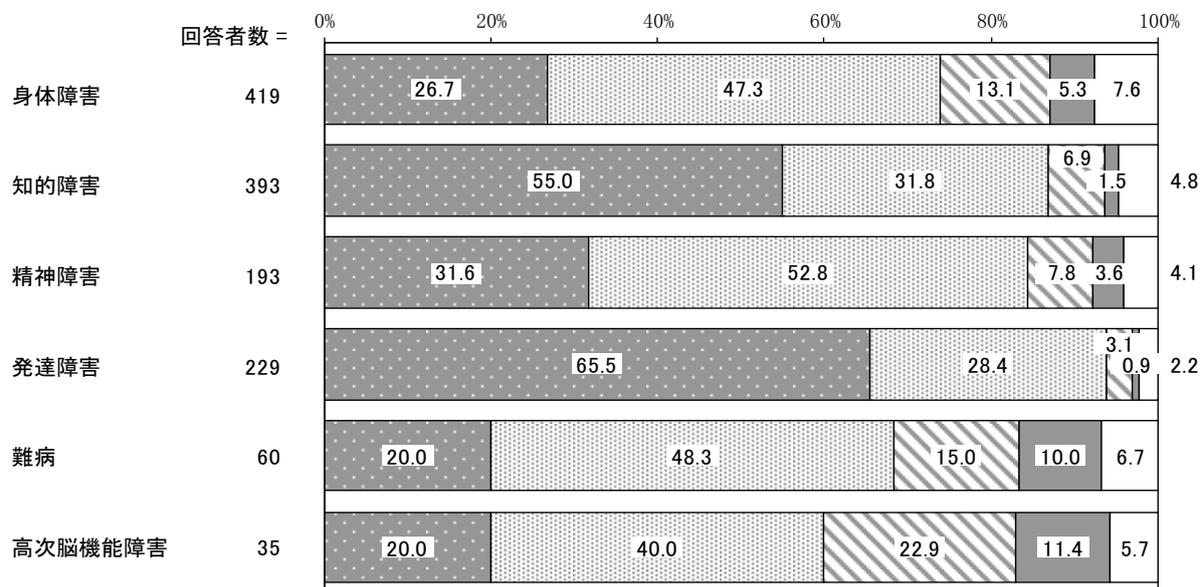
「毎日外出する」の割合が41.0%と最も高く、次いで「1週間に数回外出する」の割合が40.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



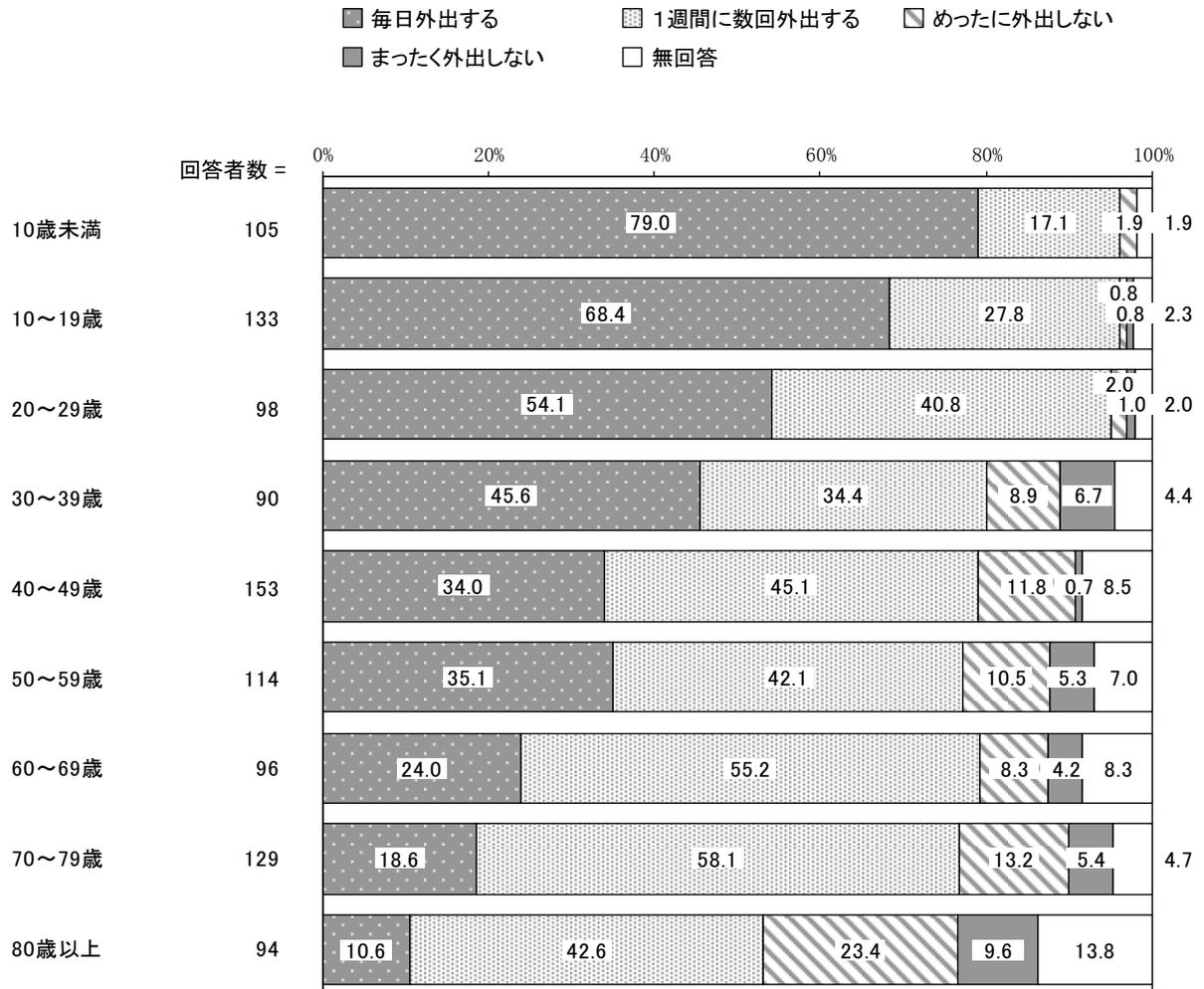
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「毎日外出する」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障害で「1週間に数回外出する」の割合が、高次脳機能障害で「めったに外出しない」「まったく外出しない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

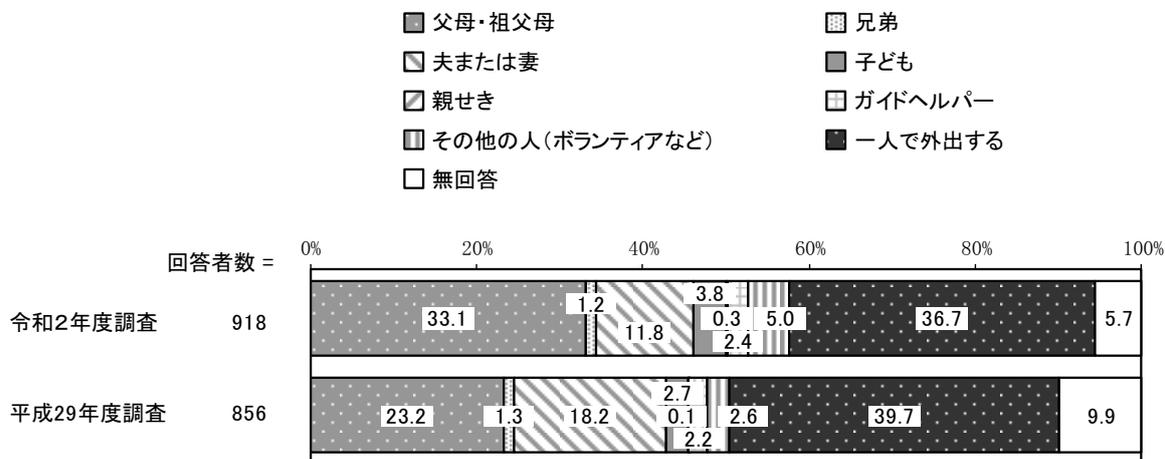
年齢別でみると、年齢が低くなるほど「毎日外出する」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年齢が高くなるにつれて「1週間に数回外出する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、80歳以上で「めったに外出しない」の割合が高くなっています。



問 22 から問 24 は、問 21 で、「1」から「3」と答えた方にお聞きします。

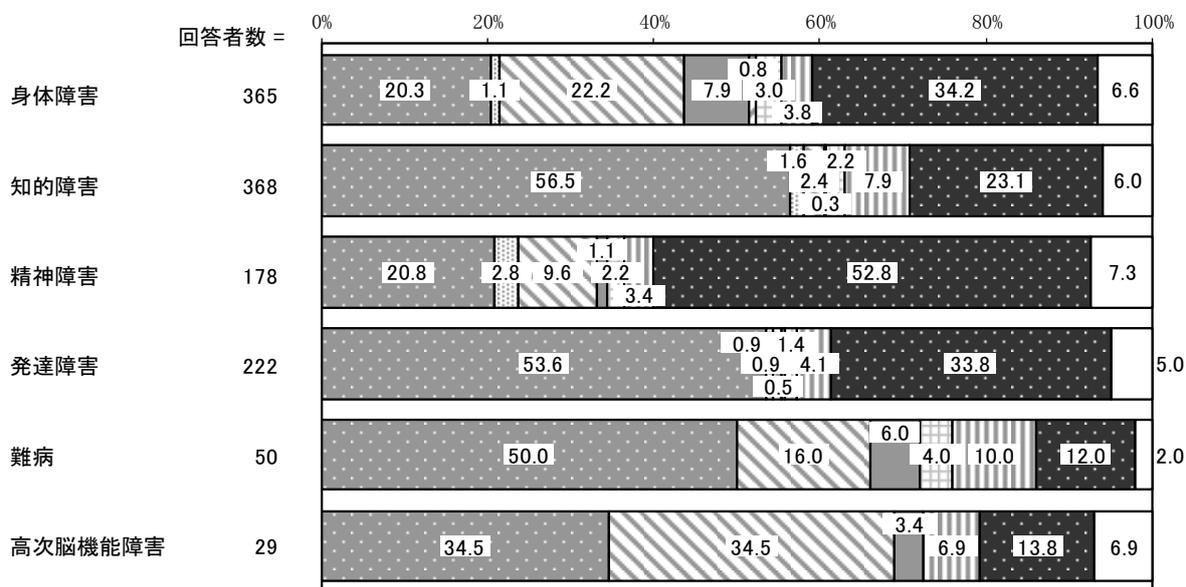
問 22 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。(○は1つだけ)

「一人で外出する」の割合が 36.7%と最も高く、次いで「父母・祖父母」の割合が 33.1%、「夫または妻」の割合が 11.8%となっています。



【障がい種別】

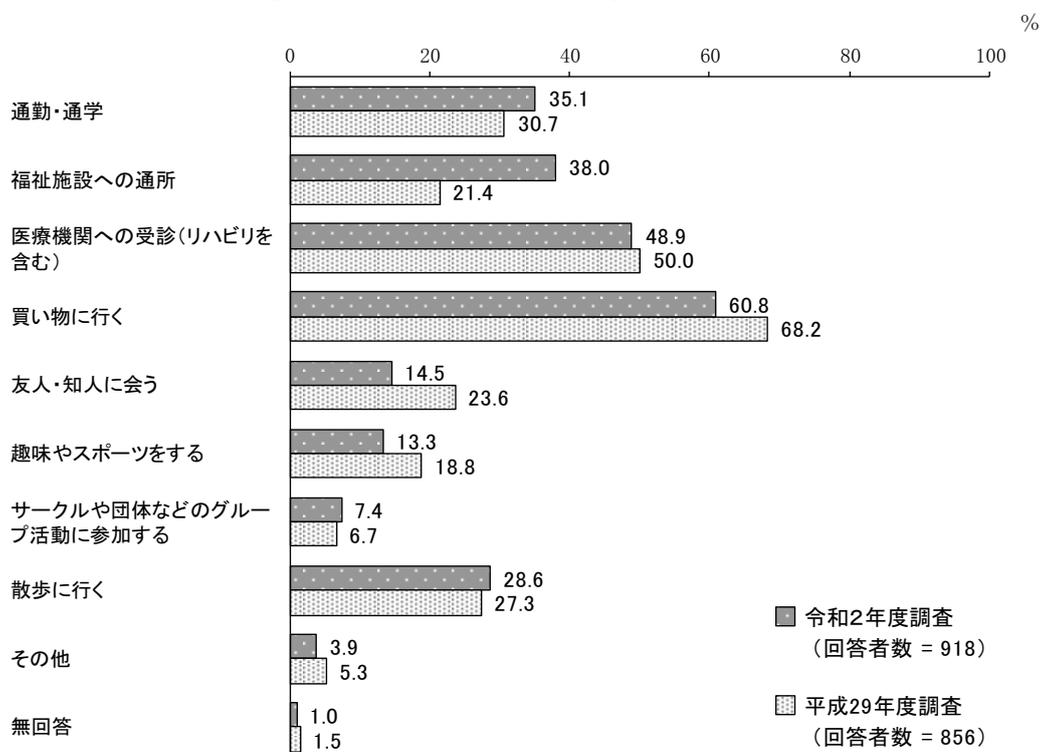
障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「父母・祖父母」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「夫または妻」の割合が、精神障害で「一人で外出する」の割合が高くなっています。



問 23 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

「買い物に行く」の割合が60.8%と最も高く、次いで「医療機関への受診(リハビリを含む)」の割合が48.9%、「福祉施設への通所」の割合が38.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「福祉施設への通所」の割合が増加しています。一方、「買い物に行く」「友人・知人に会う」「趣味やスポーツをする」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「通勤・通学」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「福祉施設への通所」「医療機関への受診(リハビリを含む)」の割合が、精神障害で「買い物に行く」の割合が、高次脳機能障害で「散歩に行く」の割合が高くなっています。

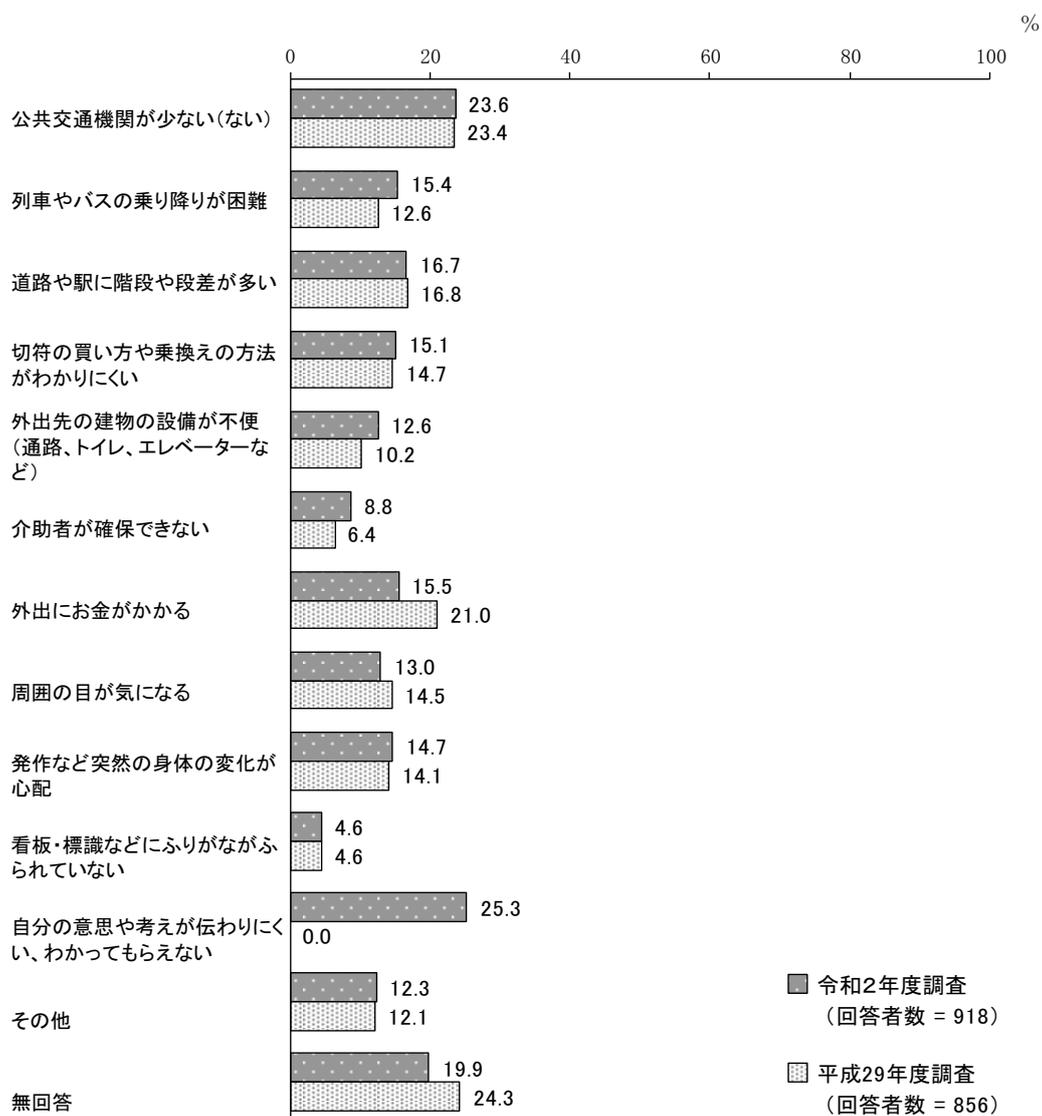
単位：%

区分	有効回答数(件)	通勤・通学	福祉施設への通所	医療機関への受診(リハビリを含む)	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	サークルや団体などのグループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答
身体障害	365	19.7	25.8	62.7	60.3	12.3	13.7	9.0	28.8	2.5	0.8
知的障害	368	45.4	56.5	39.1	55.4	9.5	11.7	8.2	30.4	4.6	0.8
精神障害	178	23.6	38.2	57.9	65.7	14.6	10.1	5.1	28.7	6.2	2.2
発達障害	222	72.5	50.0	31.5	52.7	18.5	14.0	5.0	24.3	5.4	0.9
難病	50	26.0	58.0	86.0	56.0	10.0	8.0	10.0	32.0	2.0	—
高次脳機能障害	29	10.3	48.3	55.2	51.7	6.9	17.2	6.9	41.4	—	—

問 24 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってもらえない」の割合が25.3%と最も高く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」の割合が23.6%、「道路や駅に階段や段差が多い」の割合が16.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってもらえない」の割合が増加しています。一方、「外出にお金がかかる」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、身体障害で「列車やバスの乗り降りが困難」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「道路や駅に階段や段差が多い」「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」「発作など突然の身体の変化が心配」の割合が、知的障害、発達障害で「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」の割合が、高次脳機能障害で「介助者が確保できない」「自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってももらえない」の割合が、精神障害で「外出にお金がかかる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	公共交通機関が少ない（ない）	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	看板・標識などにふりがながふられていない	自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってももらえない	その他	無回答
身体障害	365	26.0	21.9	32.3	7.4	21.4	8.2	11.8	6.3	18.9	1.9	11.0	13.2	17.5
知的障害	368	21.7	14.9	12.2	23.4	13.0	12.8	13.6	14.9	14.7	8.7	40.5	13.9	15.2
精神障害	178	25.3	10.1	10.1	11.8	9.6	6.2	29.2	20.2	20.8	1.7	24.2	9.6	20.8
発達障害	222	15.8	9.9	5.4	23.4	7.7	8.1	12.6	16.2	6.8	7.2	41.4	15.8	21.2
難病	50	24.0	20.0	36.0	4.0	40.0	18.0	22.0	20.0	40.0	2.0	28.0	20.0	10.0
高次脳機能障害	29	27.6	20.7	20.7	3.4	24.1	20.7	24.1	10.3	31.0	—	44.8	6.9	17.2

【外出頻度別】

外出頻度別で見ると、他に比べ、毎日外出するで「自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってももらえない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、1週間に数回外出するで「公共交通機関が少ない(ない)」の割合が、めったに外出しないで「列車やバスの乗り降りが困難」「道路や駅に階段や段差が多い」「外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)」「周囲の目が気になる」「発作など突然の身体の変化が心配」の割合が高くなっています。

単位：%

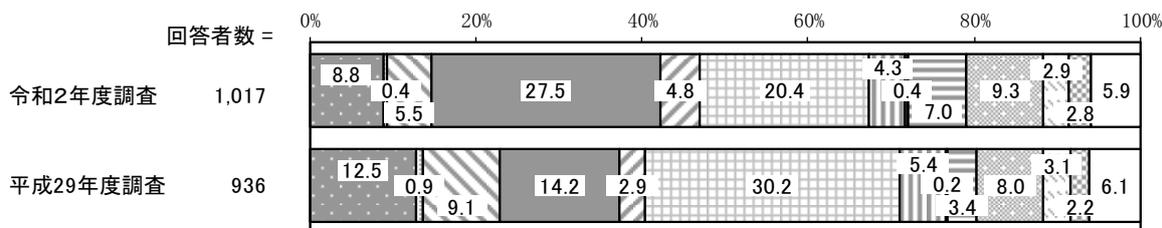
区分	有効回答数(件)	公共交通機関が少ない(ない)	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	看板・標識などにふりがながふられていない	自分の意思や考えが伝わりにくい、わかってももらえない	その他	無回答
毎日外出する	417	19.9	10.3	9.8	17.3	8.4	7.7	14.4	12.2	11.0	5.5	30.2	13.7	23.5
1週間に数回外出する	411	27.0	16.5	21.2	13.4	14.8	8.8	16.1	11.4	16.5	4.1	20.4	11.2	18.2
めったに外出しない	90	25.6	33.3	27.8	13.3	22.2	14.4	17.8	23.3	23.3	2.2	24.4	11.1	11.1
まったく外出しない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 25 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

「福祉的就労(福祉施設、作業所等に通っている(障害福祉サービス事業所含む))」の割合が27.5%と最も高く、次いで「自宅で過ごしている」の割合が20.4%となっています。

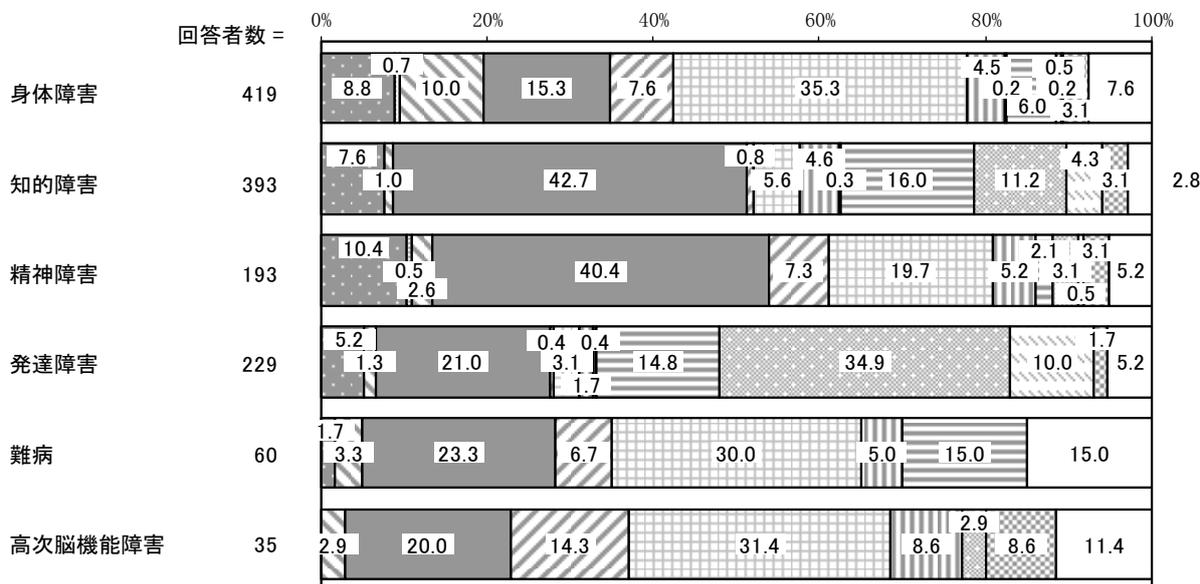
平成29年度調査と比較すると、「福祉的就労(福祉施設、作業所等に通っている(障害福祉サービス事業所含む))」の割合が増加しています。一方、「自宅で過ごしている」の割合が減少しています。

- 一般就労(会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている)
- ▨ ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
- 専業主婦(主夫)をしている
- 福祉的就労(福祉施設、作業所等に通っている(障害福祉サービス事業所含む))
- ▨ 病院などに通っている(デイケア・リハビリテーション等)
- ▨ 自宅で過ごしている
- ▨ 入所している施設や病院等で過ごしている
- 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている
- ▨ 特別支援学校(幼小中高等部)に通っている
- ▨ 一般の高校、小中学校(特別支援学級含む)に通っている
- ▨ 幼稚園、保育所、障害児通園施設などに通っている
- その他
- 無回答



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「一般就労(会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている)」の割合が高くなっています。また、他に比べ、身体障害で「専業主婦(主夫)をしている」「自宅で過ごしている」の割合が、知的障害で「福祉的就労(福祉施設、作業所等に通っている(障害福祉サービス事業所含む))」「特別支援学校(幼小中高等部)に通っている」の割合が、高次脳機能障害で「病院などに通っている(デイケア・リハビリテーション等)」の割合が、発達障害で「一般の高校、小中学校(特別支援学級含む)に通っている」「幼稚園、保育所、障害児通所施設などに通っている」の割合が高くなっています。

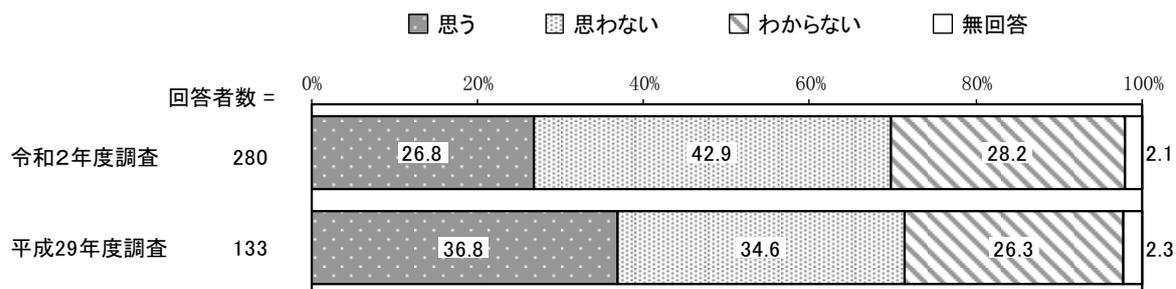


問 25 で、「4. 福祉的就労」と答えた方にお聞きします。

問 26 あなたは、一般就労（一般企業などでの雇用契約に基づいた就労）をしたいと思
いますか。（いずれか1つに○）

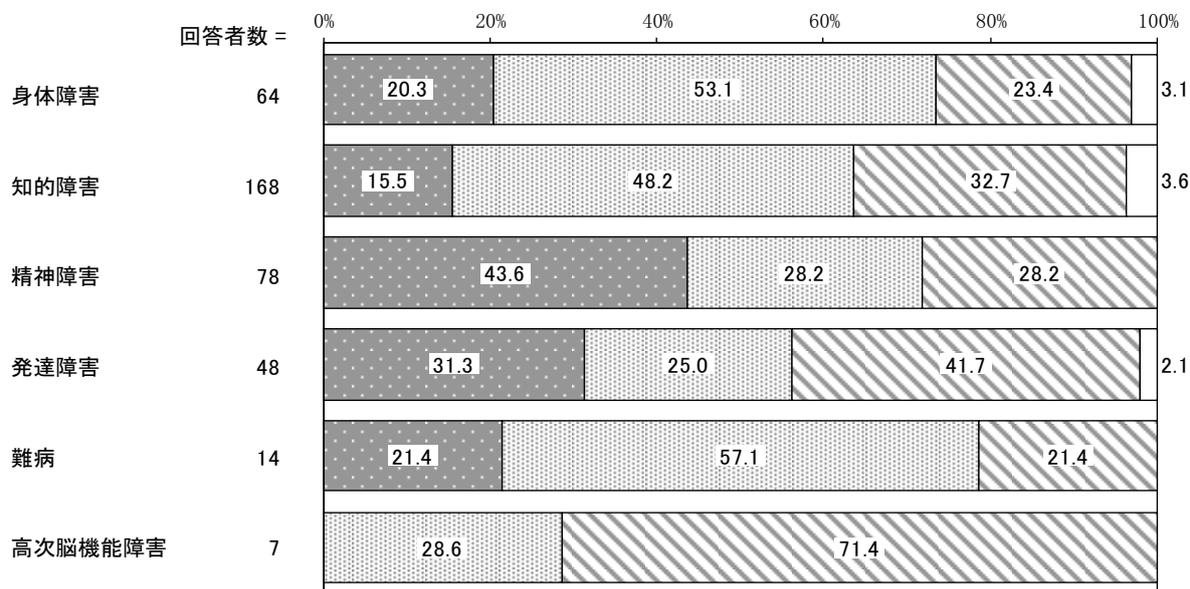
「思わない」の割合が42.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.2%、「思う」の割合が26.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「思わない」の割合が増加しています。一方、「思う」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「思う」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「思わない」の割合が高くなっています。

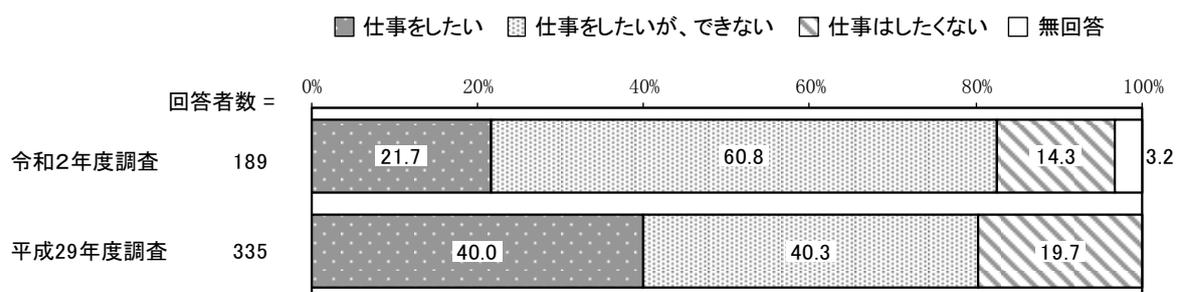


問 26 で、「2. 思わない」「3. わからない」と答えた 18～64 歳の方にお聞きします。

問 27 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つだけ)

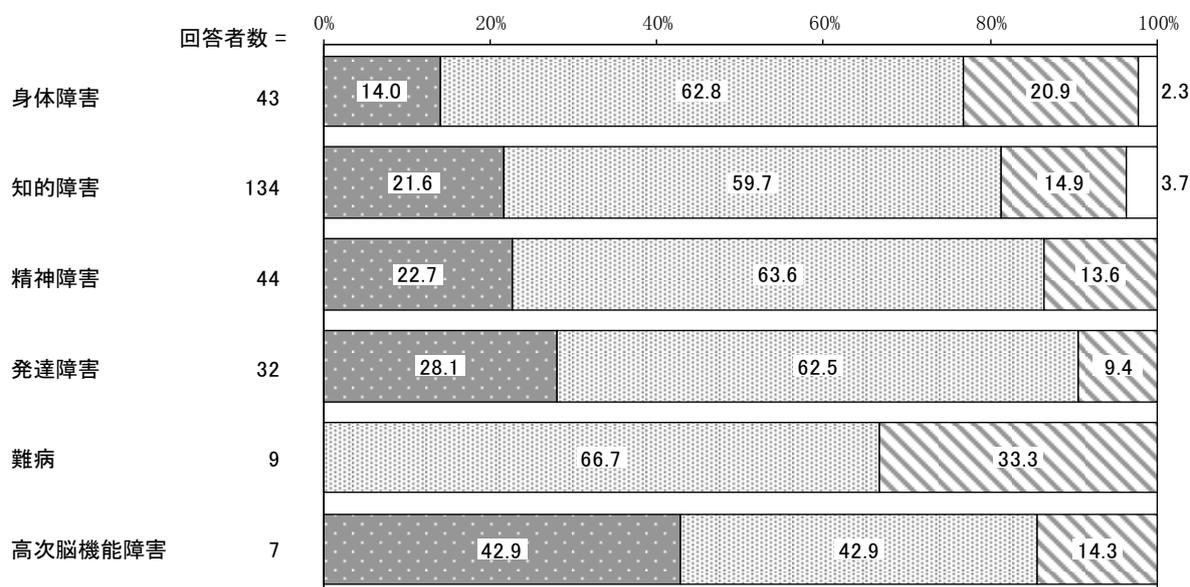
「仕事をしたいが、できない」の割合が 60.8%と最も高く、次いで「仕事をしたい」の割合が 21.7%、「仕事はしたくない」の割合が 14.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「仕事をしたいが、できない」の割合が増加しています。一方、「仕事をしたい」「仕事はしたくない」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、高次脳機能障害で「仕事をしたい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「仕事をしたいが、できない」「仕事はしたくない」の割合が高くなっています。

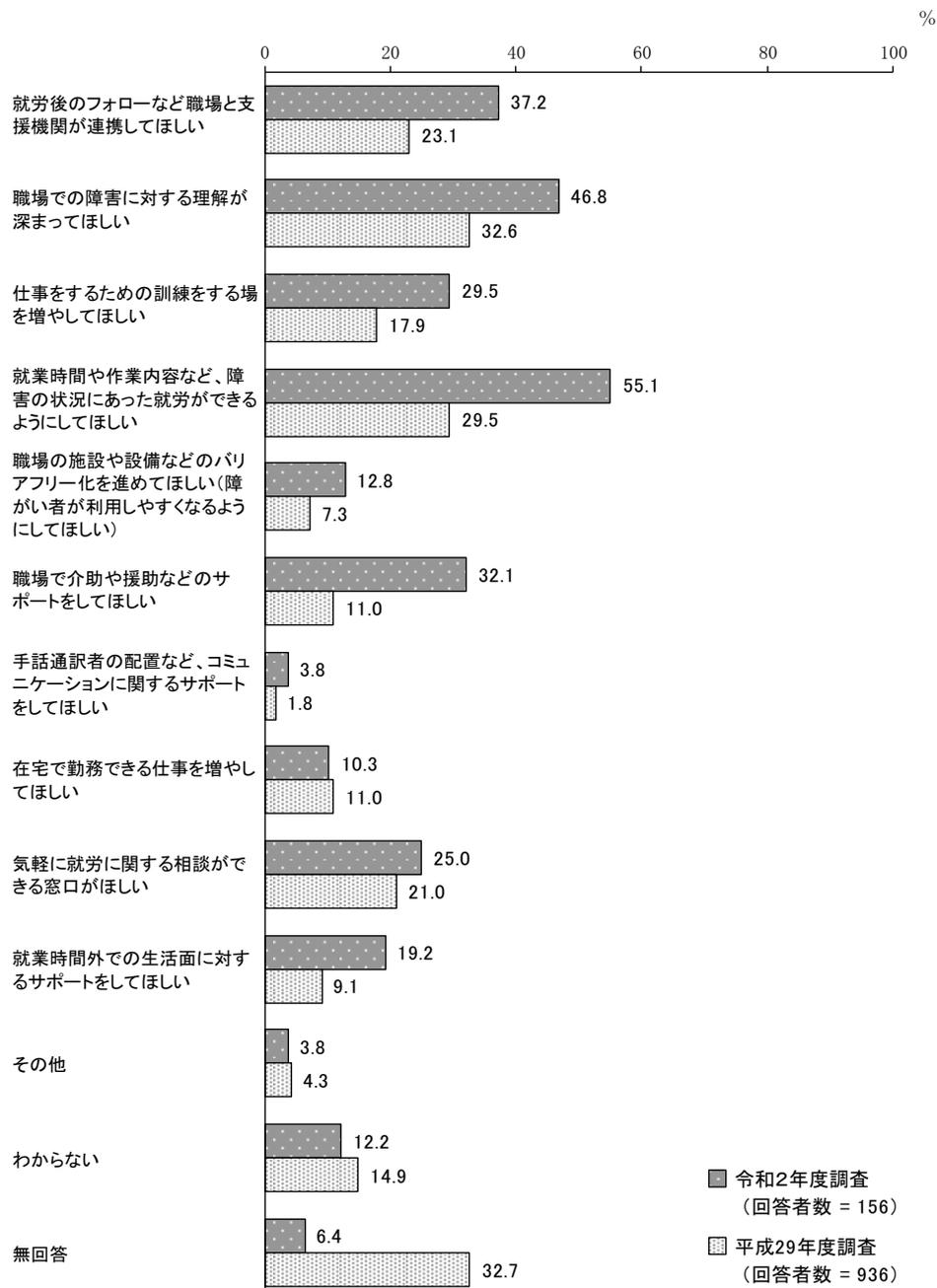


問 27 で、「1. 仕事をしたい」「2. 仕事をしたいが、できない」と答えた方にお聞きます。

問 28 あなたは、就労について、どのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

「就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「職場での障害に対する理解が深まってほしい」の割合が 46.8%、「就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい」の割合が 37.2%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい」「職場での障害に対する理解が深まってほしい」「仕事をするための訓練をする場を増やしてほしい」「就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい」「職場の施設や設備などのバリアフリー化を進めてほしい(障がい者が利用しやすくなるようにしてほしい)」「職場で介助や援助などのサポートをしてほしい」「就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい」の割合が増加しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい」「就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい」「職場で介助や援助などのサポートをしてほしい」「気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい」「就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障害で「職場での障害に対する理解が深まってほしい」「在宅で勤務できる仕事を増やしてほしい」「気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい」の割合が、身体障害で「職場の施設や設備などのバリアフリー化を進めてほしい（障がい者が利用しやすくなるようにしてほしい）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい	職場での障害に対する理解が深まってほしい	仕事をするための訓練をする場を増やしてほしい	就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい	職場の施設や設備などのバリアフリー化を進めてほしい（障がい者が利用しやすくなるようにしてほしい）	職場で介助や援助などのサポートをしてほしい	手話通訳者の配置など、コミュニケーションに関するサポートをしてほしい	在宅で勤務できる仕事を増やしてほしい	気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい	就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい	その他	わからない	無回答
身体障害	33	27.3	27.3	21.2	39.4	27.3	21.2	—	9.1	21.2	9.1	9.1	18.2	15.2
知的障害	109	34.9	43.1	32.1	55.0	10.1	37.6	4.6	4.6	19.3	21.1	2.8	12.8	7.3
精神障害	38	42.1	57.9	26.3	63.2	13.2	26.3	7.9	18.4	44.7	18.4	—	10.5	2.6
発達障害	29	65.5	55.2	34.5	72.4	6.9	41.4	10.3	10.3	44.8	34.5	—	10.3	—
難病	6	33.3	50.0	16.7	83.3	33.3	50.0	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	—	—
高次脳機能障害	6	33.3	50.0	16.7	33.3	16.7	50.0	—	16.7	16.7	—	—	16.7	—

【一般就労希望別】

問 26 の一般就労希望がある中でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

区分	有効回答数(件)	就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい	職場での障害に対する理解が深まってほしい	仕事をするための訓練をする場を増やしてほしい	就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい	職場の施設や設備などのバリアフリー化を進めてほしい(障がい者が利用しやすくなるようにしてほしい)	職場で介助や援助などのサポートをしてほしい	手話通訳者の配置など、コミュニケーションに関するサポートをしてほしい	在宅で勤務できる仕事を増やしてほしい	気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい	就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい	その他	わからない	無回答
思う	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
思わない	89	31.5	44.9	27.0	56.2	12.4	33.7	3.4	11.2	21.3	19.1	3.4	10.1	6.7
わからない	67	44.8	49.3	32.8	53.7	13.4	29.9	4.5	9.0	29.9	19.4	4.5	14.9	6.0

【就労希望別】

問 27 の就労希望がある中でみると、他に比べ、仕事をしたいで「就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい」「気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、仕事をしたいが、できないで「就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい」「職場で介助や援助などのサポートをしてほしい」「就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい」の割合が高くなっています。

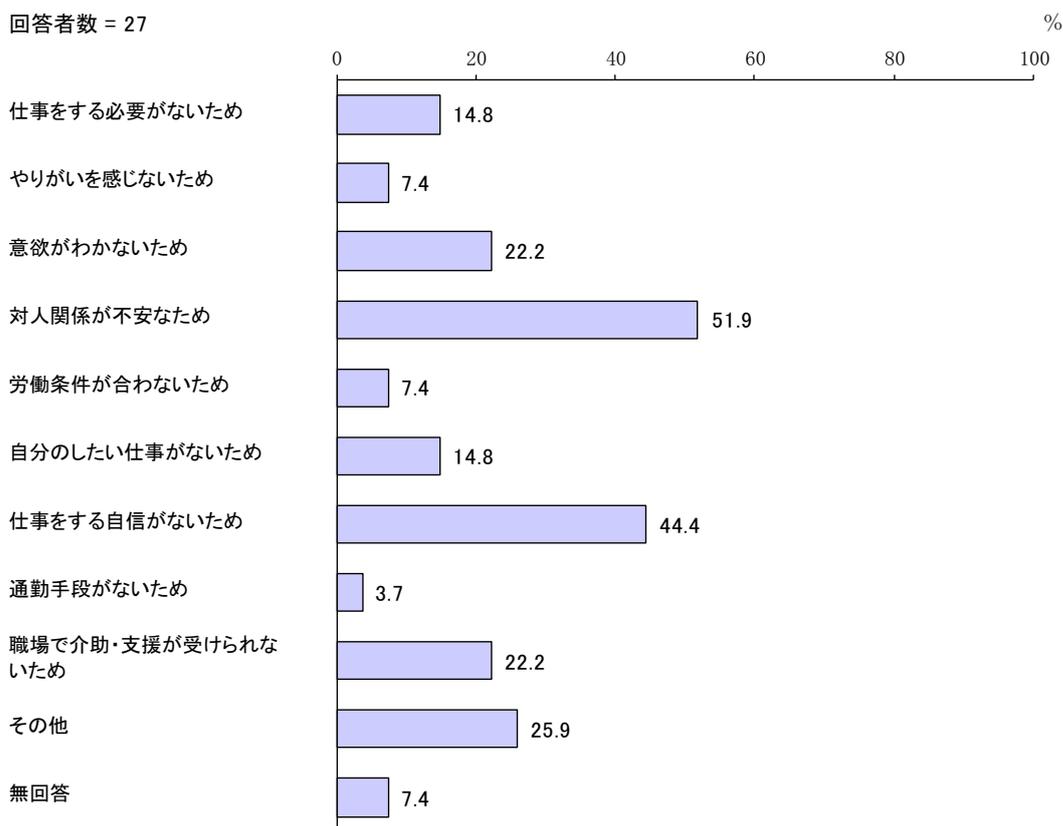
単位：％

区分	有効回答数(件)	就労後のフォローなど職場と支援機関が連携してほしい	職場での障害に対する理解が深まってほしい	仕事をするための訓練をする場を増やしてほしい	就業時間や作業内容など、障害の状況にあった就労ができるようにしてほしい	職場の施設や設備などのバリアフリー化を進めてほしい(障がい者が利用しやすくなるようにしてほしい)	職場で介助や援助などのサポートをしてほしい	手話通訳者の配置など、コミュニケーションに関するサポートをしてほしい	在宅で勤務できる仕事を増やしてほしい	気軽に就労に関する相談ができる窓口がほしい	就業時間外での生活面に対するサポートをしてほしい	その他	わからない	無回答
仕事をしたい	41	48.8	46.3	34.1	46.3	14.6	24.4	7.3	12.2	31.7	12.2	2.4	4.9	12.2
仕事をしたいが、できない	115	33.0	47.0	27.8	58.3	12.2	34.8	2.6	9.6	22.6	21.7	4.3	14.8	4.3
仕事はしたくない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 27 で、「3. 仕事はしたくない」と答えた方にお聞きします。

問 29 あなたが仕事をしたくない主な理由を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

「対人関係が不安なため」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「仕事をする自信がないため」の割合が 44.4%、「意欲がわからないため」、「職場で介助・支援が受けられないため」の割合が 22.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「仕事をする自信がないため」の割合が、発達障害で「対人関係が不安なため」の割合が高くなっていますが、有効回答数が少ないため、正確なものとはいえません。

単位：％

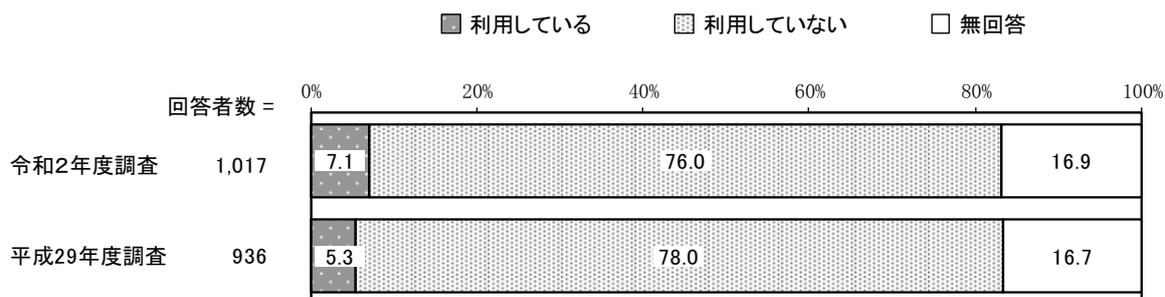
区分	有効回答数 (件)	仕事を する必要が ないため	やりがい を感じな いため	意欲が わかない ため	対人関係 が不安な ため	労働条件 が合わな いため	自分の したい 仕事 がない ため	仕事を する 自信が ない ため	通勤 手段が ない ため	職場で 介助・ 支援が 受けら れない ため	その他	無 回 答
身体障害	9	44.4	—	22.2	11.1	—	11.1	11.1	—	22.2	22.2	22.2
知的障害	20	15.0	—	20.0	50.0	5.0	15.0	45.0	5.0	30.0	20.0	5.0
精神障害	6	16.7	33.3	50.0	83.3	16.7	33.3	83.3	—	16.7	33.3	—
発達障害	3	—	33.3	33.3	100.0	—	—	66.7	—	33.3	33.3	—
難病	3	66.7	—	33.3	—	—	—	—	—	33.3	33.3	—
高次脳機能障害	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—

(5) 障害福祉サービス等の利用について

問 30 あなたは次のサービス等を利用していますか。また、今後利用したいと考えるか。(①から⑳のそれぞれについて、「現在利用しているか」と「今後利用したいか」の両方を回答(番号に○)してください)

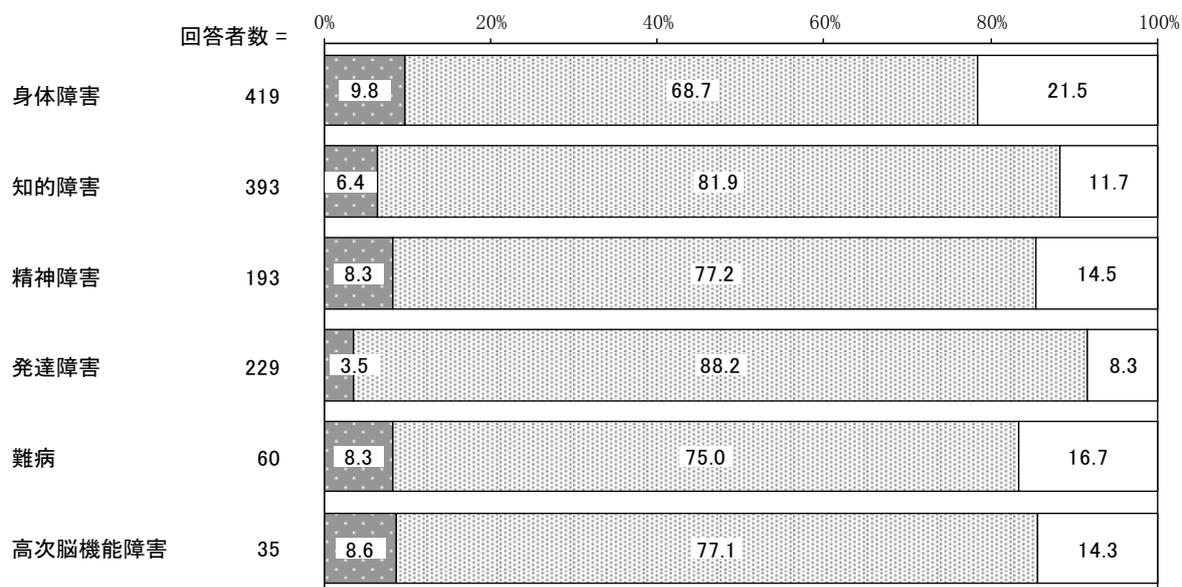
①現在利用しているか 居宅介護(ホームヘルプ)

「利用している」の割合が7.1%、「利用していない」の割合が76.0%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



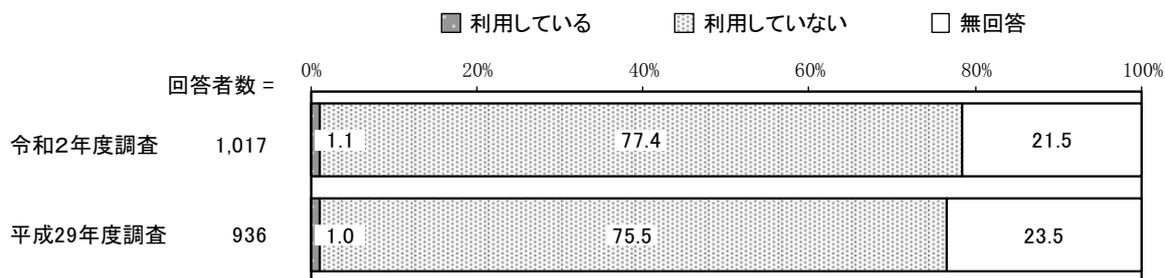
【障がい種別】

障がい種別で見ると、大きな差異はみられません。



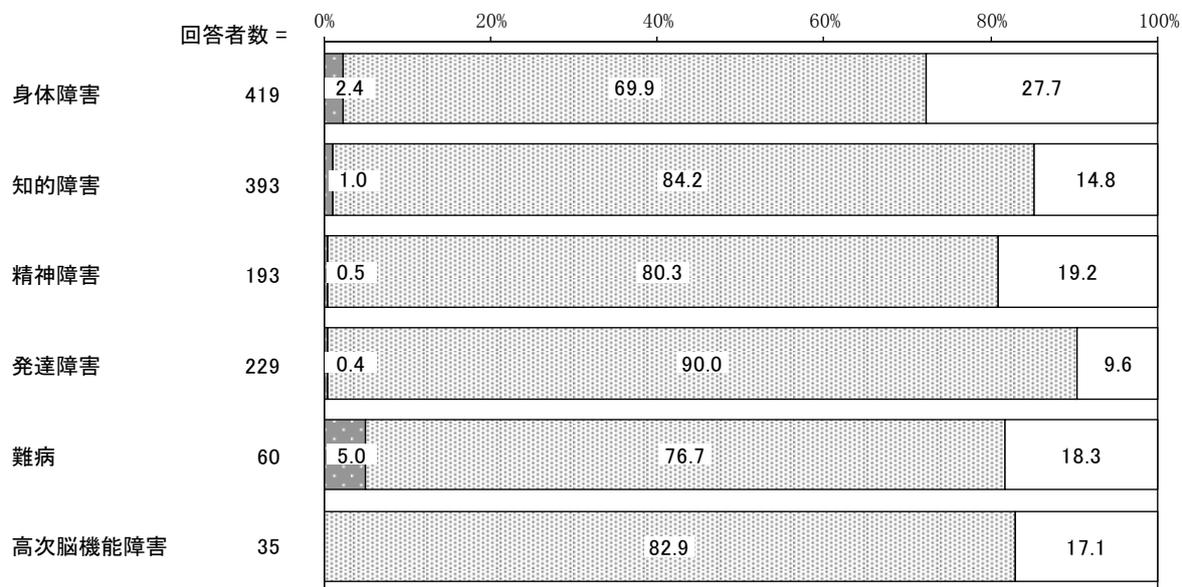
②現在利用しているか 重度訪問介護

「利用している」の割合が1.1%、「利用していない」の割合が77.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



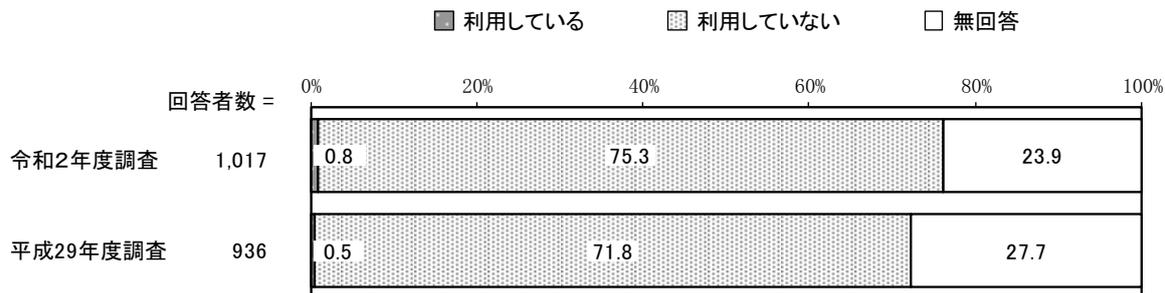
【障がい種別】

障がい種別でみると、大きな差異はみられません。



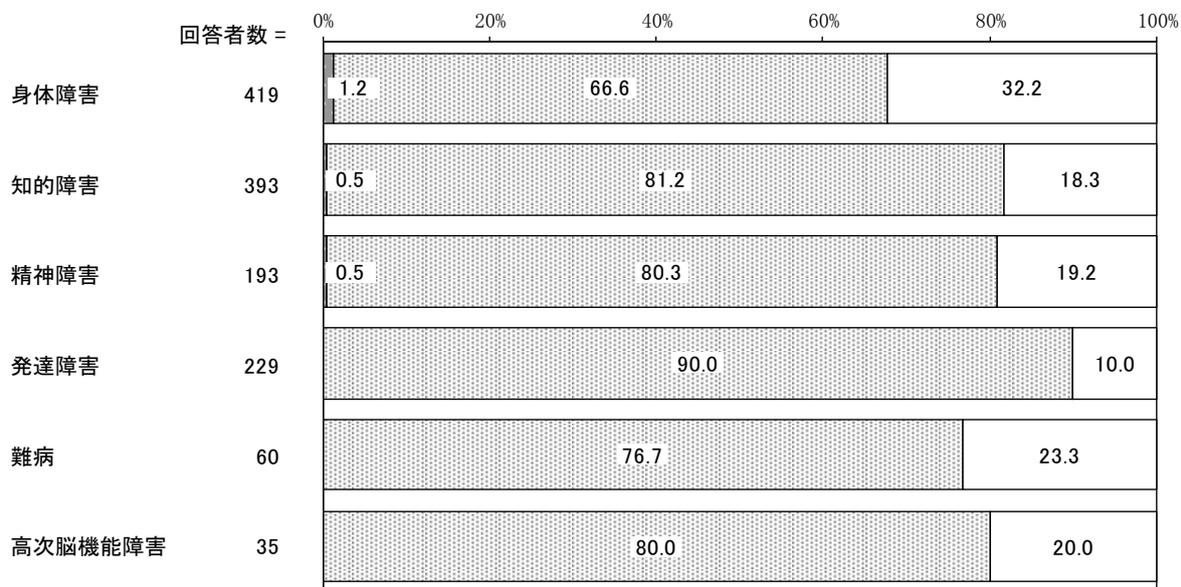
③現在利用しているか 同行援護

「利用している」の割合が0.8%、「利用していない」の割合が75.3%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

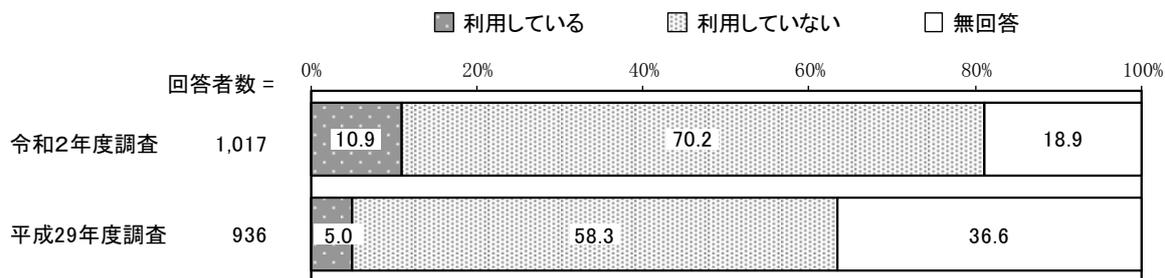
障がい種別でみると、大きな差異はみられません。



※④、⑤は「現在利用しているか」の設問がなかったため、記載していません。

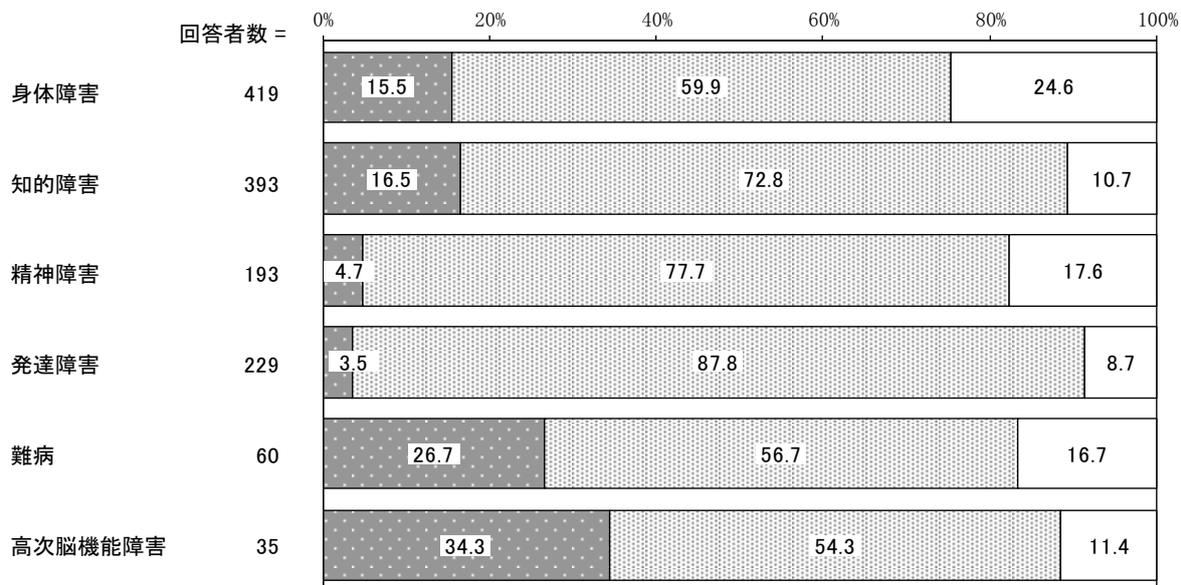
⑥現在利用しているか 生活介護

「利用している」の割合が10.9%、「利用していない」の割合が70.2%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「利用している」「利用していない」の割合が増加しています。



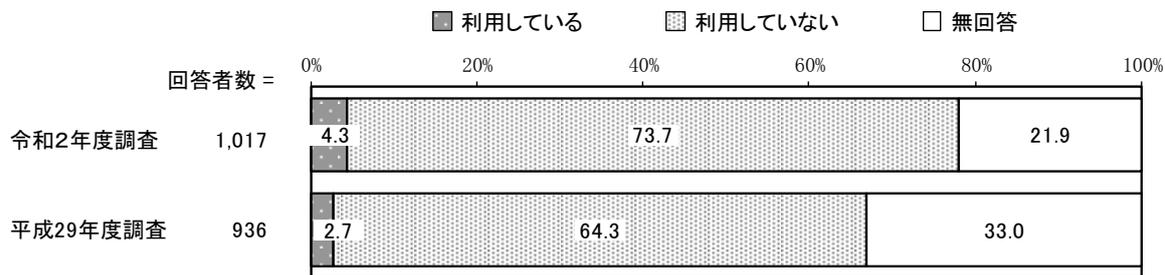
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用している」の割合が高くなっています。



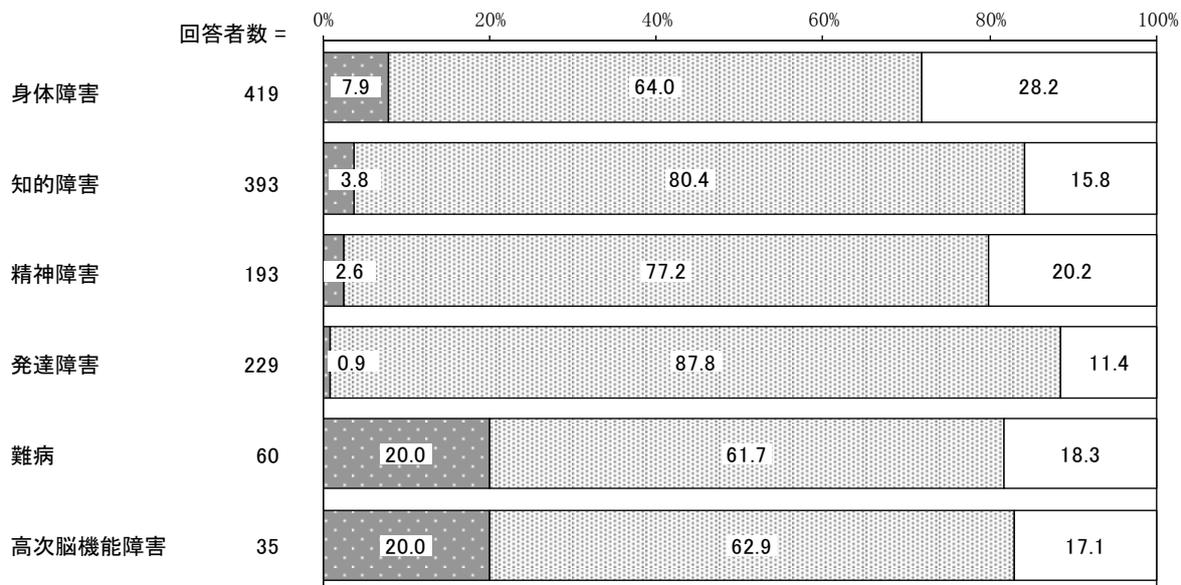
⑦現在利用しているか 自立訓練（機能訓練）

「利用している」の割合が4.3%、「利用していない」の割合が73.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



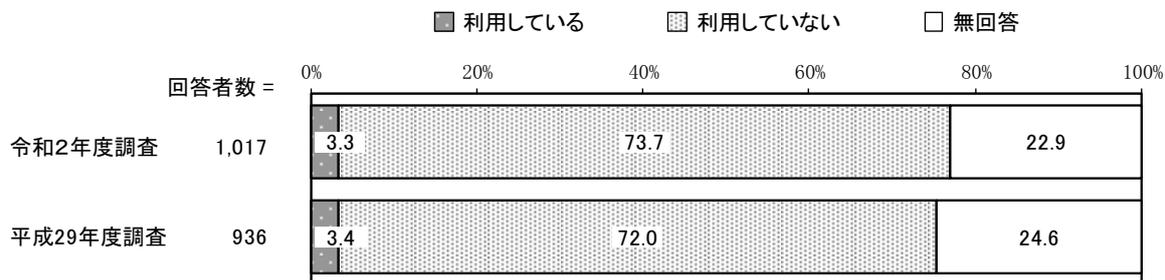
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、難病、高次脳機能障害で「利用している」の割合が高くなっています。



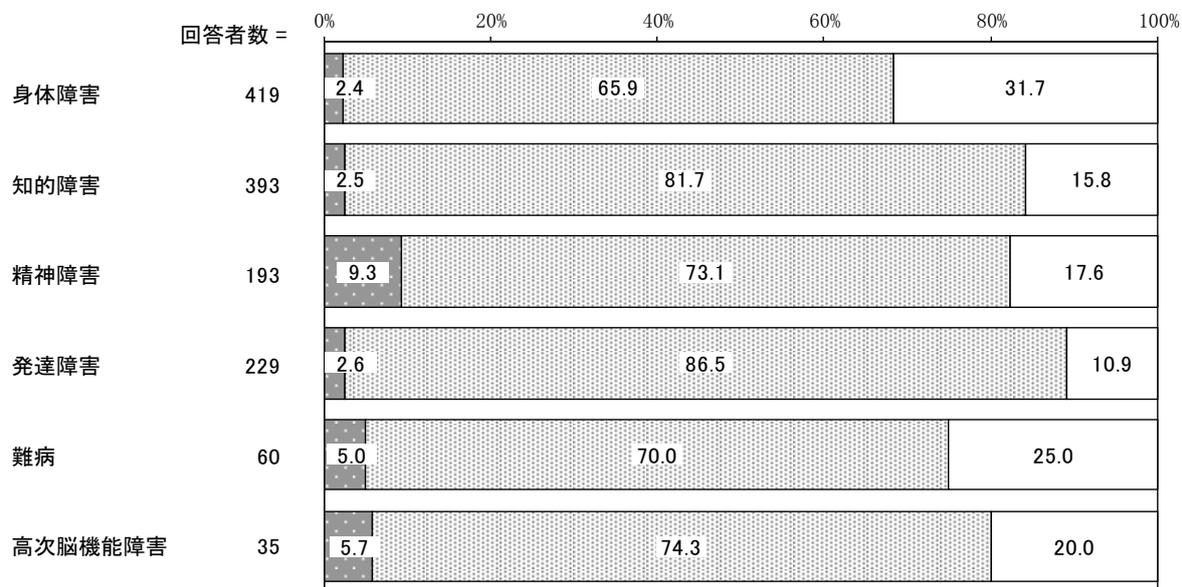
⑧現在利用しているか 自立訓練（生活訓練）

「利用している」の割合が3.3%、「利用していない」の割合が73.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



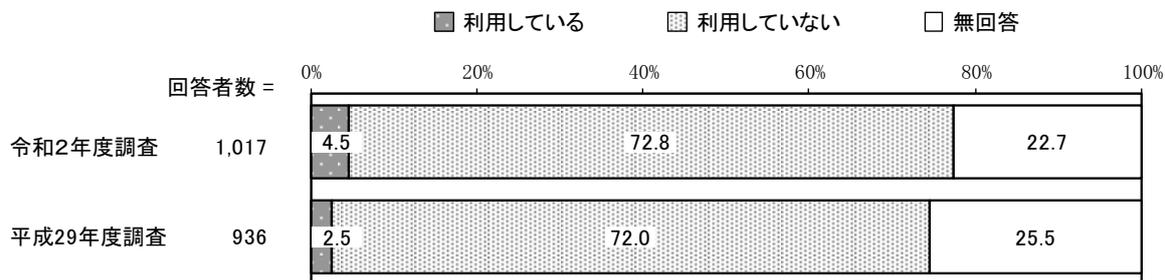
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「利用している」の割合が高くなっています。



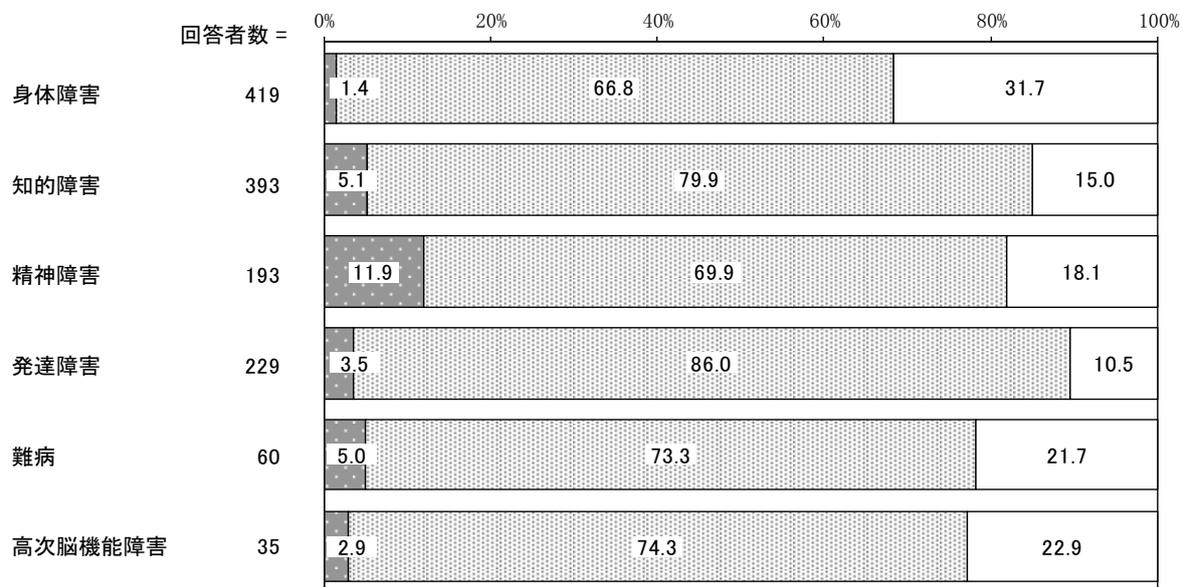
⑨現在利用しているか 就労移行支援

「利用している」の割合が4.5%、「利用していない」の割合が72.8%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



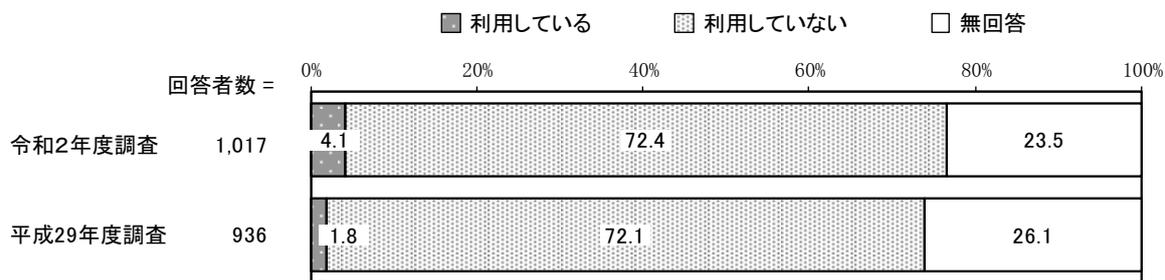
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「利用している」の割合が高くなっています。



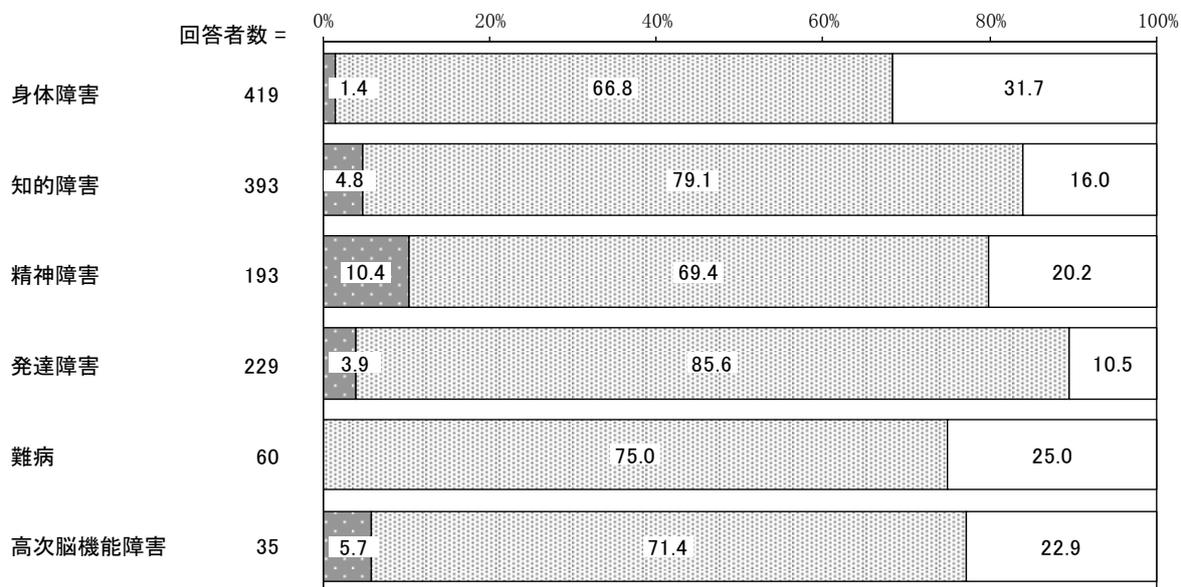
⑩現在利用しているか 就労継続支援（A型）

「利用している」の割合が4.1%、「利用していない」の割合が72.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



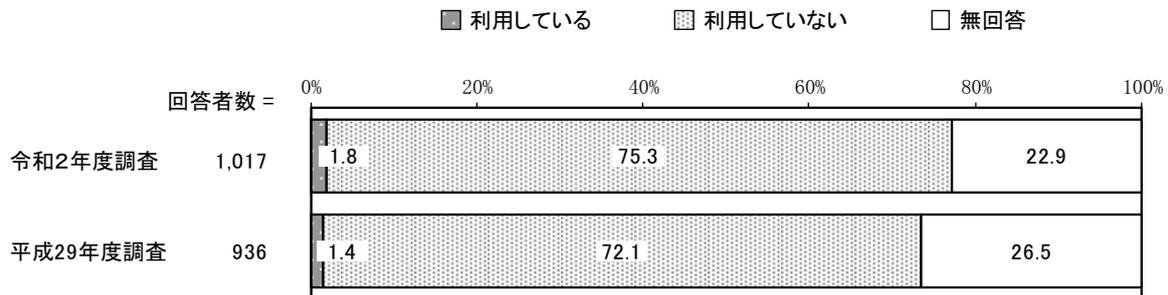
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、精神障害で「利用している」の割合が高くなっています。



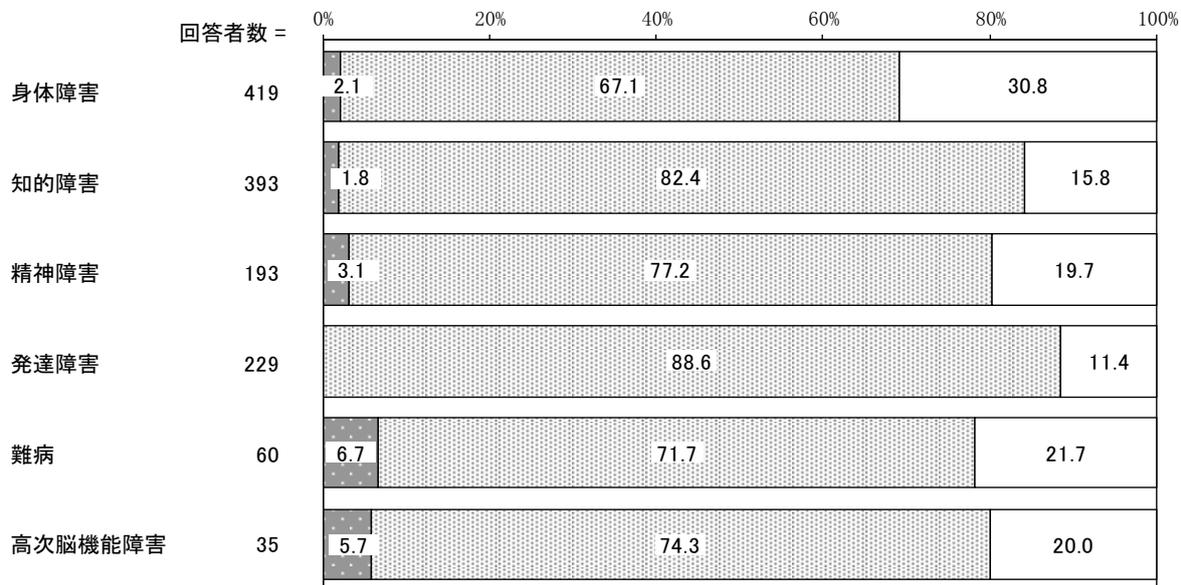
⑪現在利用しているか 療養介護

「利用している」の割合が1.8%、「利用していない」の割合が75.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



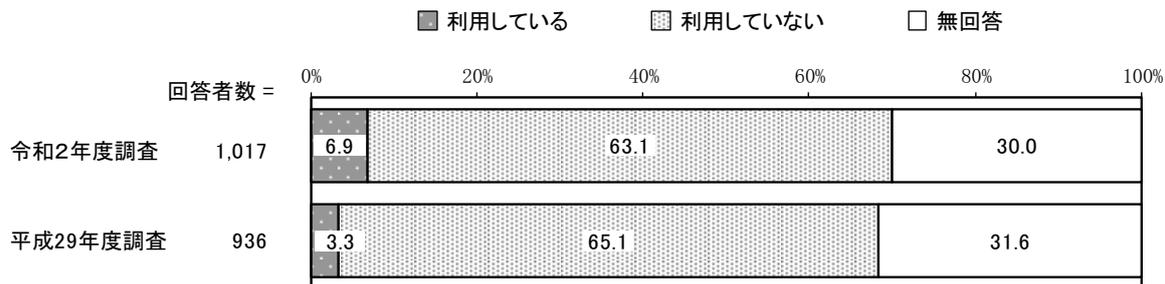
【障がい種別】

障がい種別でみると、大きな差異はみられません。



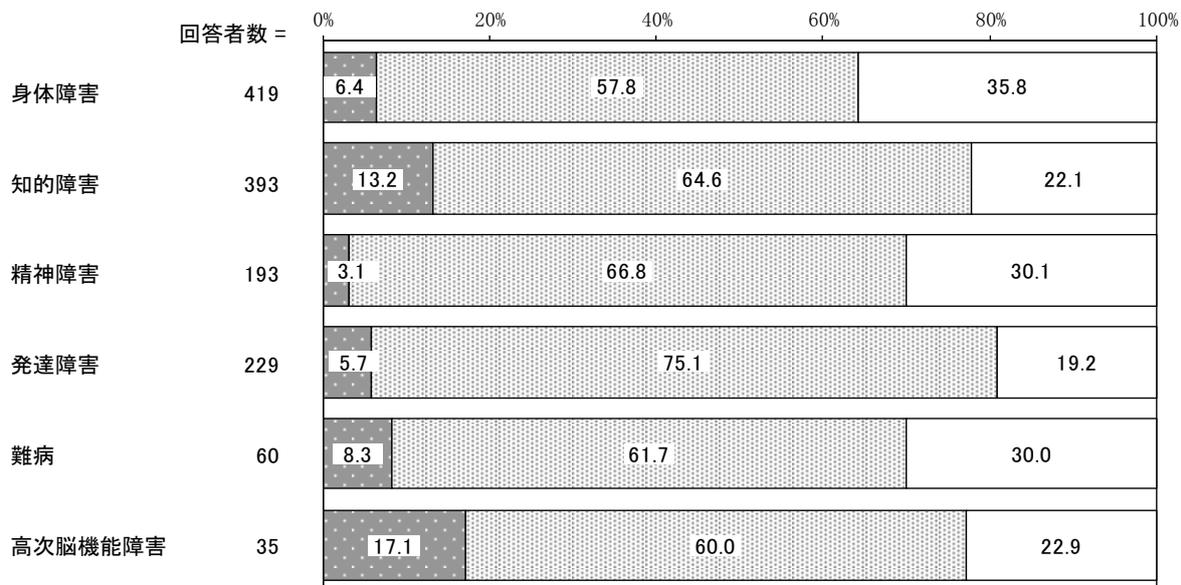
⑬現在利用しているか 福祉型短期入所（福祉型ショートステイ）

「利用している」の割合が6.9%、「利用していない」の割合が63.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



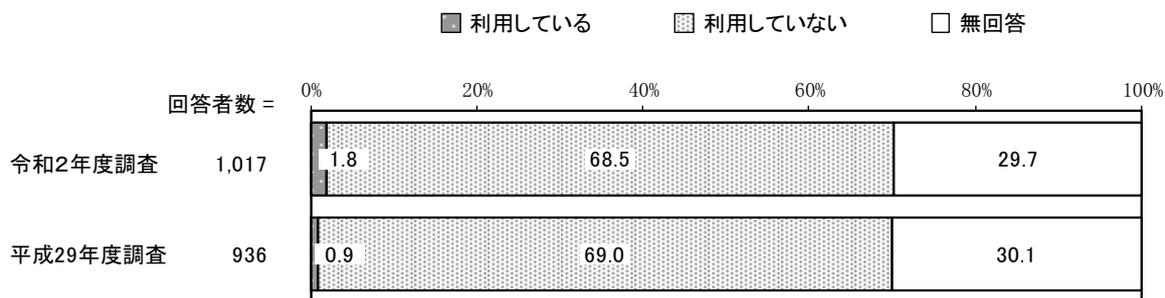
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用している」の割合が高くなっています。



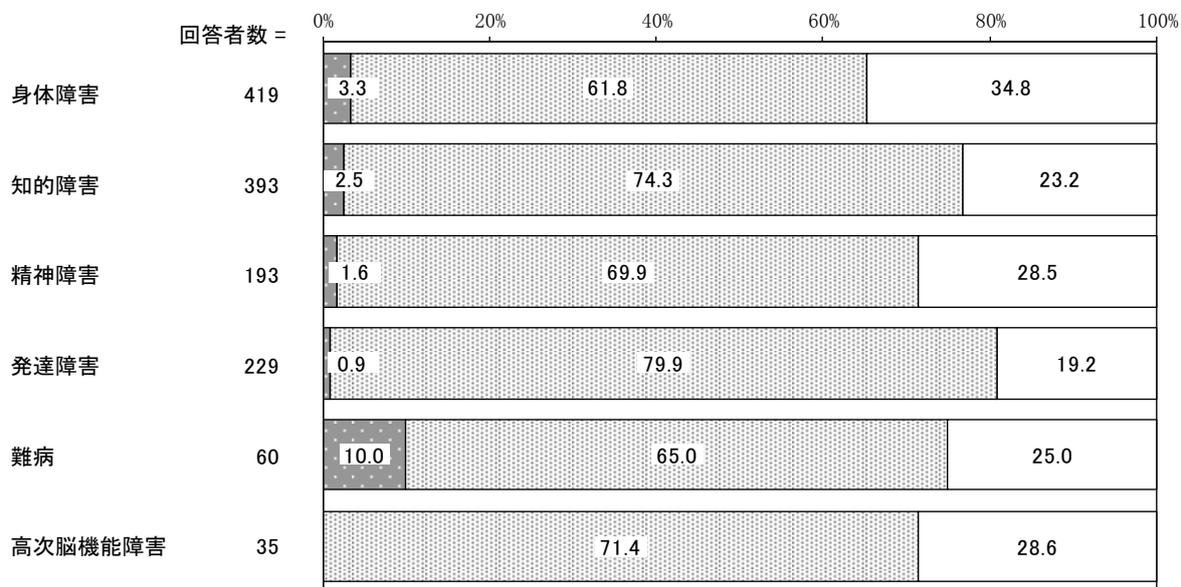
⑭現在利用しているか 医療型短期入所（医療型ショートステイ）

「利用している」の割合が1.8%、「利用していない」の割合が68.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

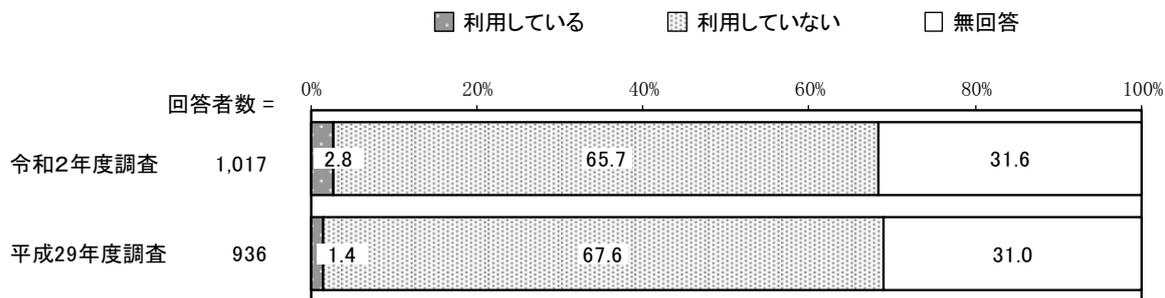
障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用している」の割合が高くなっています。



※⑮は「現在利用しているか」の設問がなかったため、記載していません。

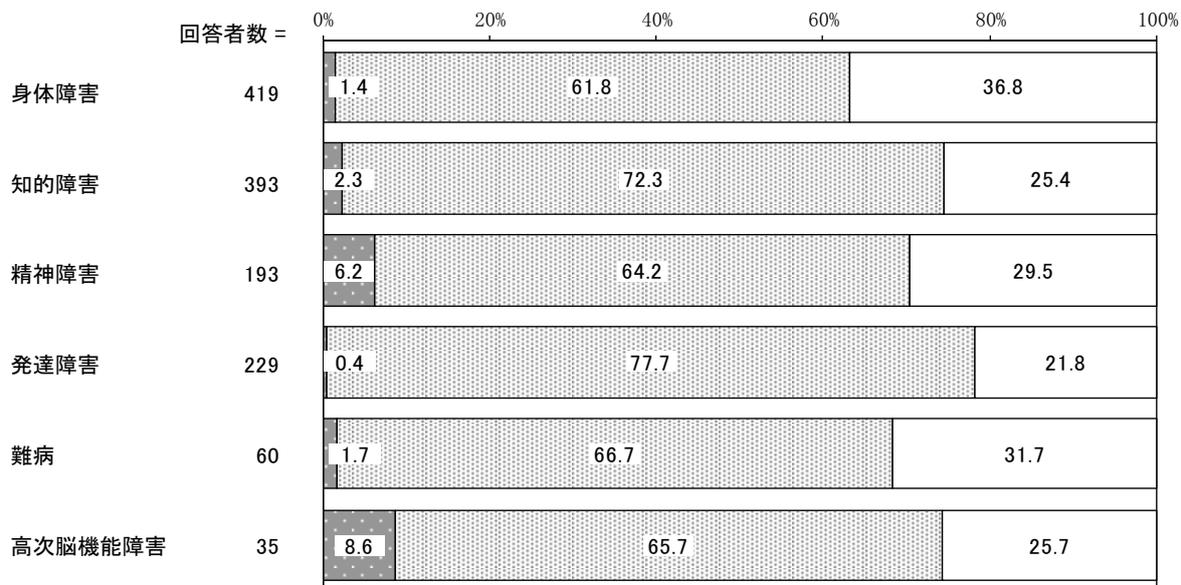
⑩現在利用しているか 共同生活援助（グループホーム）

「利用している」の割合が2.8%、「利用していない」の割合が65.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



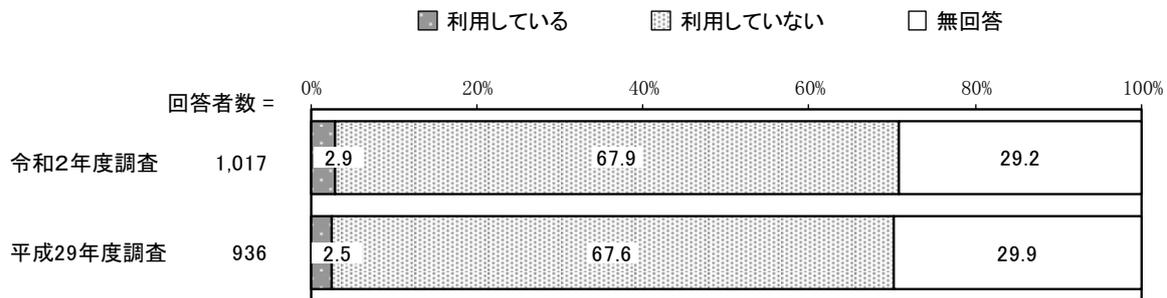
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用している」の割合が高くなっています。



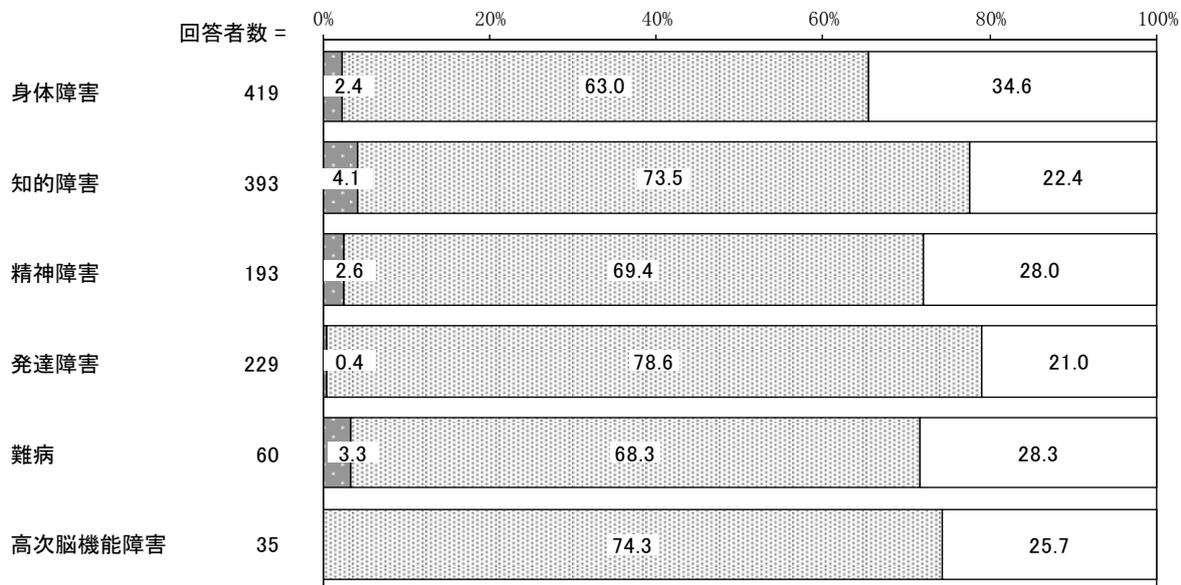
⑰現在利用しているか 施設入所支援

「利用している」の割合が2.9%、「利用していない」の割合が67.9%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



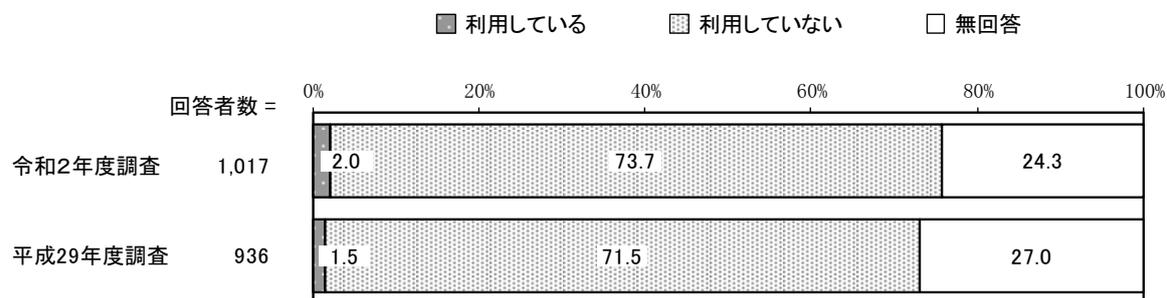
【障がい種別】

障がい種別でみると、大きな差異はみられません。



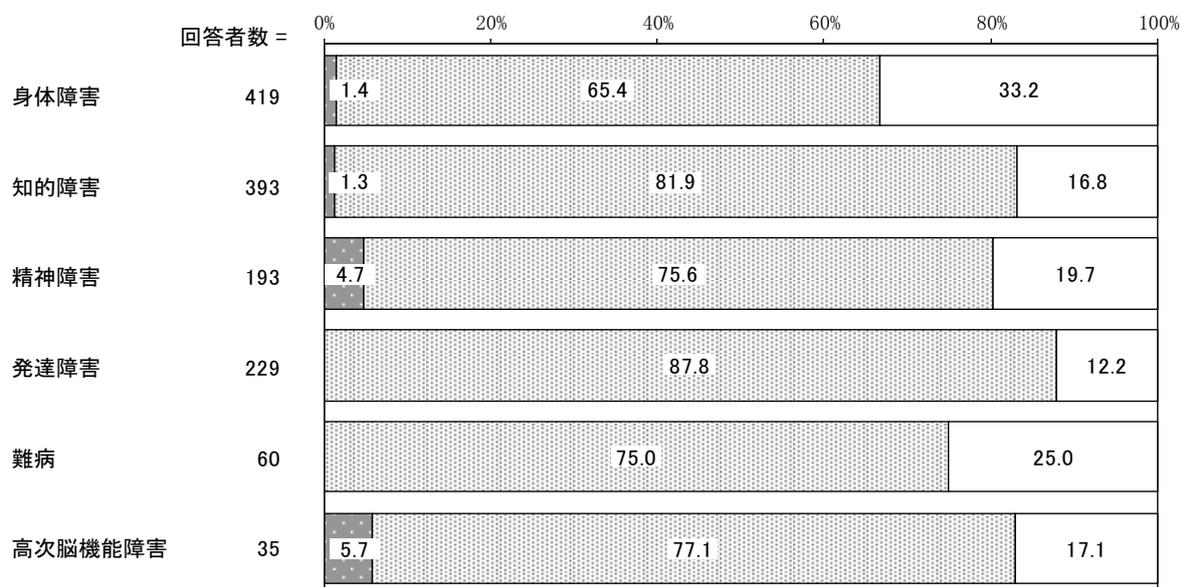
⑩現在利用しているか 地域移行支援

「利用している」の割合が2.0%、「利用していない」の割合が73.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



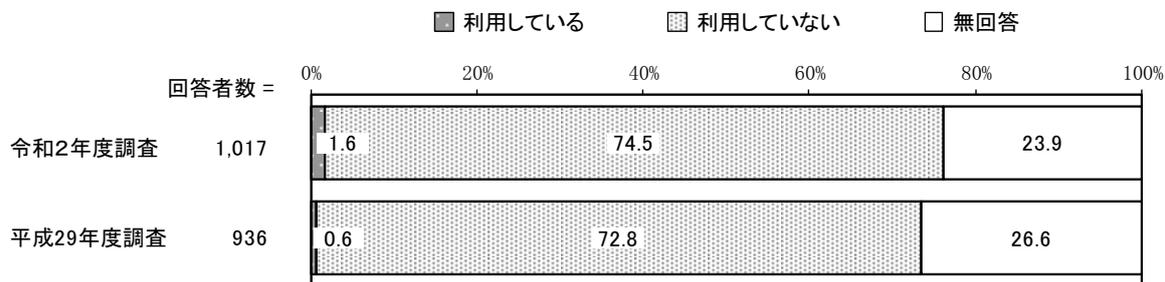
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



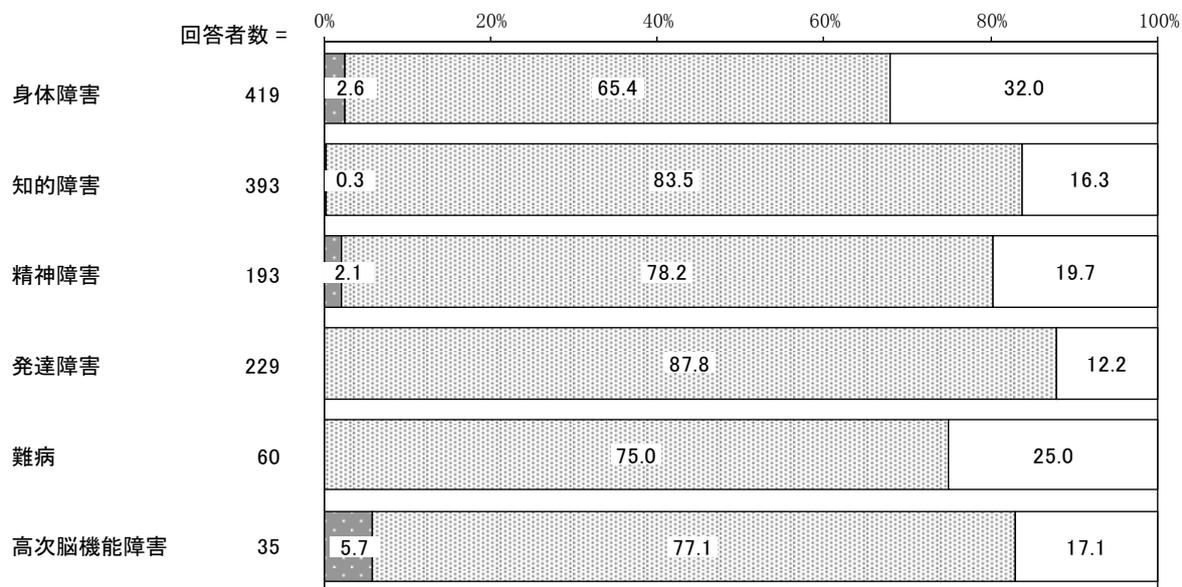
⑱現在利用しているか 地域定着支援

「利用している」の割合が1.6%、「利用していない」の割合が74.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



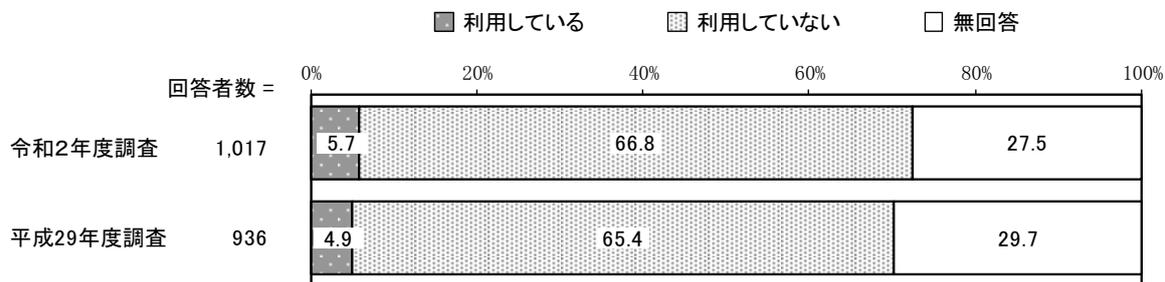
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



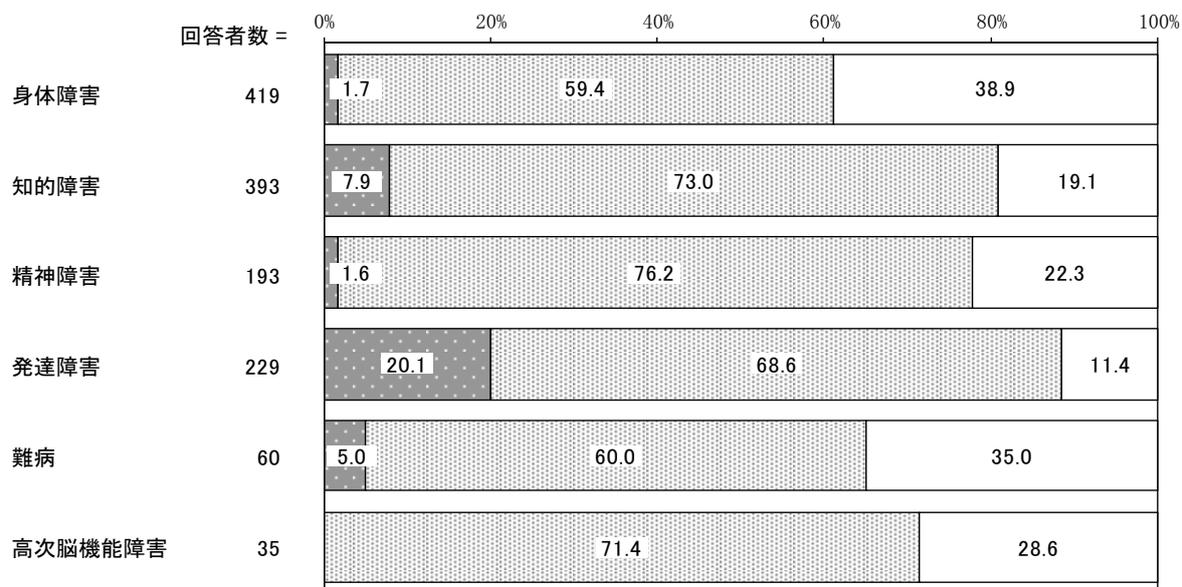
⑳現在利用しているか 児童発達支援

「利用している」の割合が5.7%、「利用していない」の割合が66.8%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



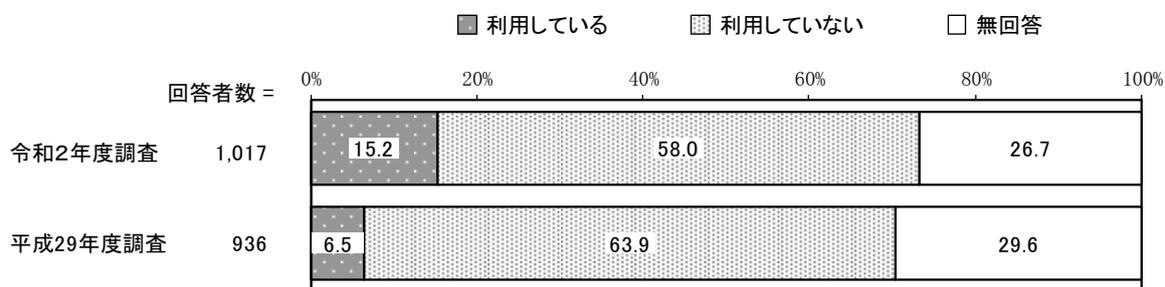
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用している」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、精神障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



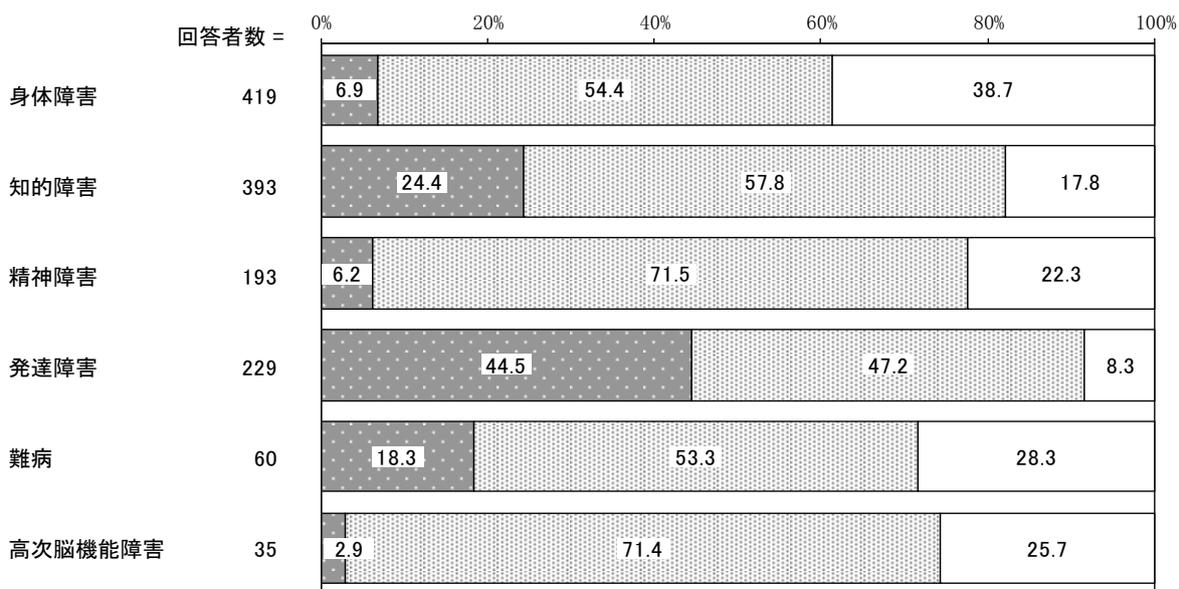
⑳現在利用しているか 放課後等デイサービス

「利用している」の割合が15.2%、「利用していない」の割合が58.0%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。一方、「利用していない」の割合が減少しています。



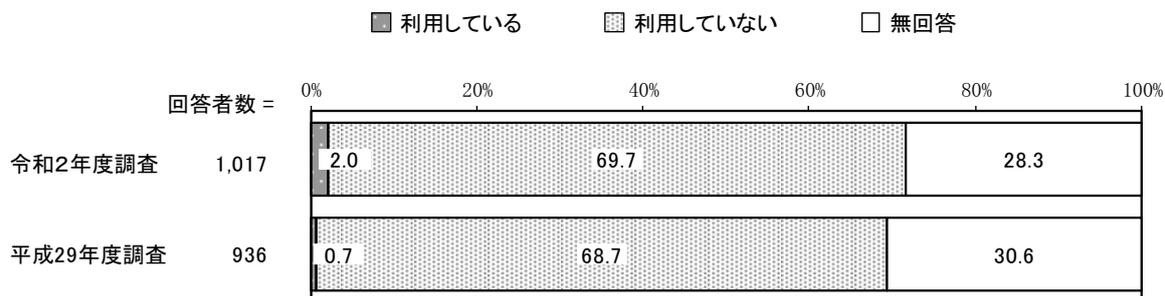
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用している」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、精神障害、高次脳機能障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



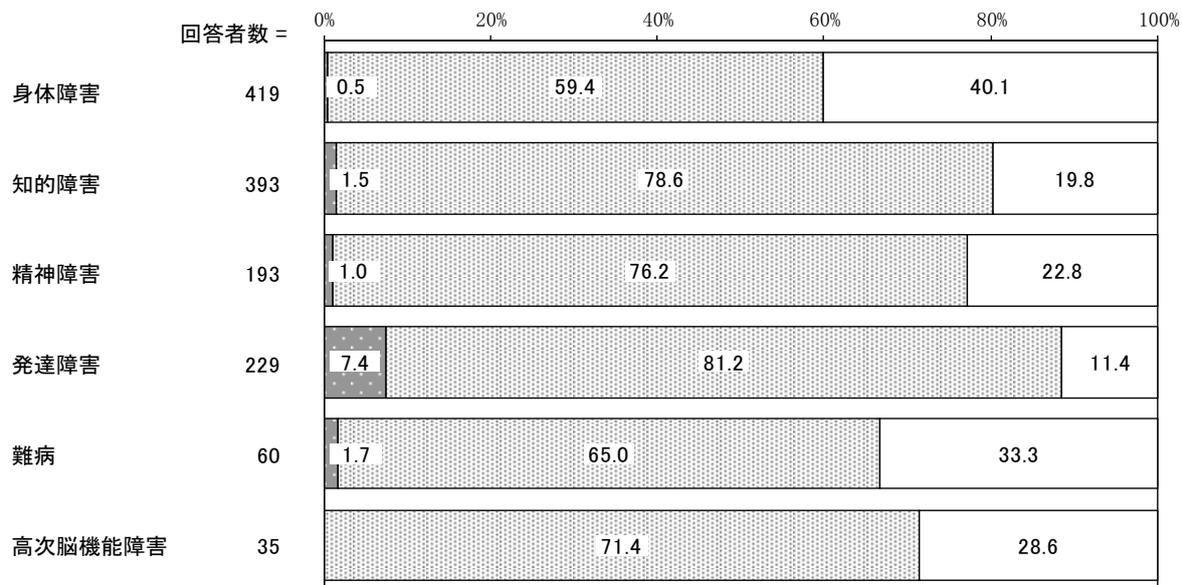
②現在利用しているか 保育所等訪問支援

「利用している」の割合が2.0%、「利用していない」の割合が69.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



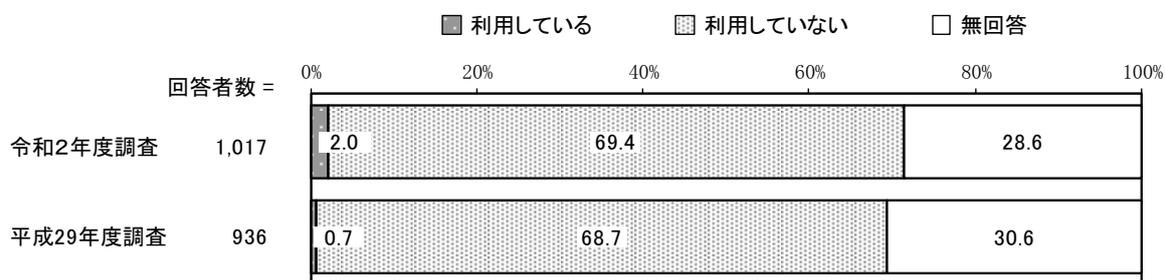
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用している」「利用していない」の割合が高くなっています。



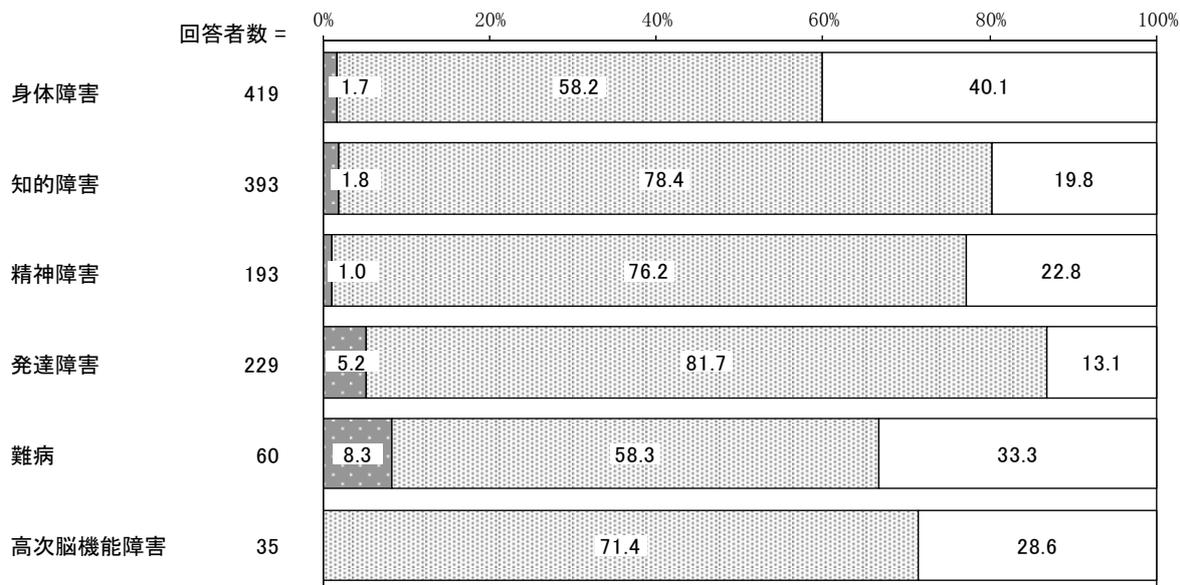
②③現在利用しているか 医療型児童発達支援

「利用している」の割合が2.0%、「利用していない」の割合が69.4%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



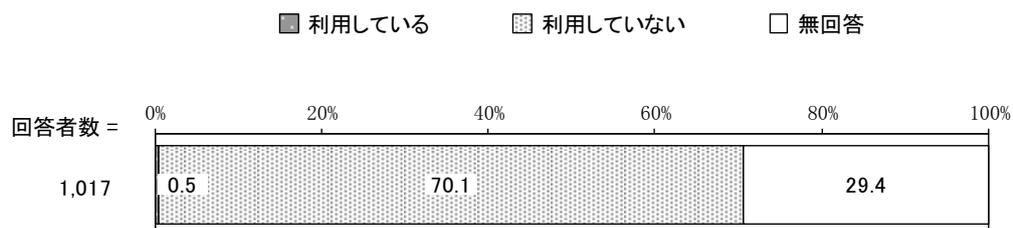
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用している」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



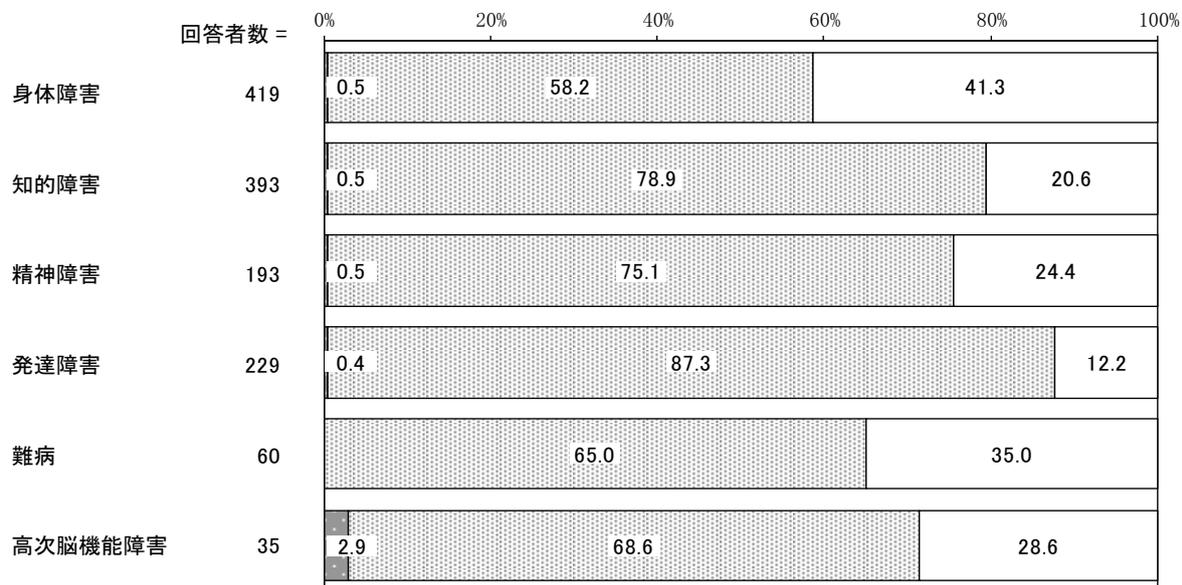
④現在利用しているか 居宅訪問型児童発達支援

「利用している」の割合が0.5%、「利用していない」の割合が70.1%となっています。



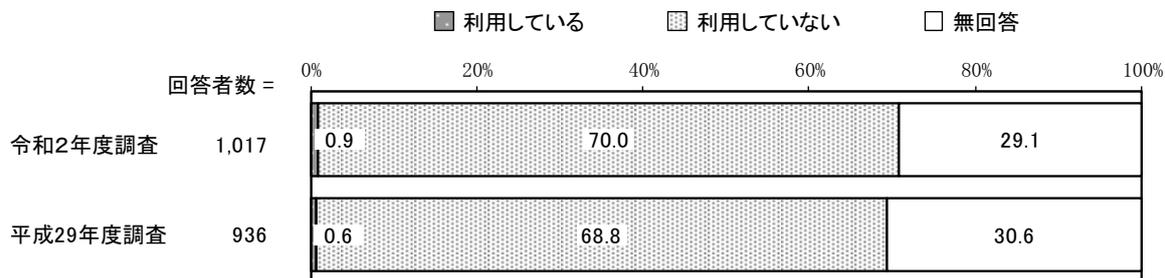
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



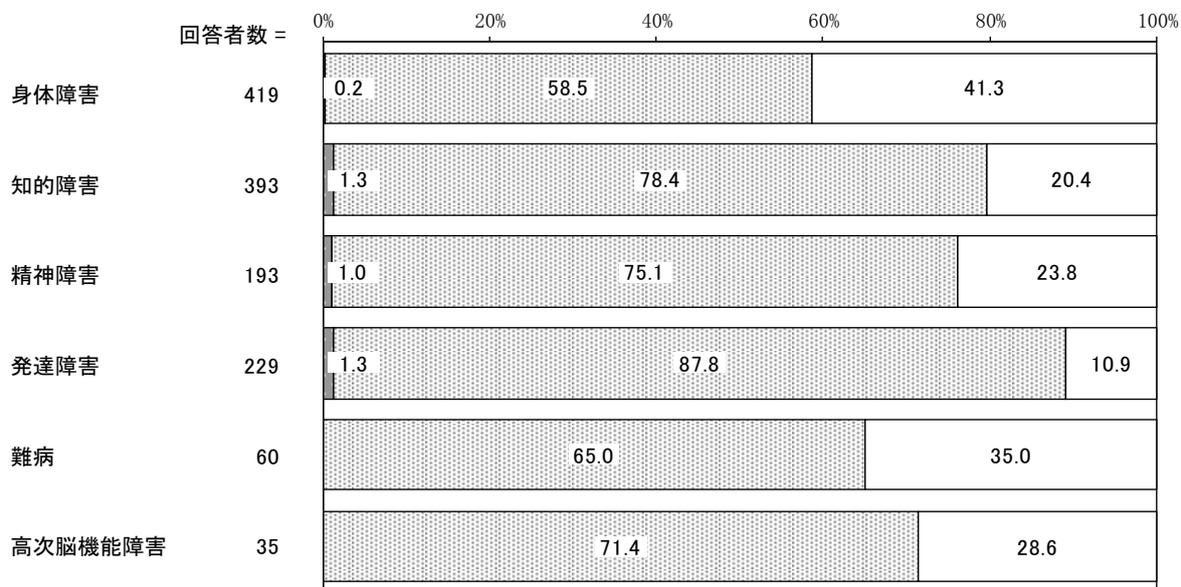
⑤現在利用しているか 福祉型障害児入所施設

「利用している」の割合が0.9%、「利用していない」の割合が70.0%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



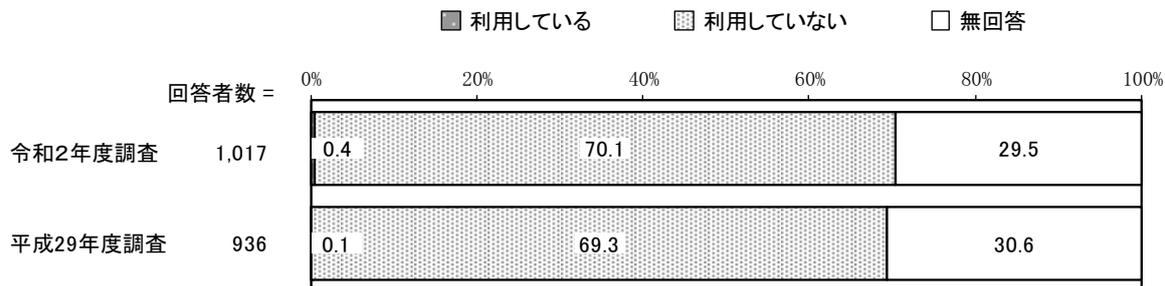
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



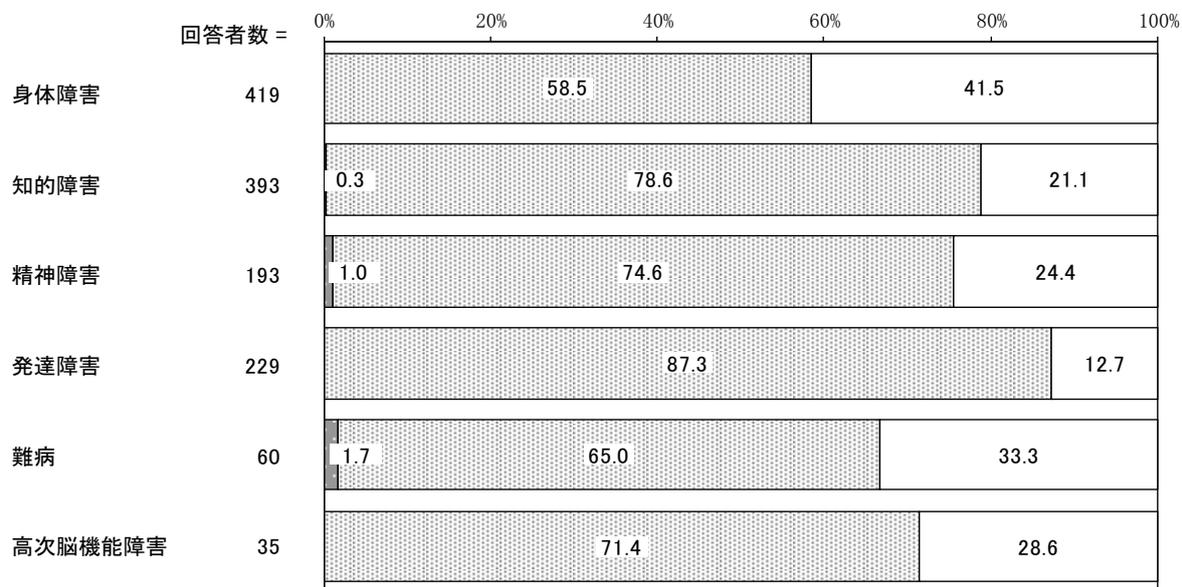
②⑥現在利用しているか 医療型障害児入所施設

「利用している」の割合が0.4%、「利用していない」の割合が70.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



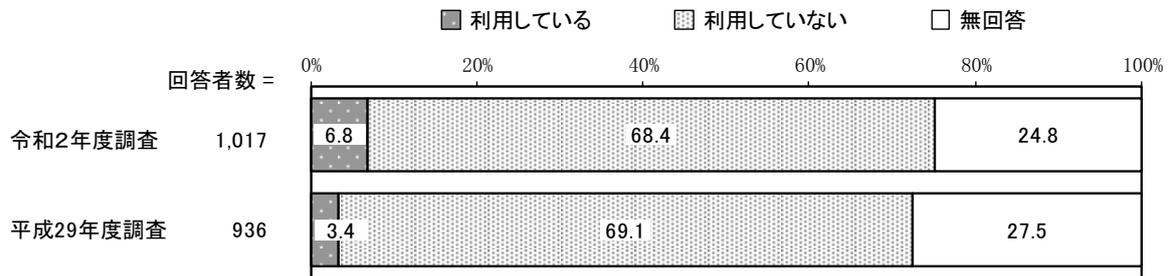
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



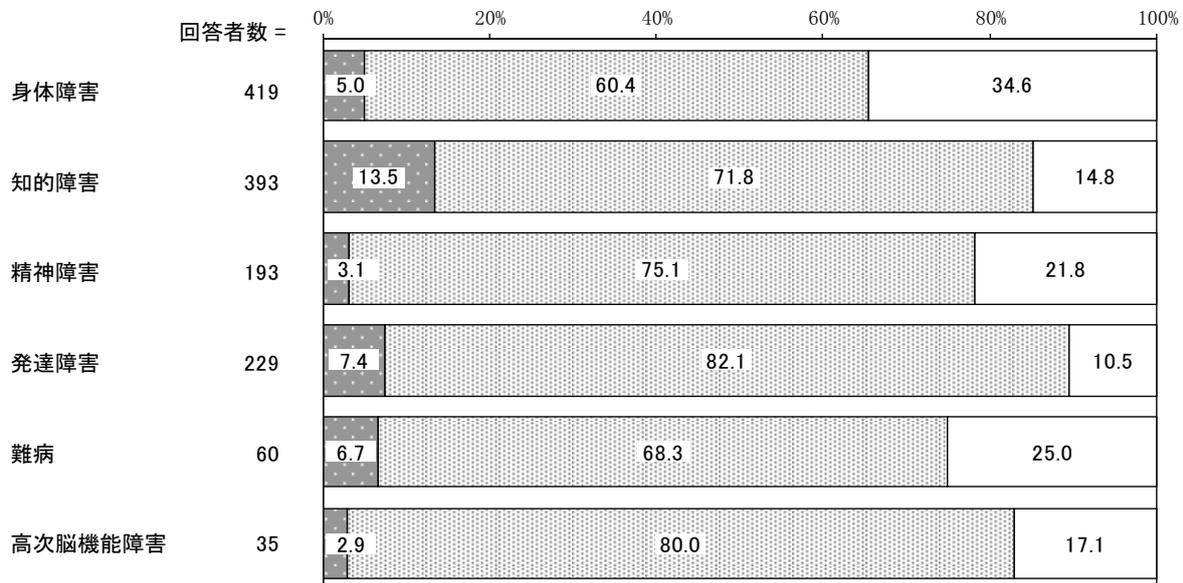
②⑦現在利用しているか 移動支援

「利用している」の割合が6.8%、「利用していない」の割合が68.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



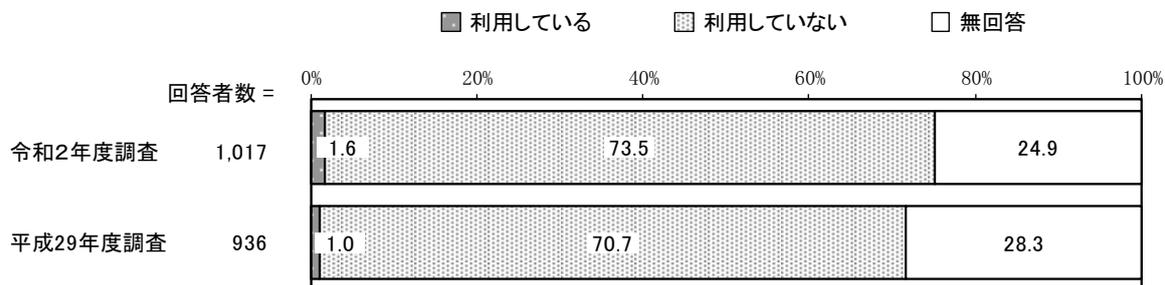
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、知的障害で「利用している」の割合が高くなっています。



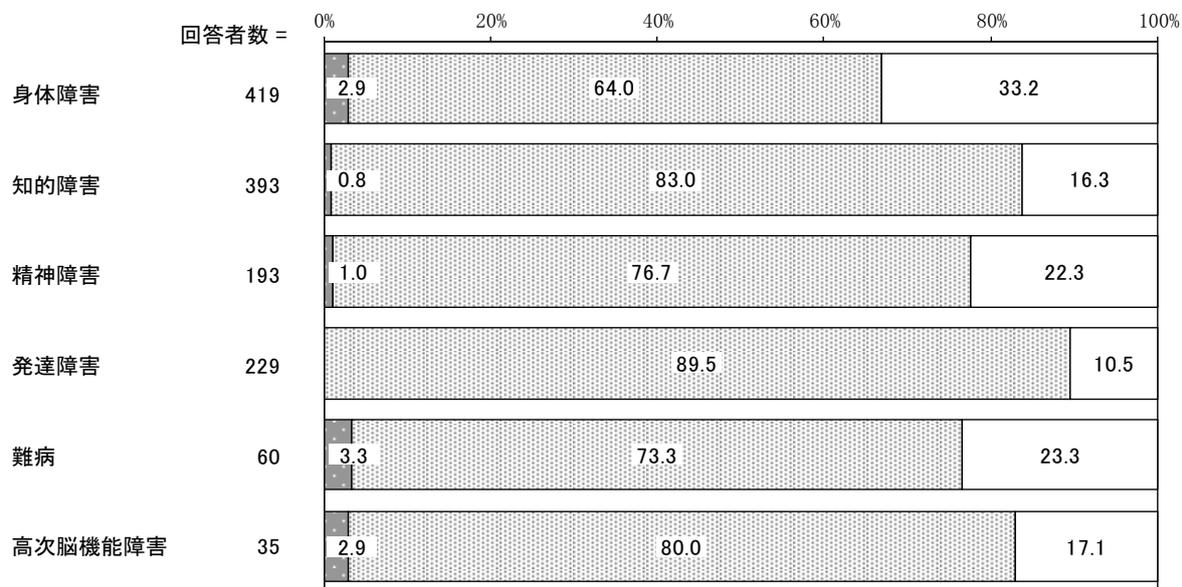
⑳現在利用しているか 訪問入浴サービス

「利用している」の割合が1.6%、「利用していない」の割合が73.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



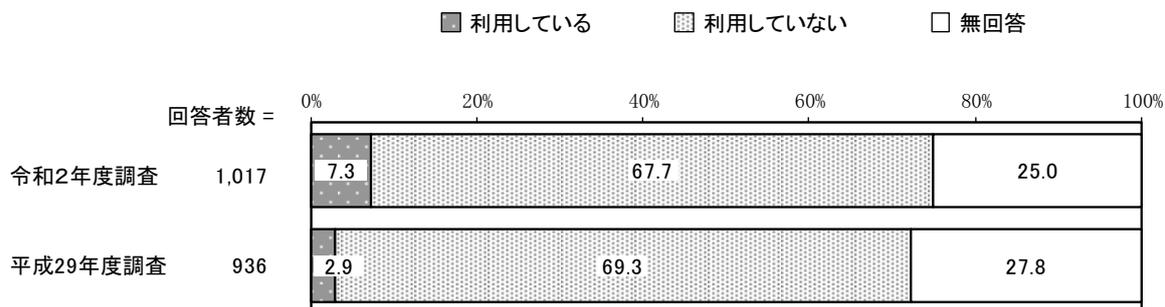
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用していない」の割合が高くなっています。



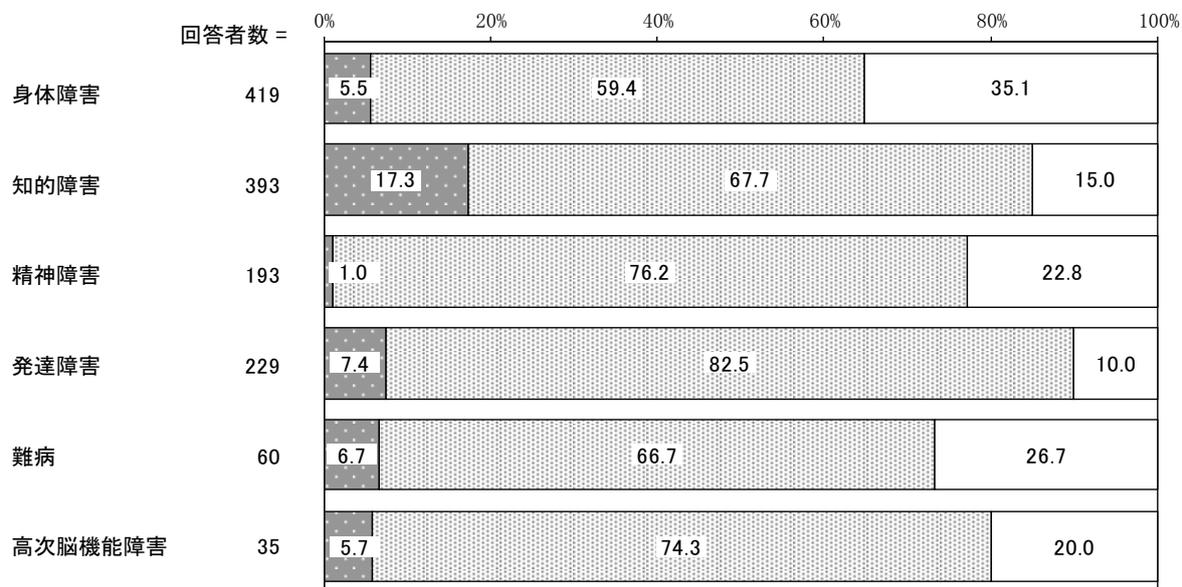
⑳現在利用しているか 日中一時支援

「利用している」の割合が7.3%、「利用していない」の割合が67.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



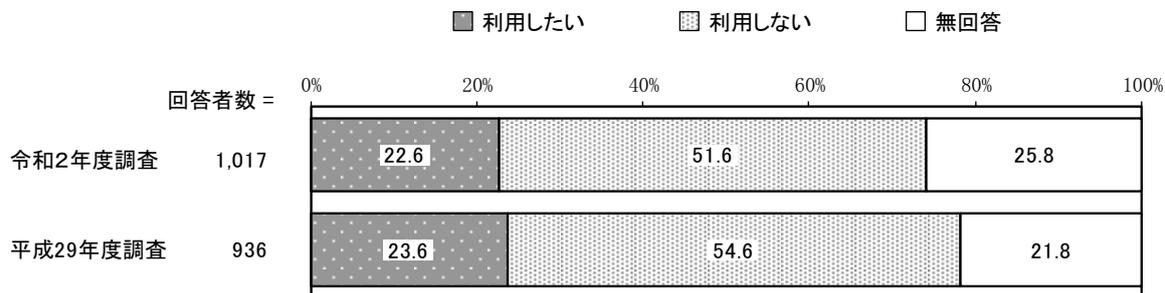
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「利用している」の割合が高くなっています。



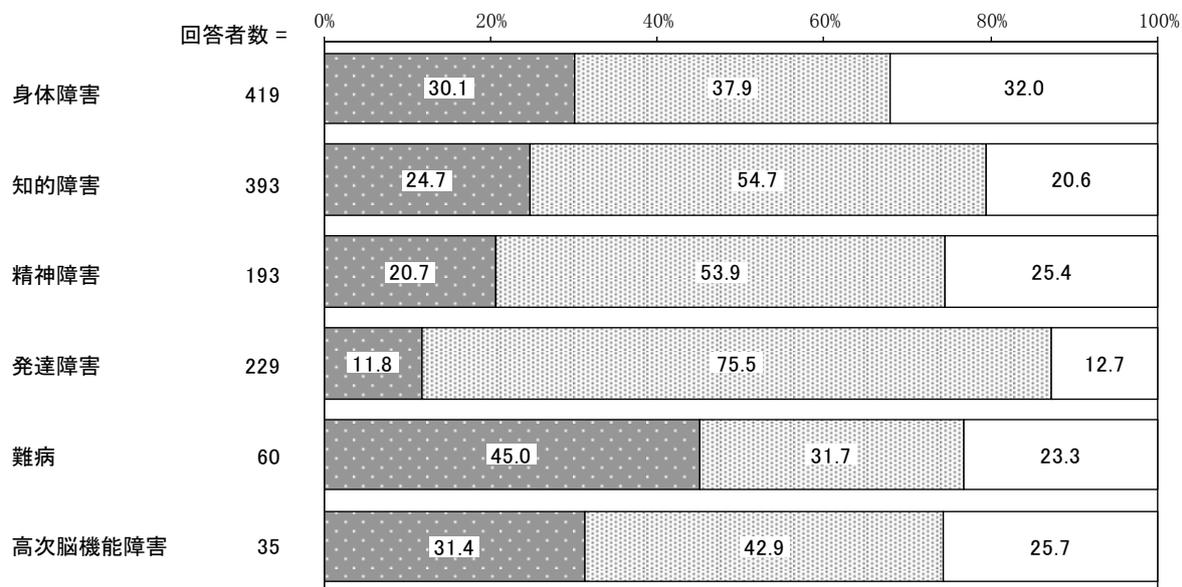
①今後利用したいか 居宅介護（ホームヘルプ）

「利用したい」の割合が22.6%、「利用しない」の割合が51.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



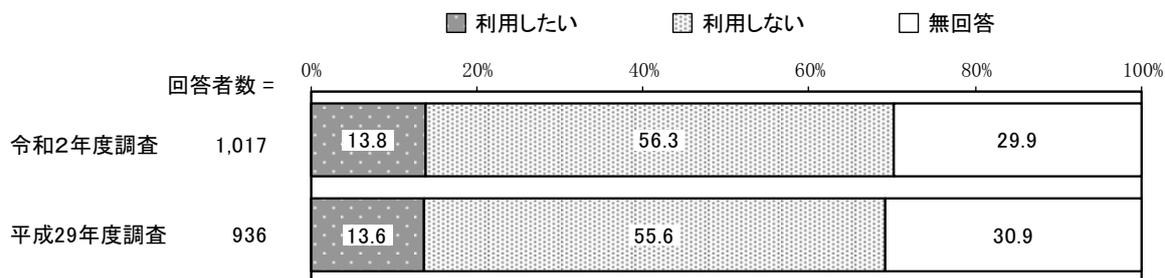
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



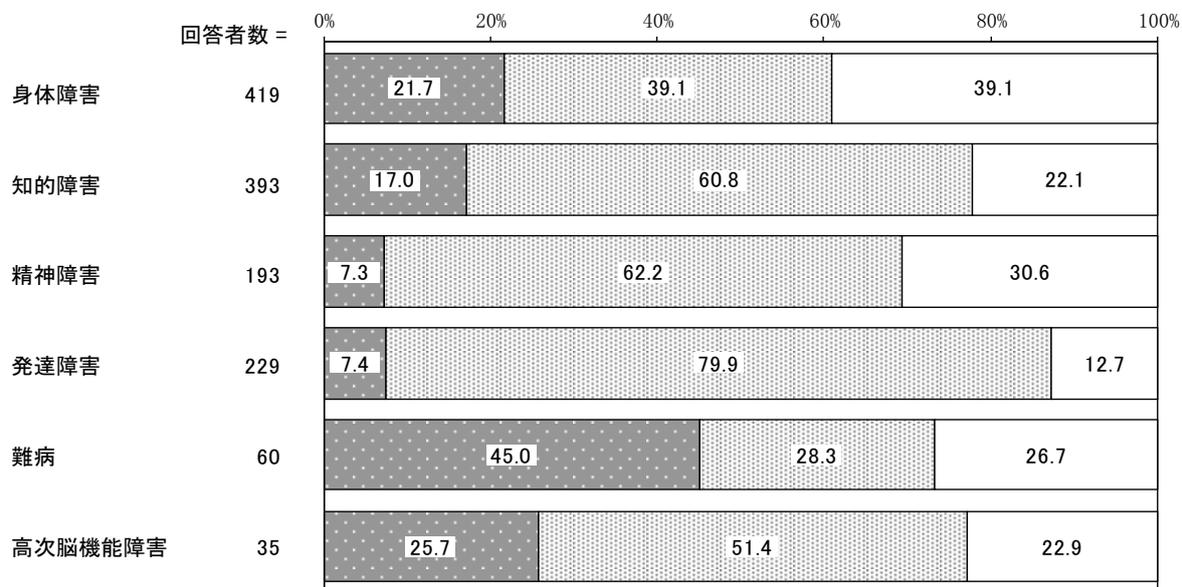
②今後利用したいか 重度訪問介護

「利用したい」の割合が13.8%、「利用しない」の割合が56.3%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



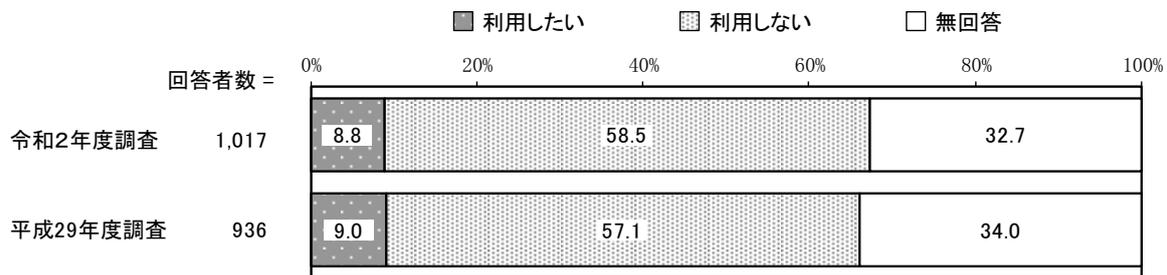
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



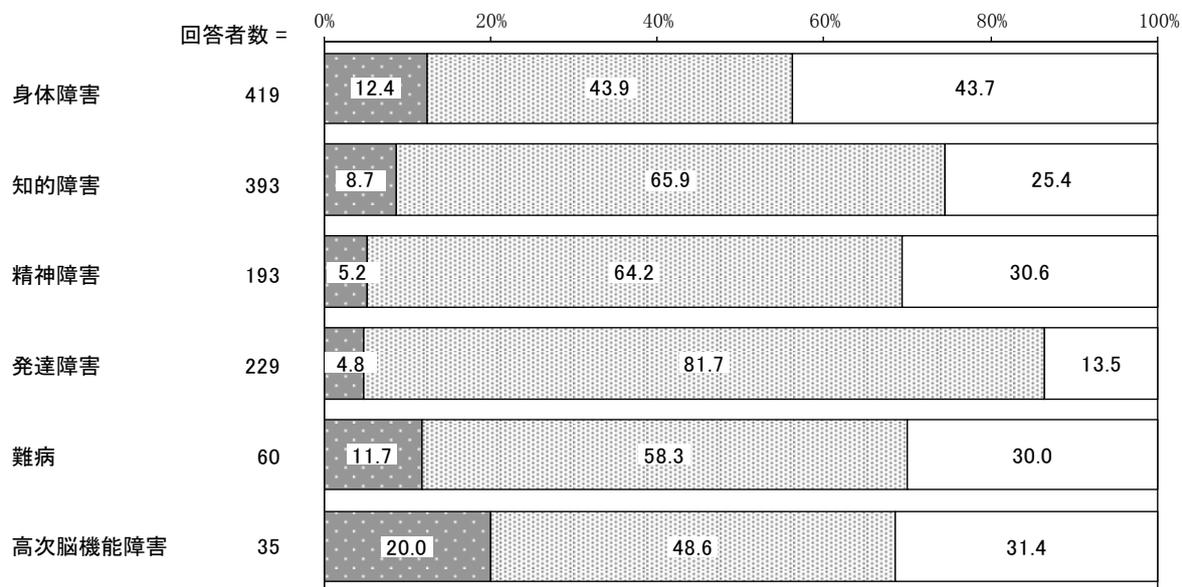
③今後利用したいか 同行援護

「利用したい」の割合が8.8%、「利用しない」の割合が58.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



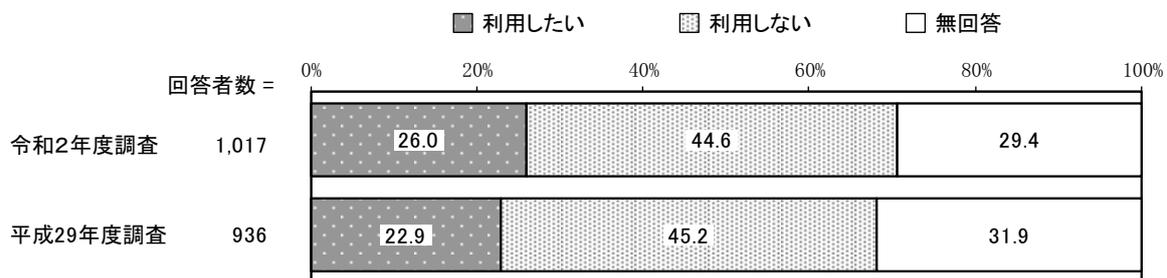
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



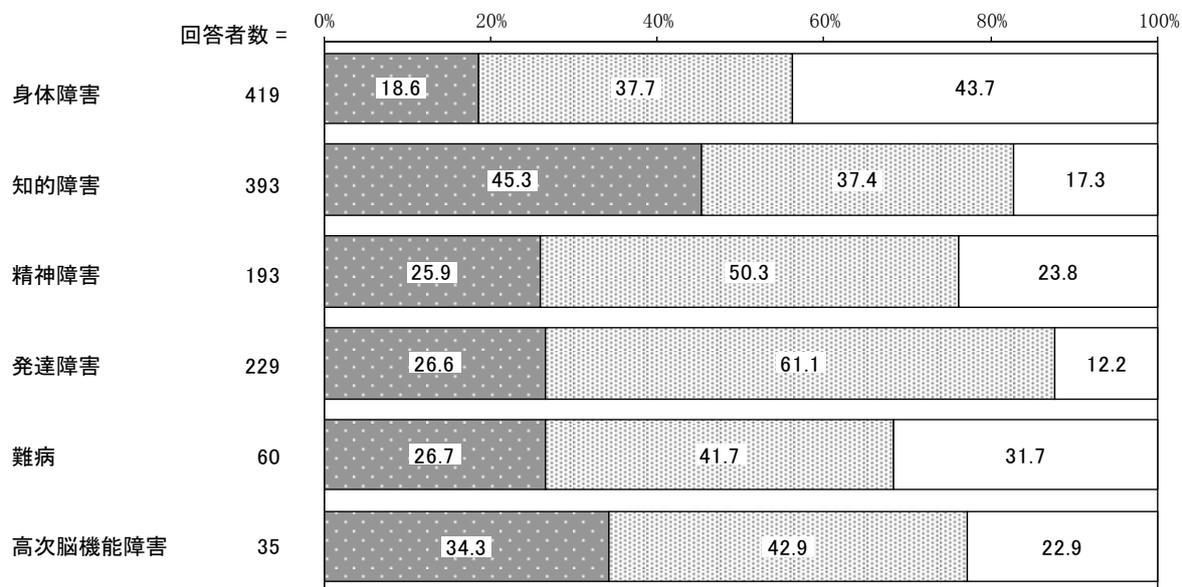
④今後利用したいか 行動援護

「利用したい」の割合が26.0%、「利用しない」の割合が44.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



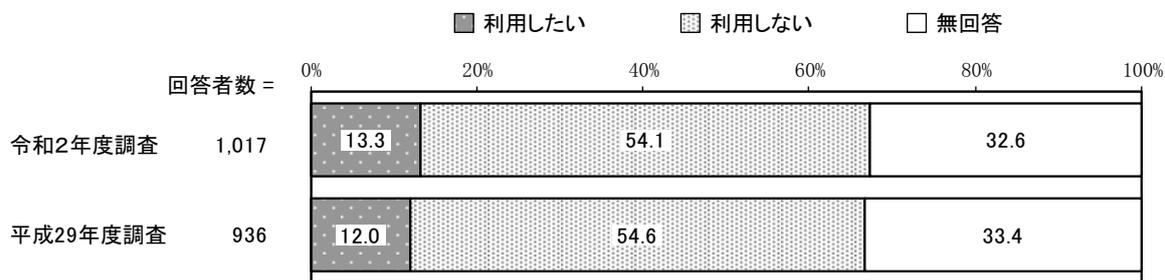
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



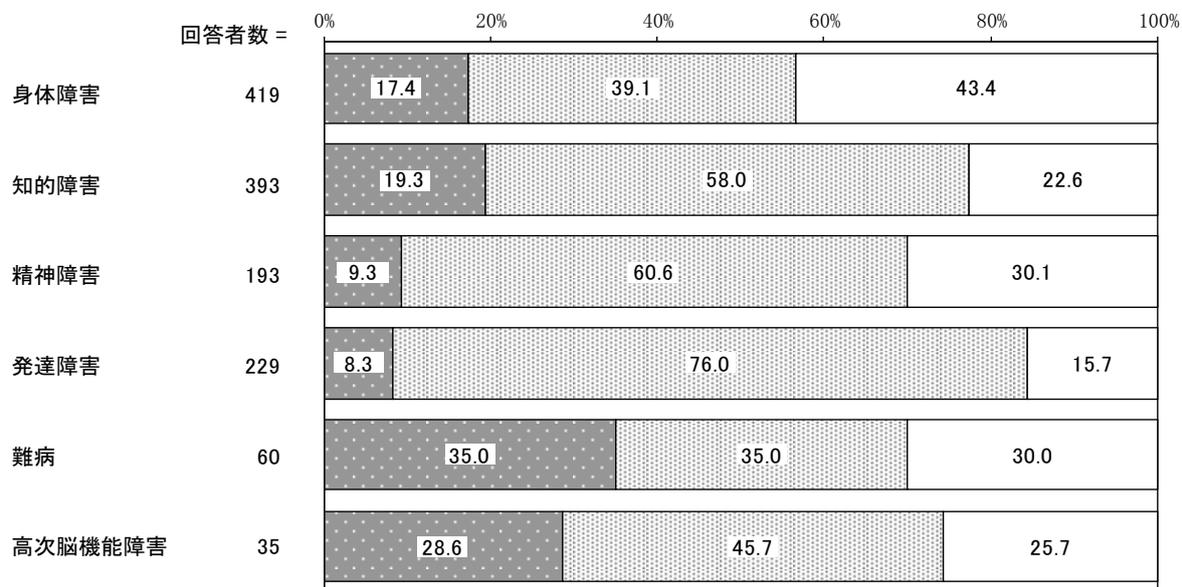
⑤今後利用したいか 重度障害者等包括支援

「利用したい」の割合が13.3%、「利用しない」の割合が54.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



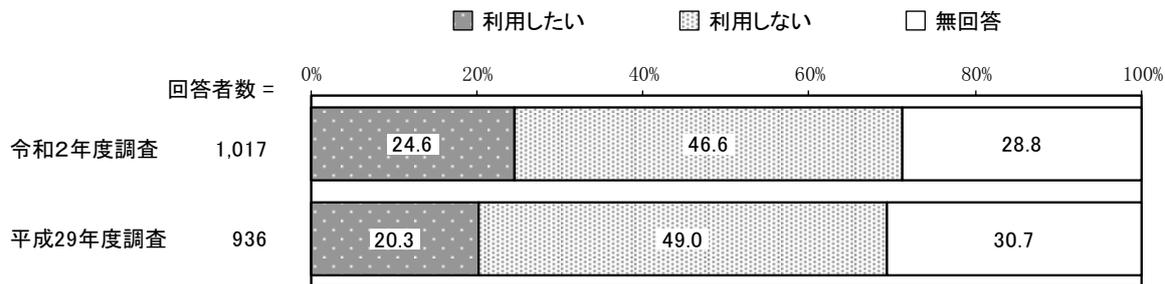
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



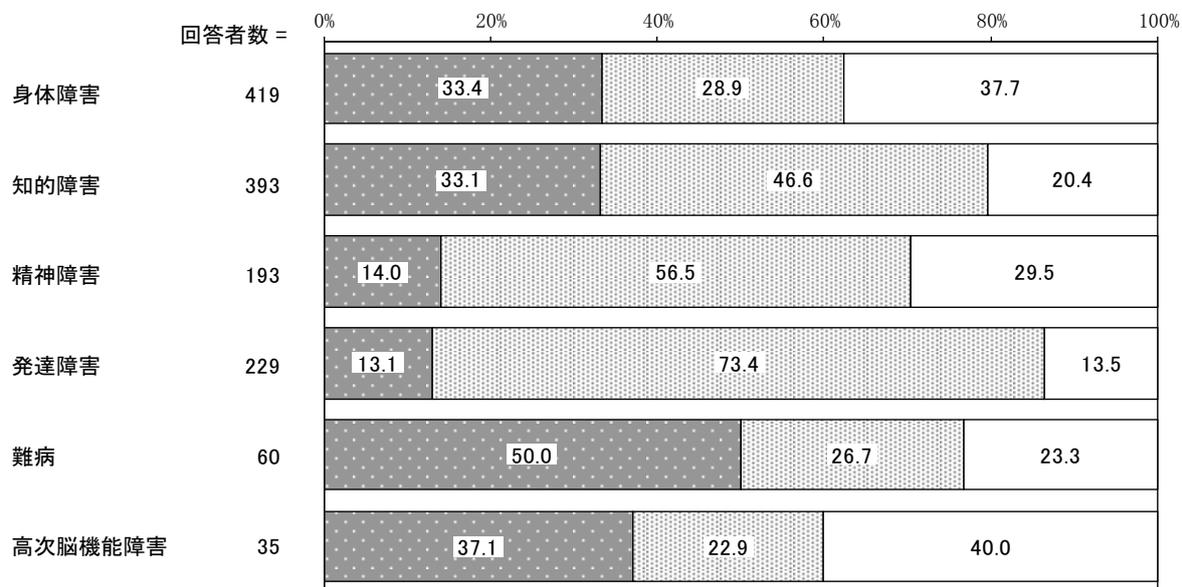
⑥今後利用したいか 生活介護

「利用したい」の割合が24.6%、「利用しない」の割合が46.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



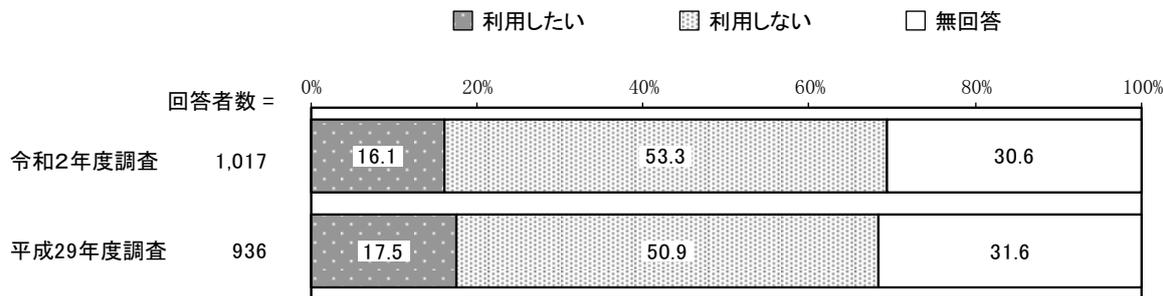
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



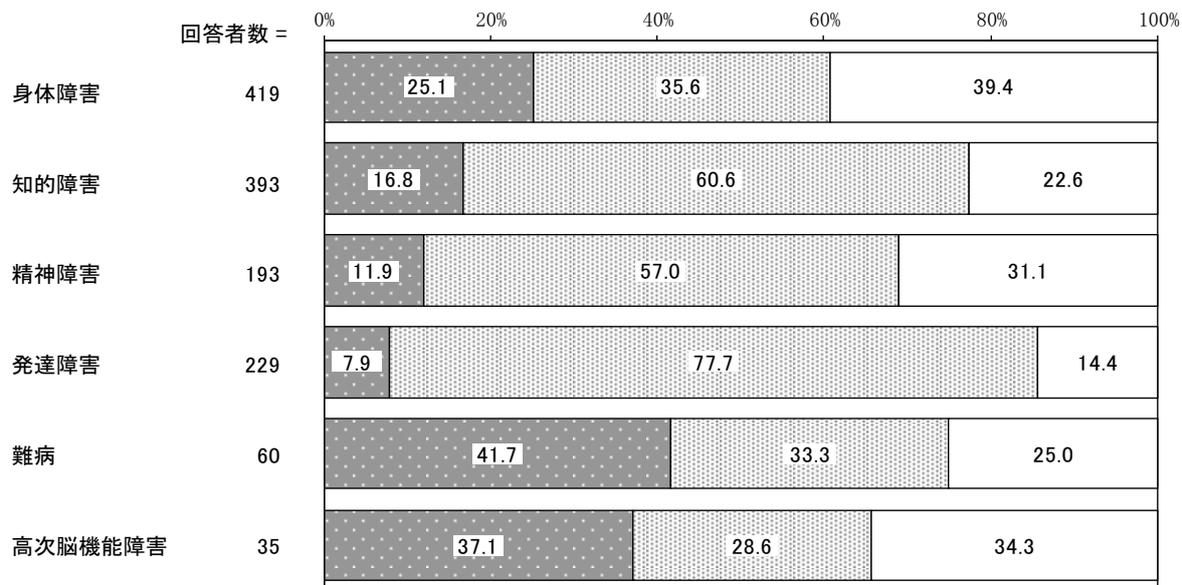
⑦今後利用したいか 自立訓練（機能訓練）

「利用したい」の割合が16.1%、「利用しない」の割合が53.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



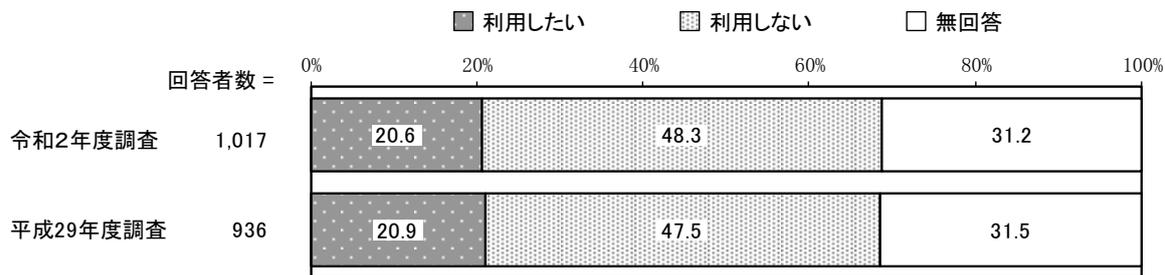
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



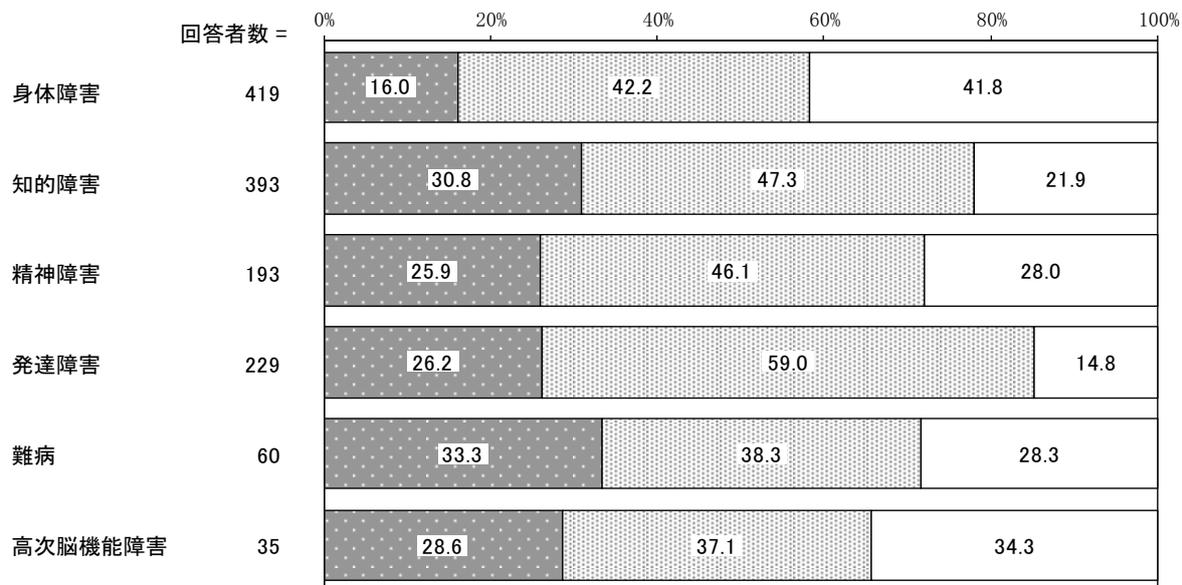
⑧今後利用したいか 自立訓練（生活訓練）

「利用したい」の割合が20.6%、「利用しない」の割合が48.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



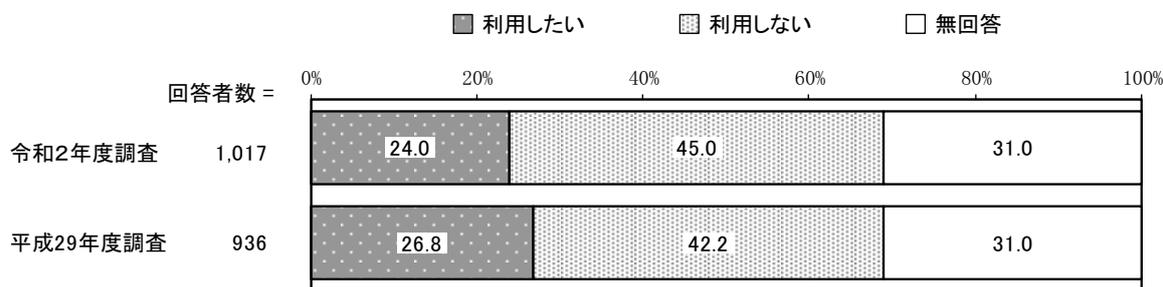
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



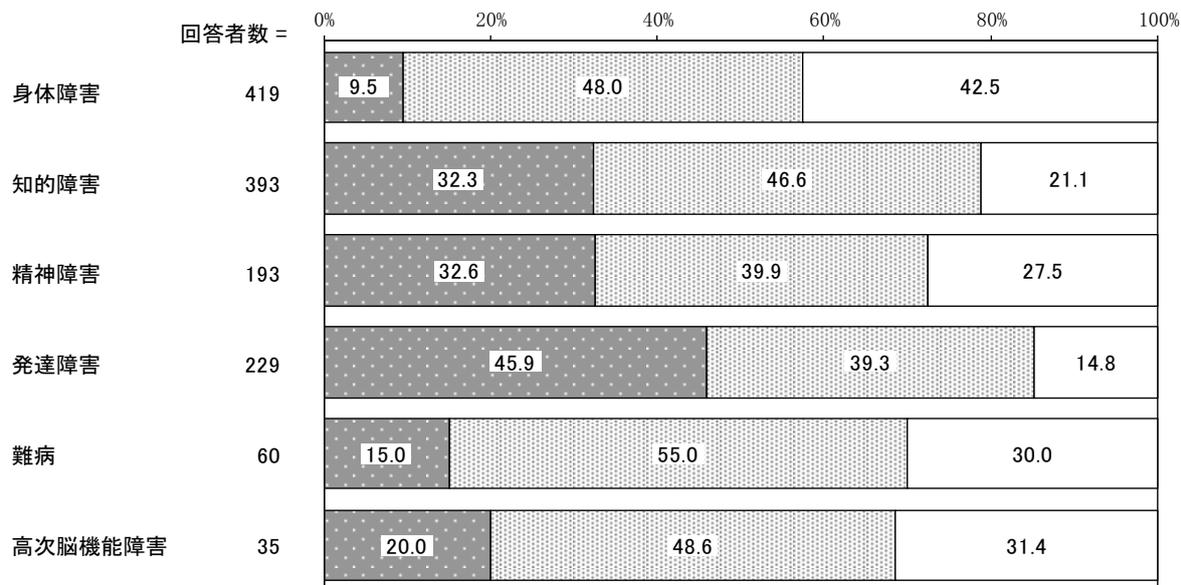
⑨今後利用したいか 就労移行支援

「利用したい」の割合が24.0%、「利用しない」の割合が45.0%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



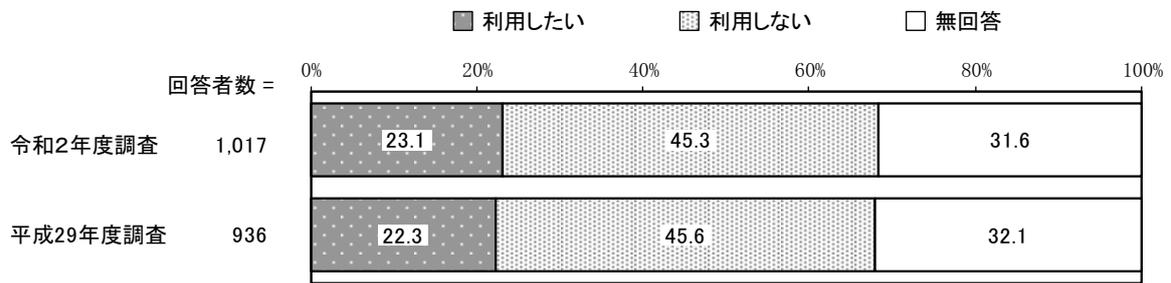
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、難病で「利用しない」の割合が高くなっています。



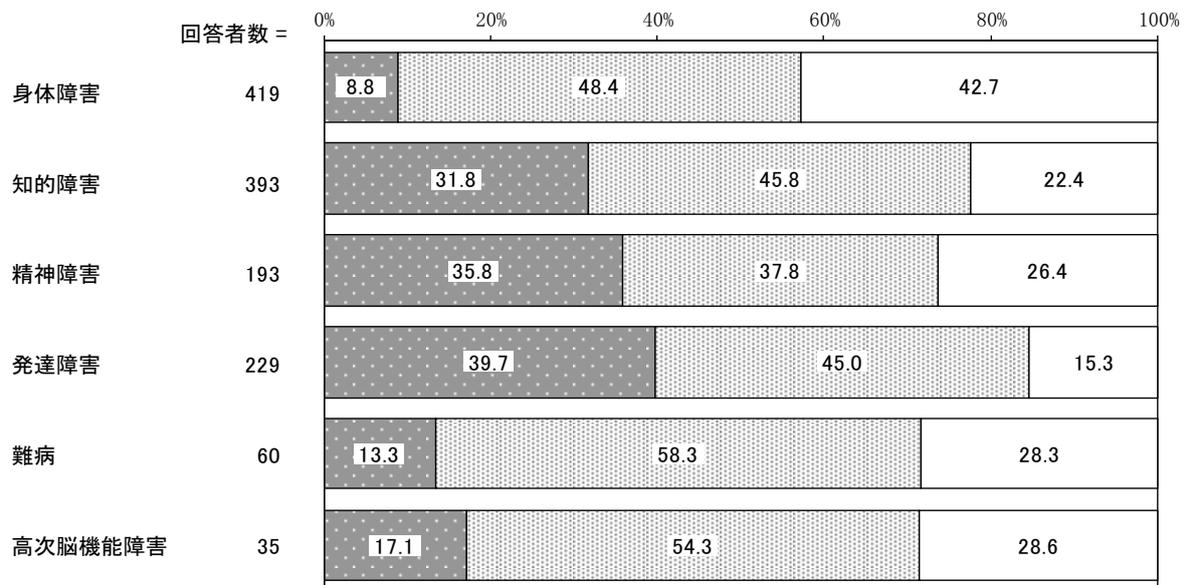
⑩今後利用したいか 就労継続支援（A型）

「利用したい」の割合が23.1%、「利用しない」の割合が45.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



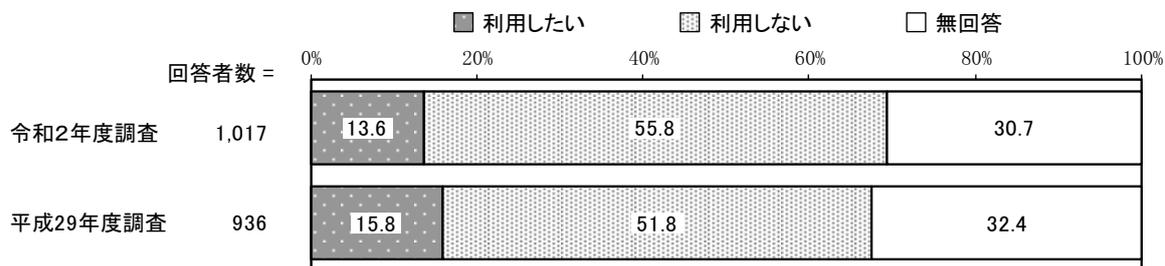
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、難病で「利用しない」の割合が高くなっています。



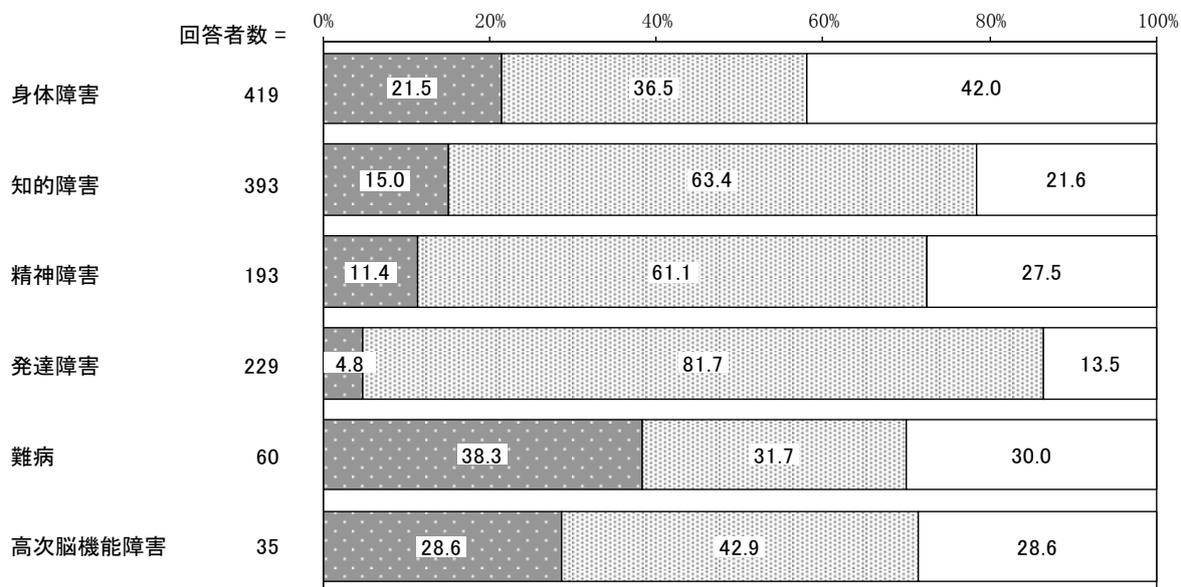
⑪ 今後利用したいか 療養介護

「利用したい」の割合が13.6%、「利用しない」の割合が55.8%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



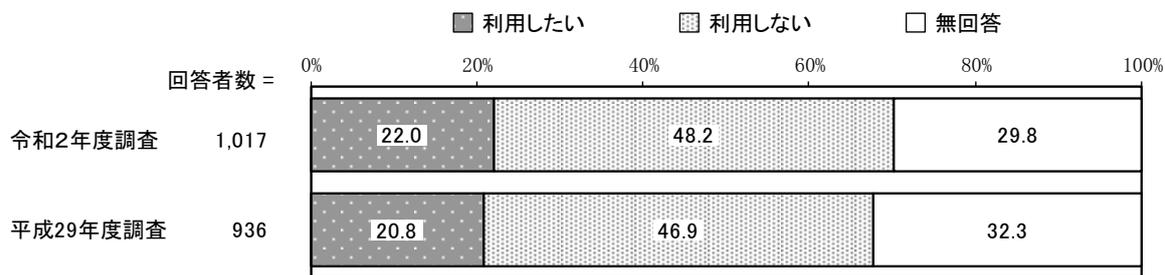
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



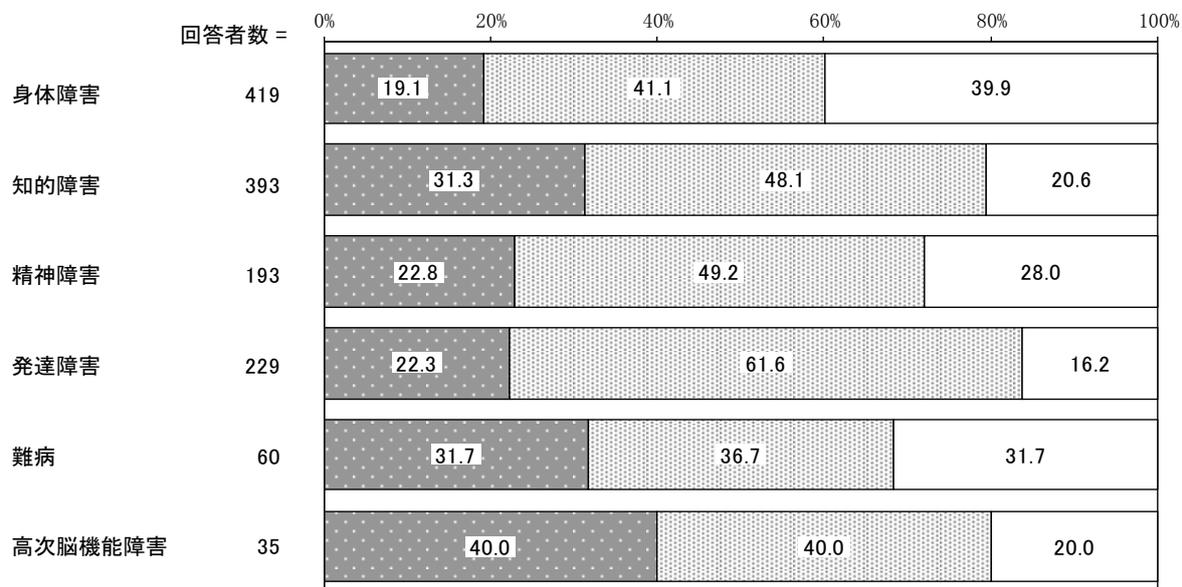
⑫今後利用したいか 自立生活援助

「利用したい」の割合が22.0%、「利用しない」の割合が48.2%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



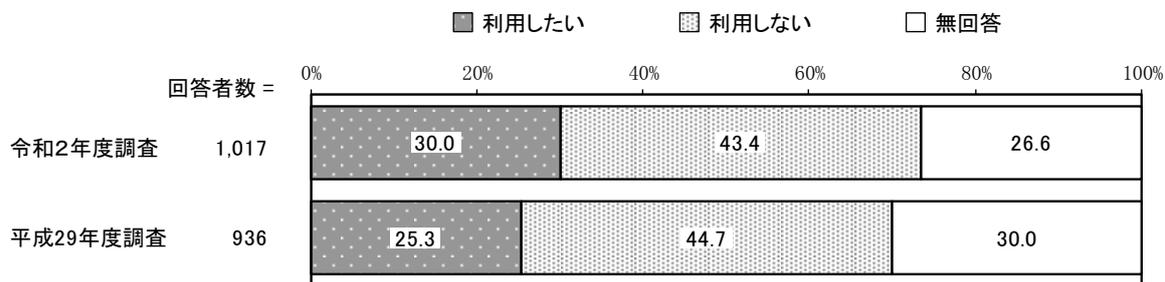
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



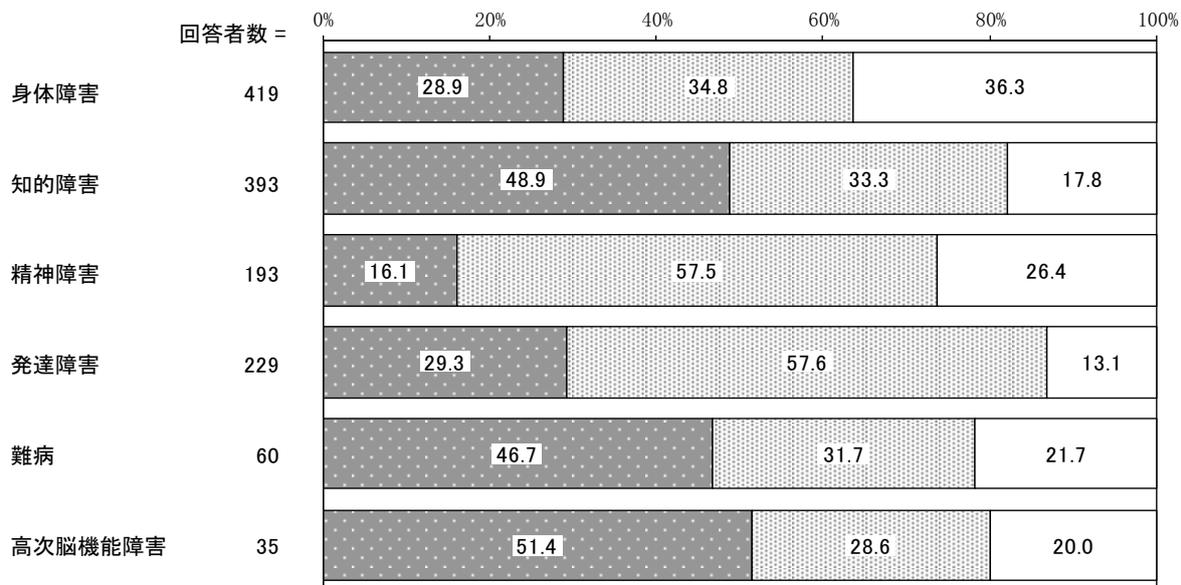
⑬今後利用したいか 福祉型短期入所（福祉型ショートステイ）

「利用したい」の割合が30.0%、「利用しない」の割合が43.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



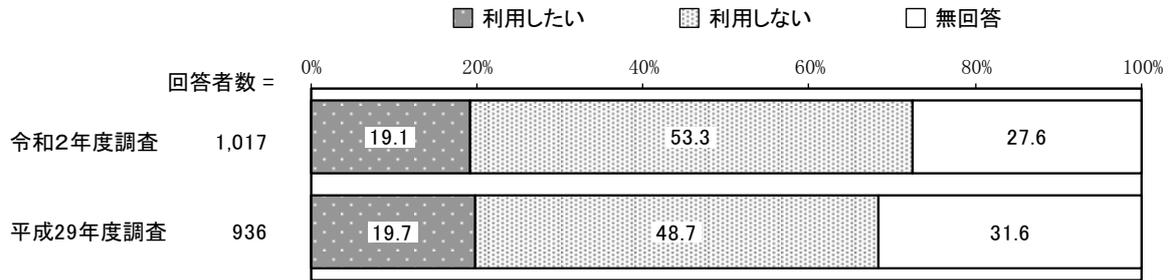
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。
一方、他に比べ、精神障害、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



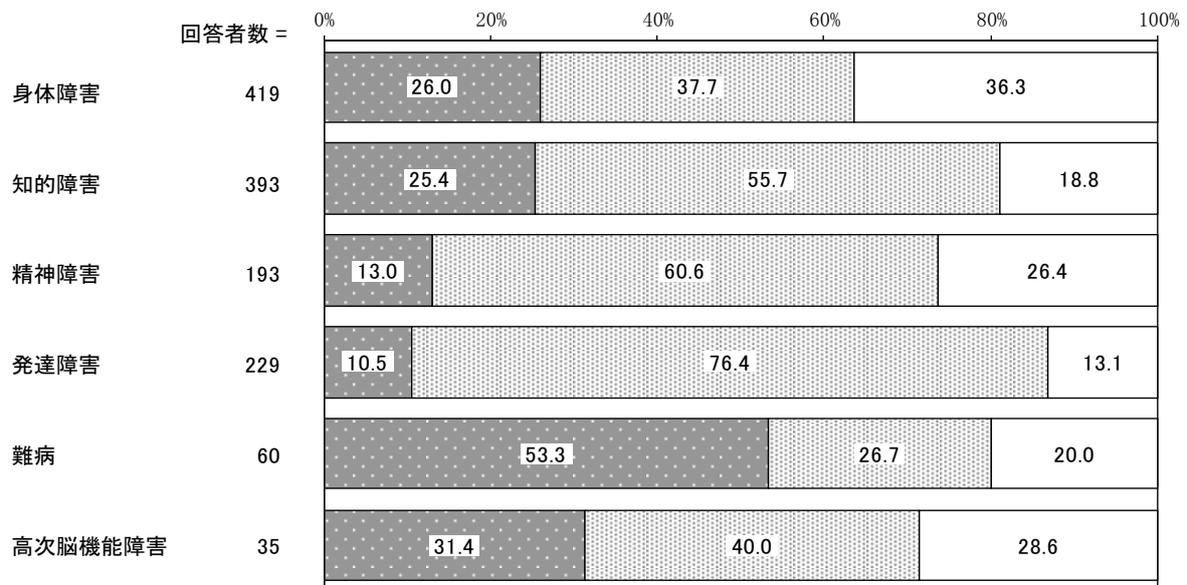
⑭今後利用したいか 医療型短期入所（医療型ショートステイ）

「利用したい」の割合が19.1%、「利用しない」の割合が53.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



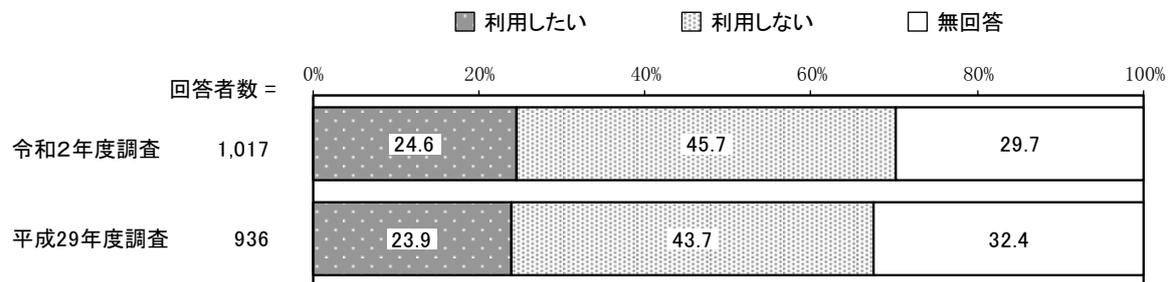
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



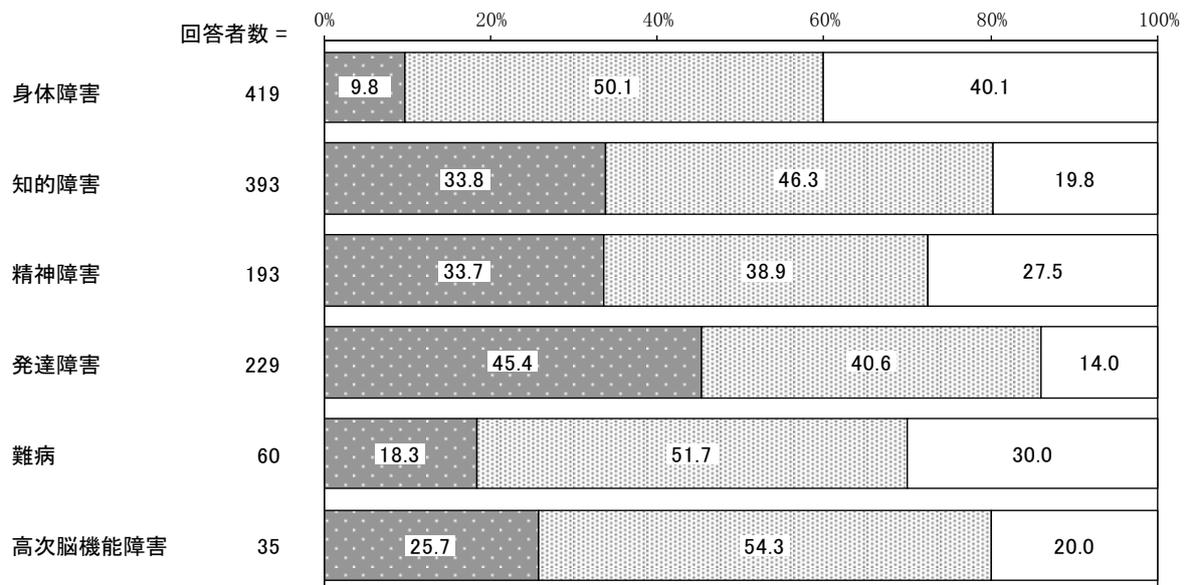
⑮今後利用したいか 就労定着支援

「利用したい」の割合が24.6%、「利用しない」の割合が45.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



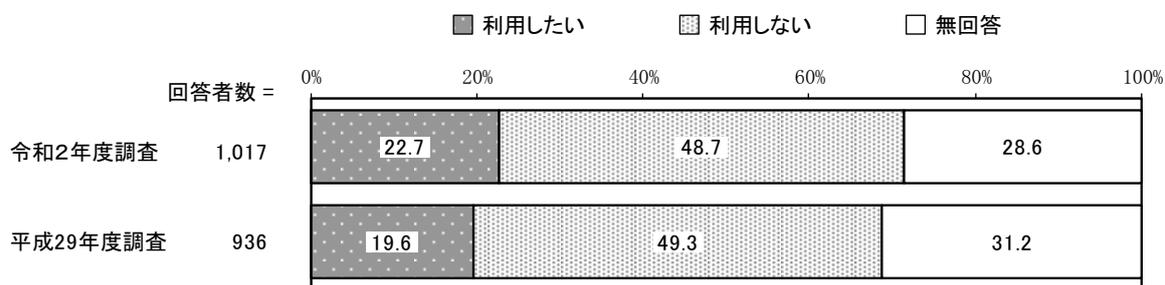
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、高次脳機能障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



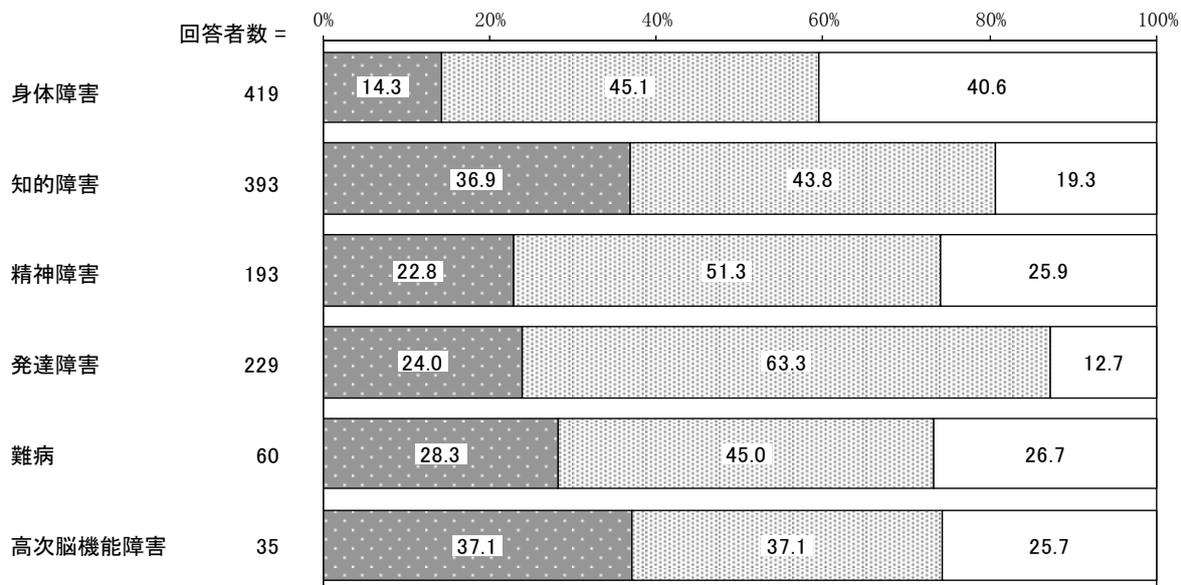
⑩今後利用したいか 共同生活援助（グループホーム）

「利用したい」の割合が22.7%、「利用しない」の割合が48.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



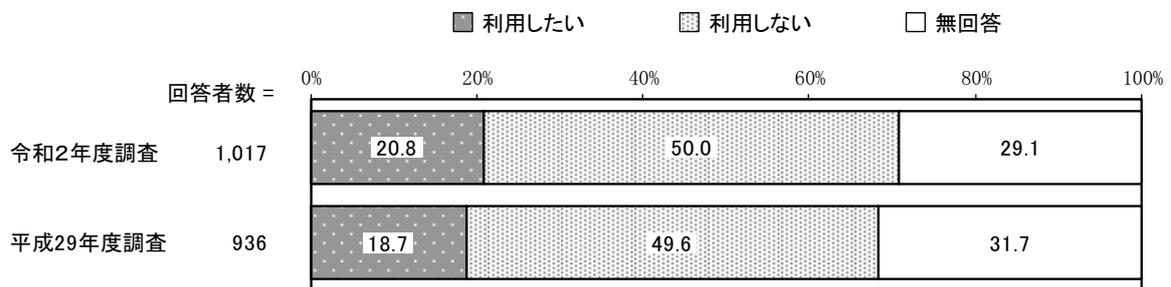
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、知的障害、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



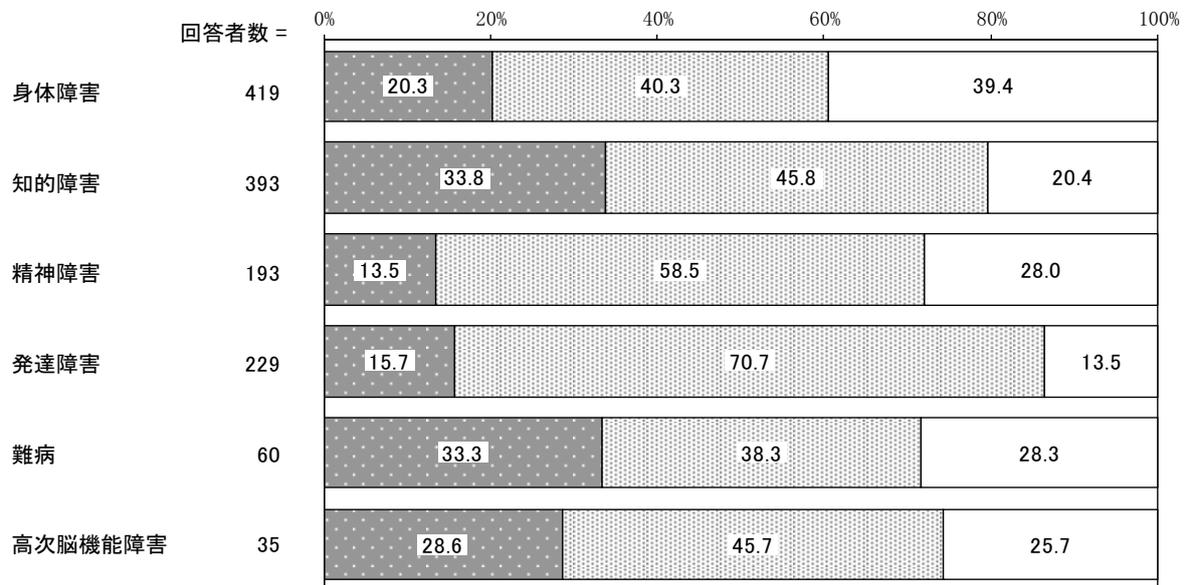
⑰今後利用したいか 施設入所支援

「利用したい」の割合が20.8%、「利用しない」の割合が50.0%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



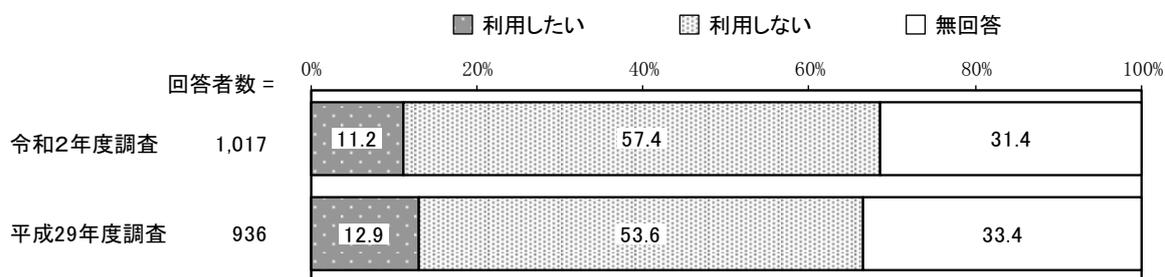
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。



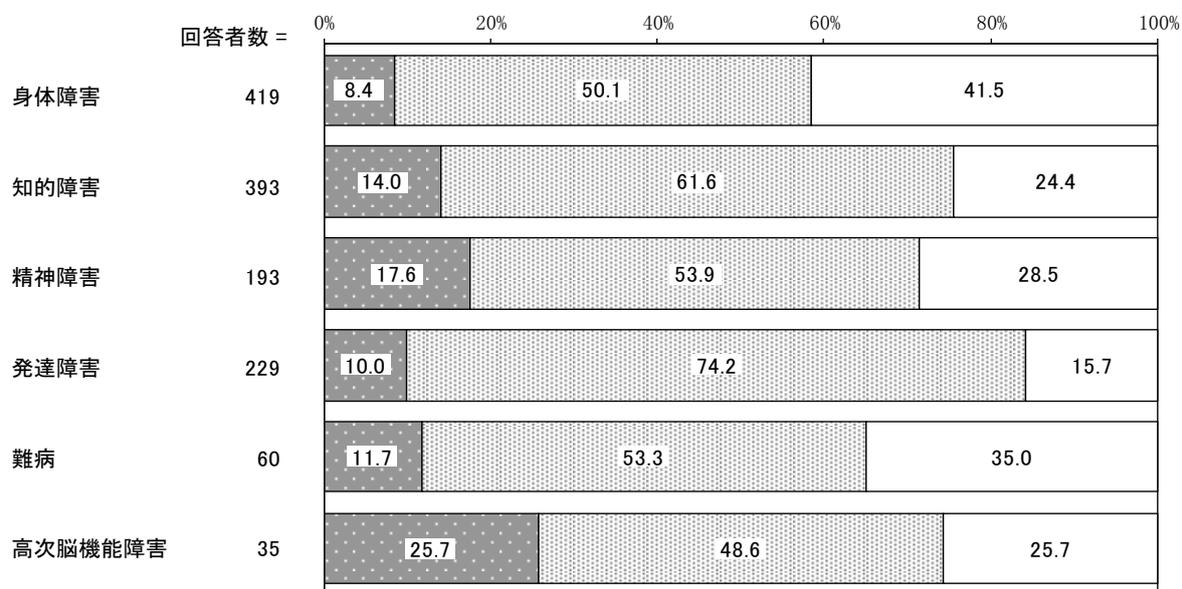
⑩今後利用したいか 地域移行支援

「利用したい」の割合が11.2%、「利用しない」の割合が57.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



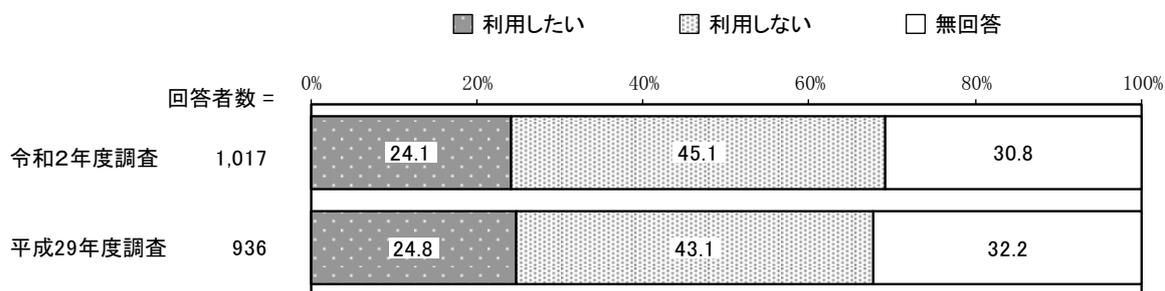
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



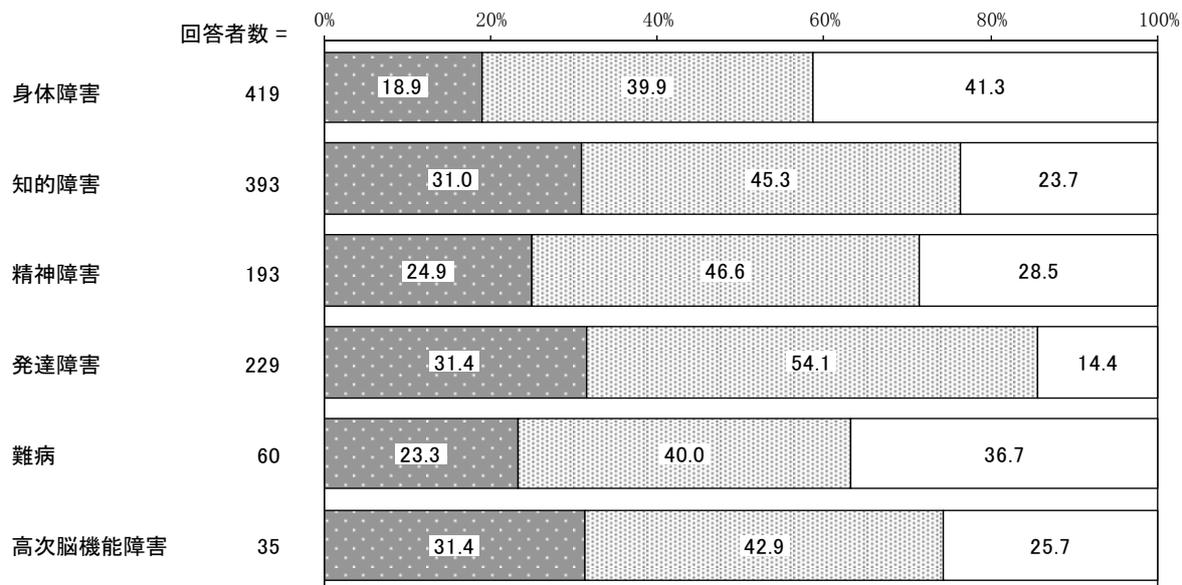
⑱今後利用したいか 地域定着支援

「利用したい」の割合が24.1%、「利用しない」の割合が45.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



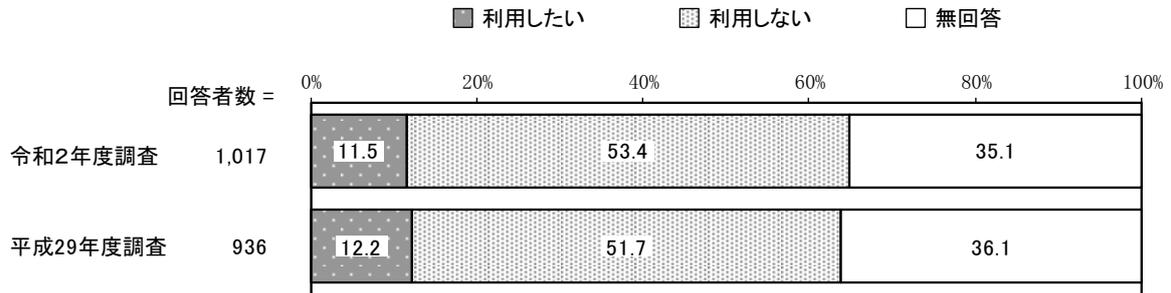
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害、発達障害、高次脳機能障害で「利用したい」の割合が高くなっています。



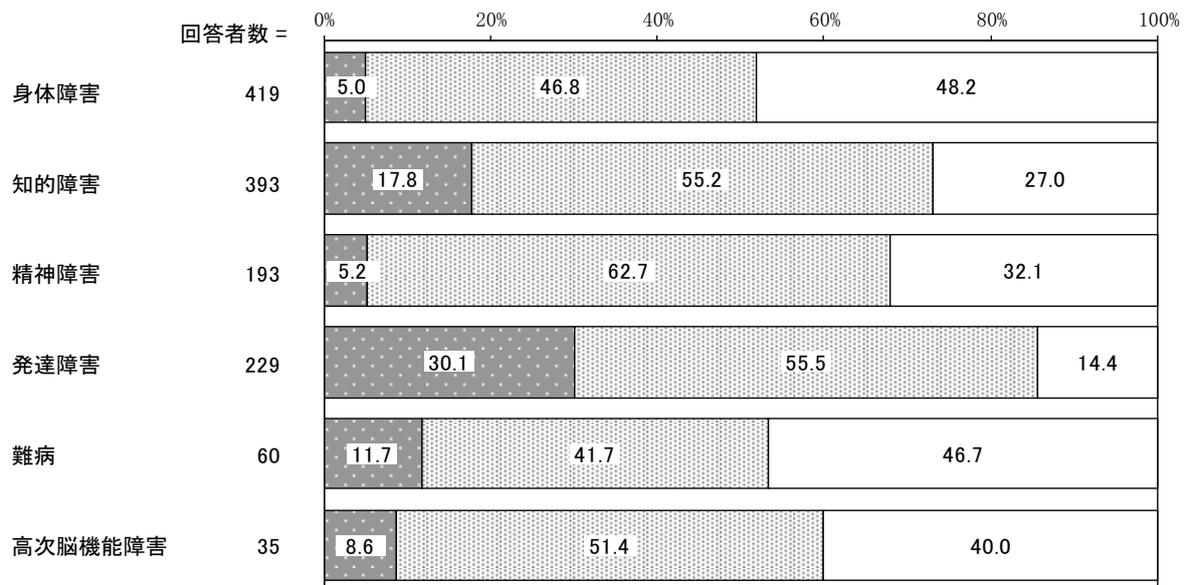
⑳ 今後利用したいか 児童発達支援

「利用したい」の割合が11.5%、「利用しない」の割合が53.4%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



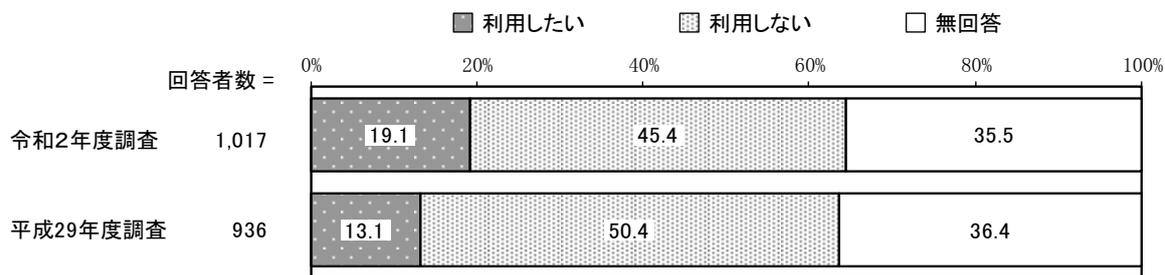
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、精神障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



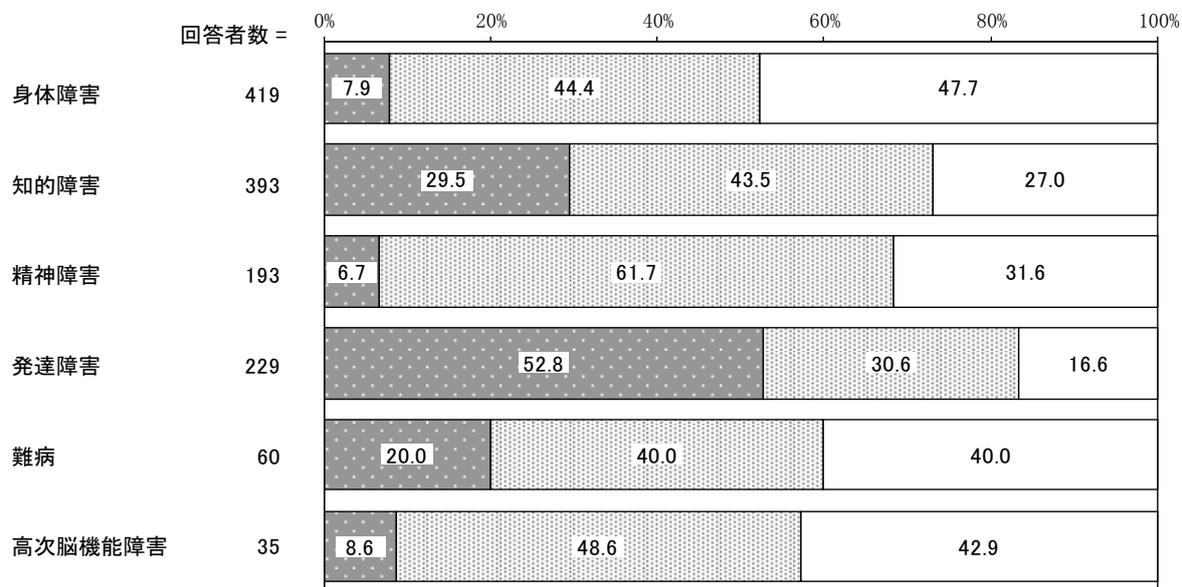
⑳ 今後利用したいか 放課後等デイサービス

「利用したい」の割合が19.1%、「利用しない」の割合が45.4%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「利用したい」の割合が増加しています。



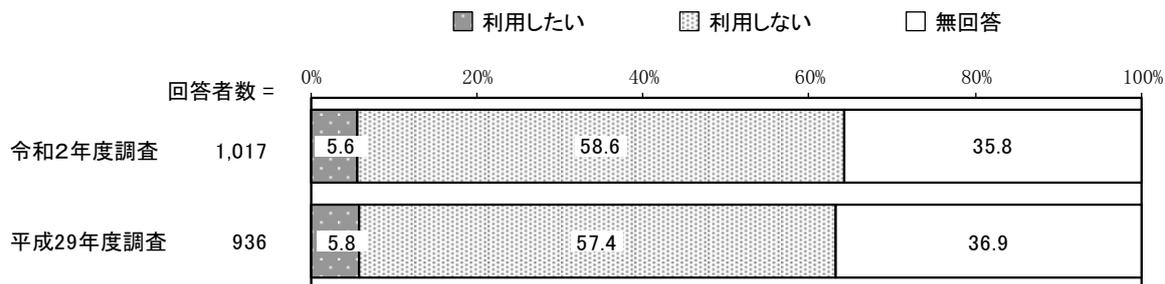
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、精神障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



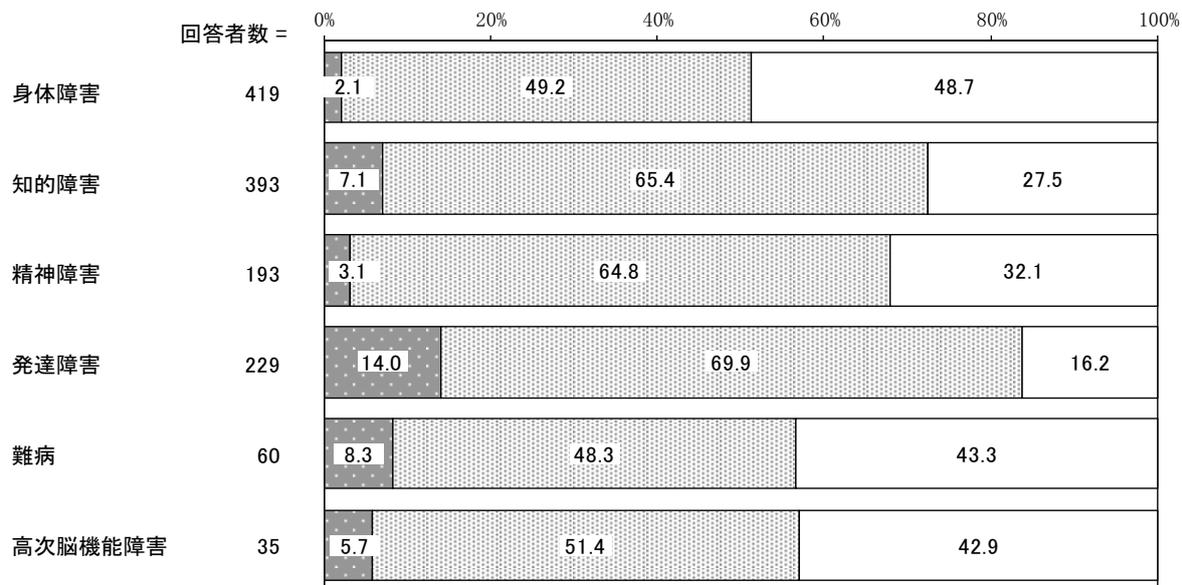
②今後利用したいか 保育所等訪問支援

「利用したい」の割合が5.6%、「利用しない」の割合が58.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



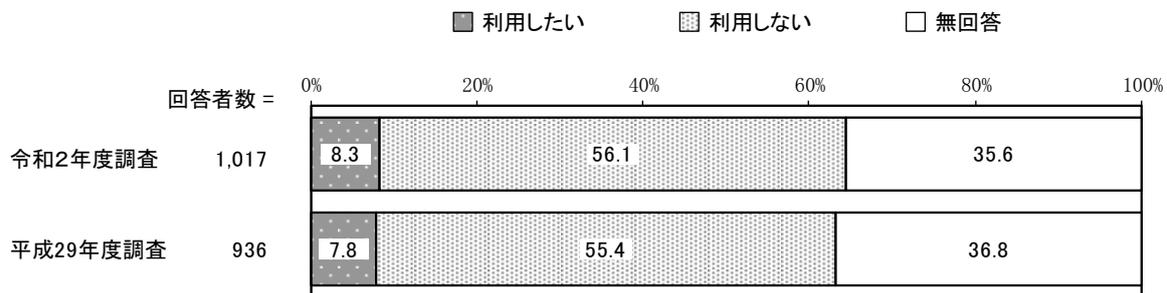
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用したい」「利用しない」の割合が高くなっています。



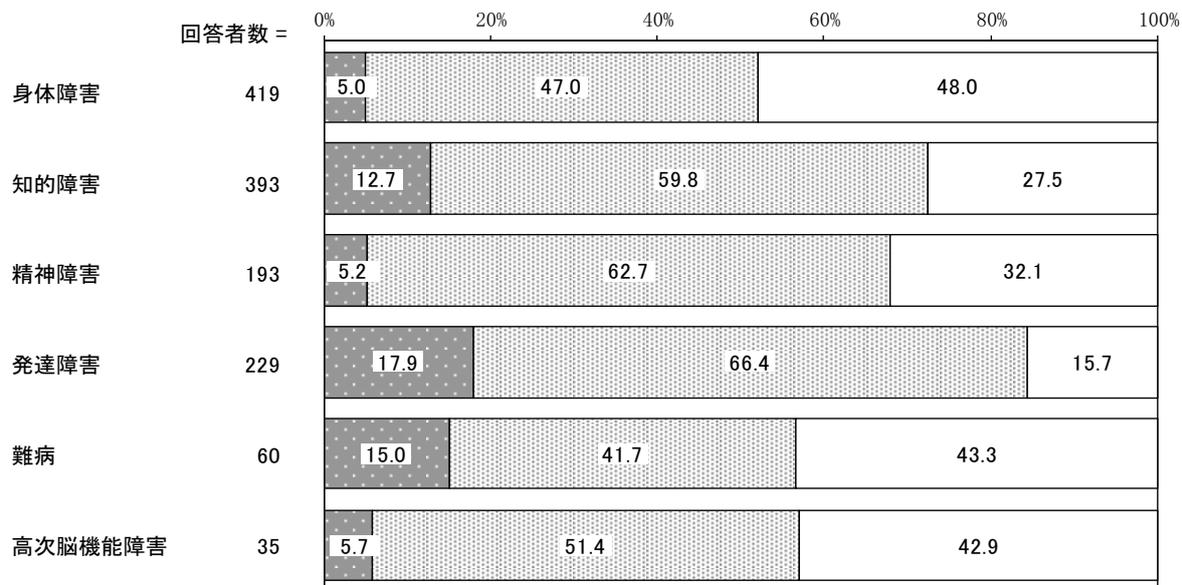
⑬今後利用したいか 医療型児童発達支援

「利用したい」の割合が8.3%、「利用しない」の割合が56.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



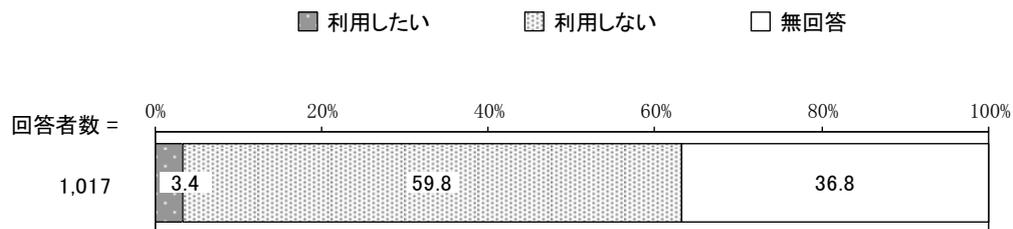
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用したい」「利用しない」の割合が高くなっています。



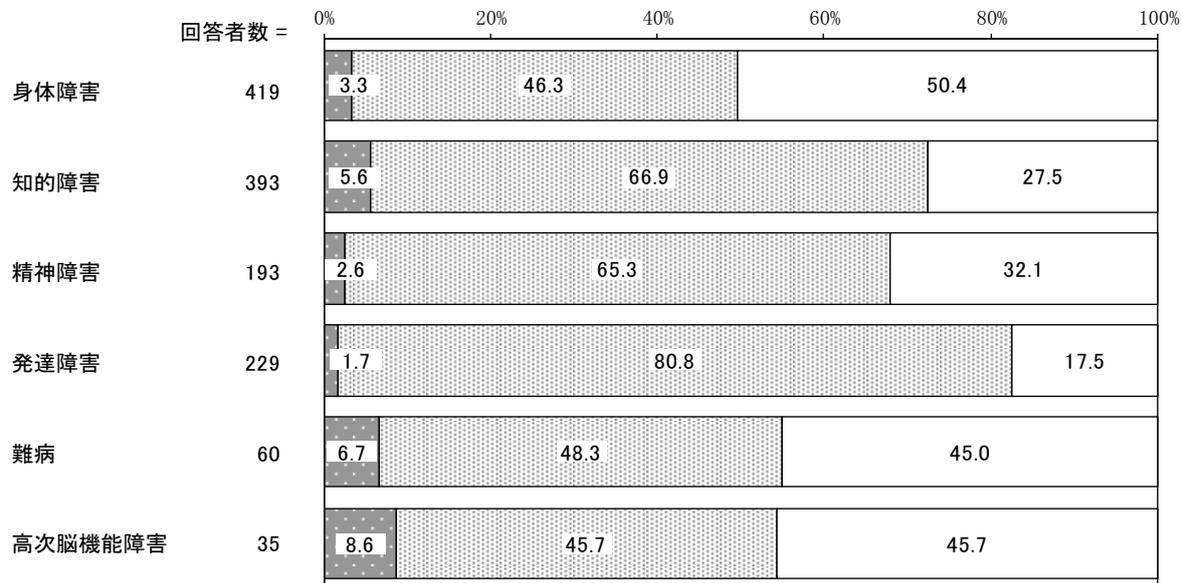
④今後利用したいか 居宅訪問型児童発達支援

「利用したい」の割合が3.4%、「利用しない」の割合が59.8%となっています。



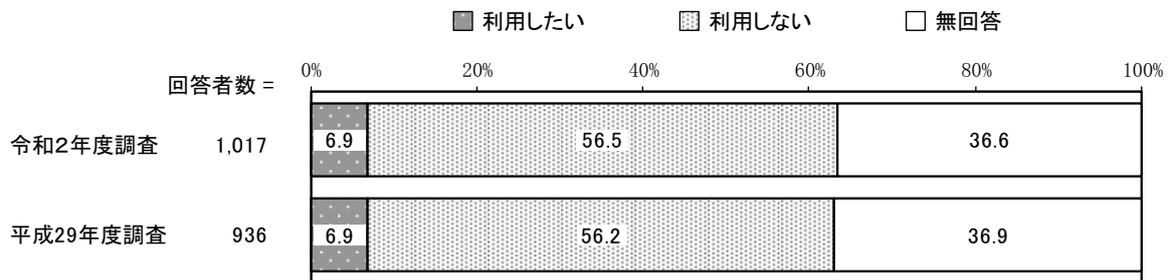
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



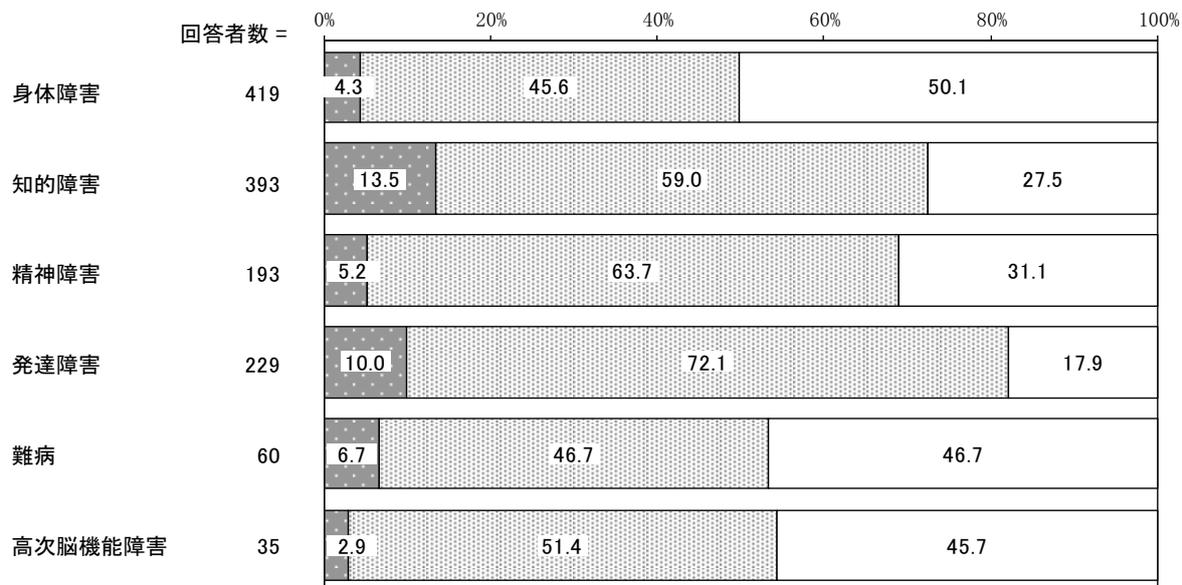
⑤今後利用したいか 福祉型障害児入所施設

「利用したい」の割合が6.9%、「利用しない」の割合が56.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



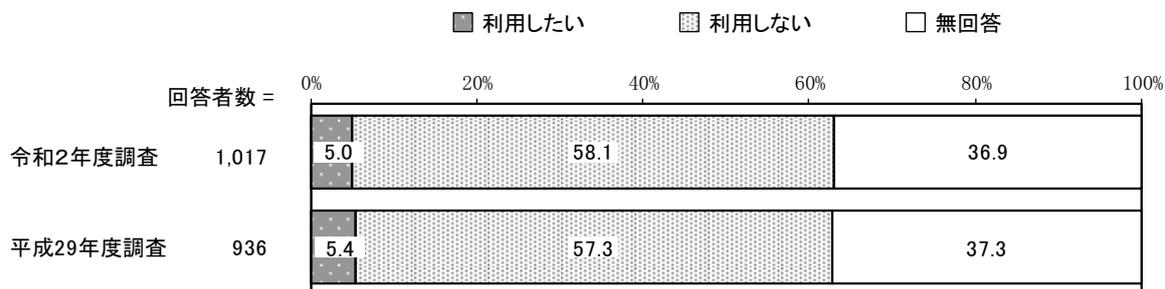
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



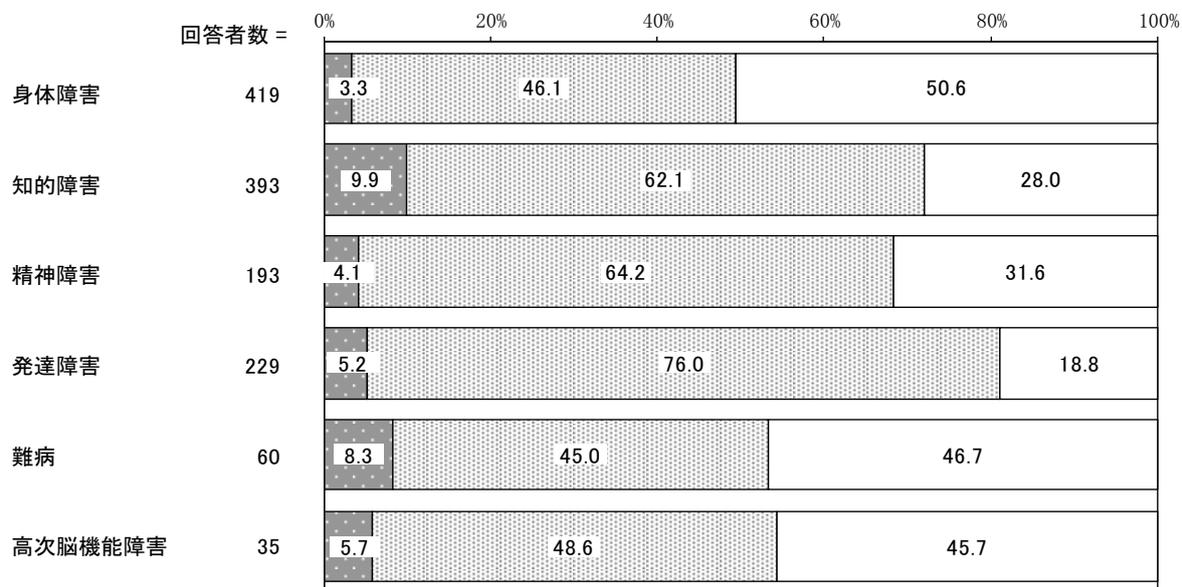
②⑥ 今後利用したいか 医療型障害児入所施設

「利用したい」の割合が5.0%、「利用しない」の割合が58.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



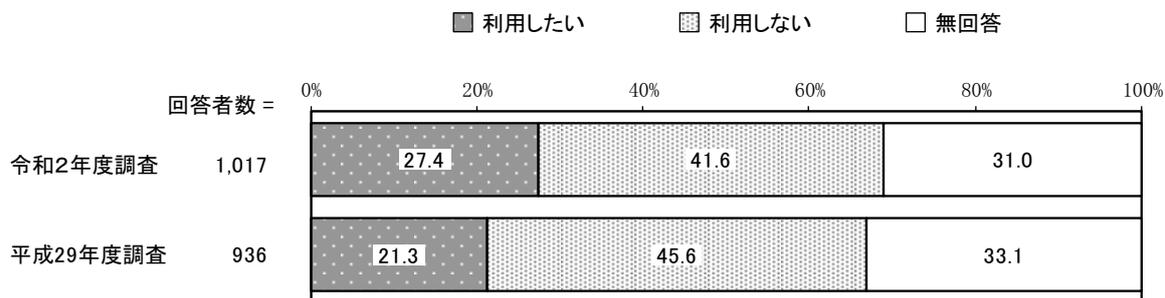
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



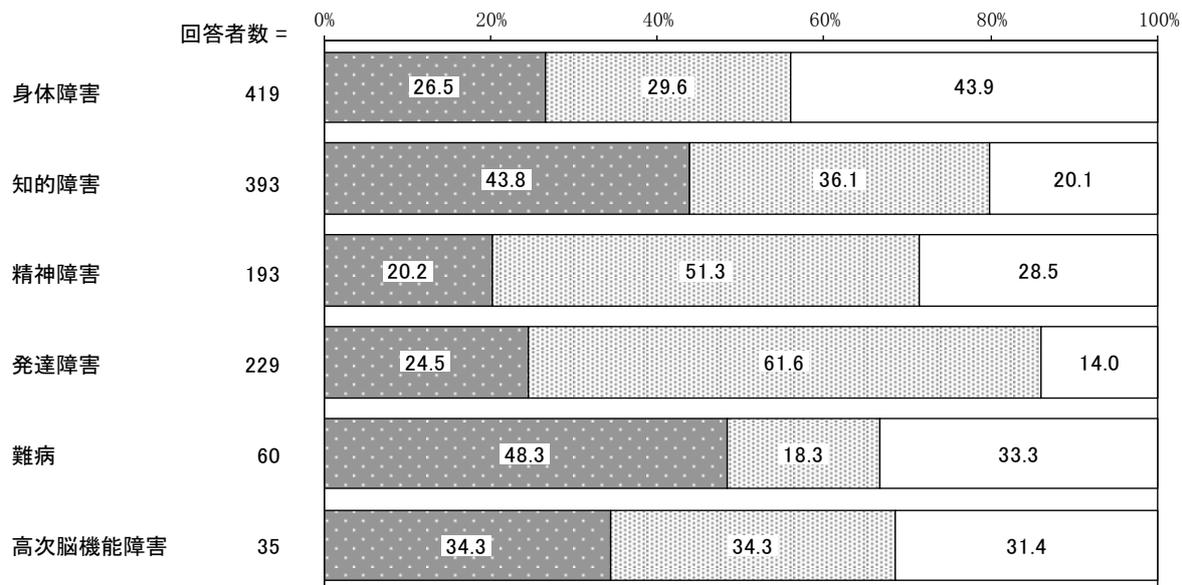
⑰今後利用したいか 移動支援

「利用したい」の割合が27.4%、「利用しない」の割合が41.6%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「利用したい」の割合が増加しています。



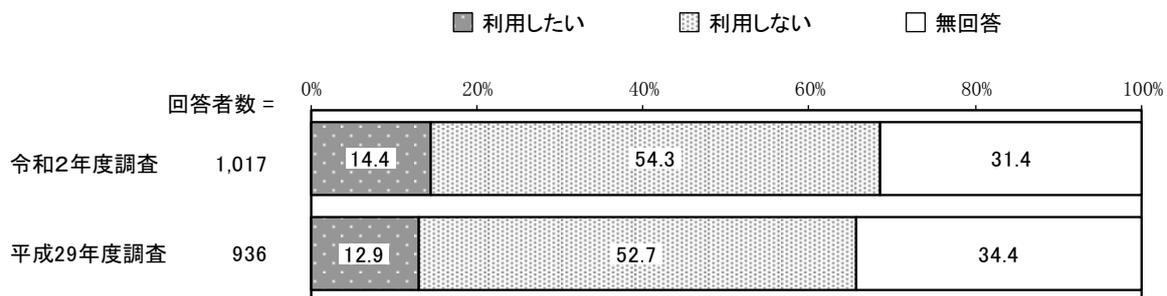
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



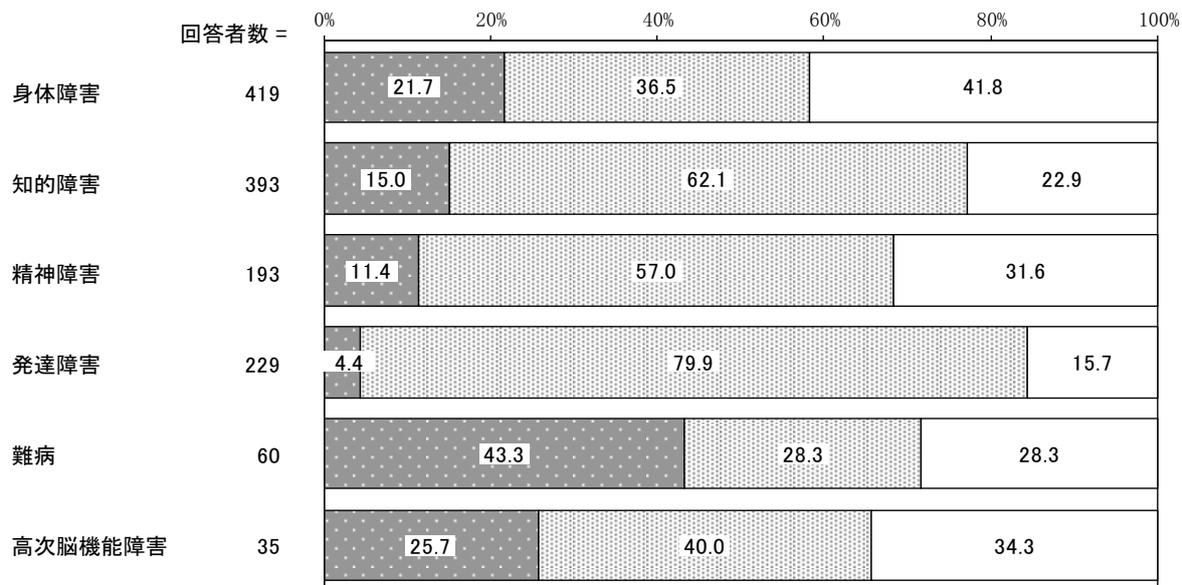
⑳ 今後利用したいか 訪問入浴サービス

「利用したい」の割合が14.4%、「利用しない」の割合が54.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



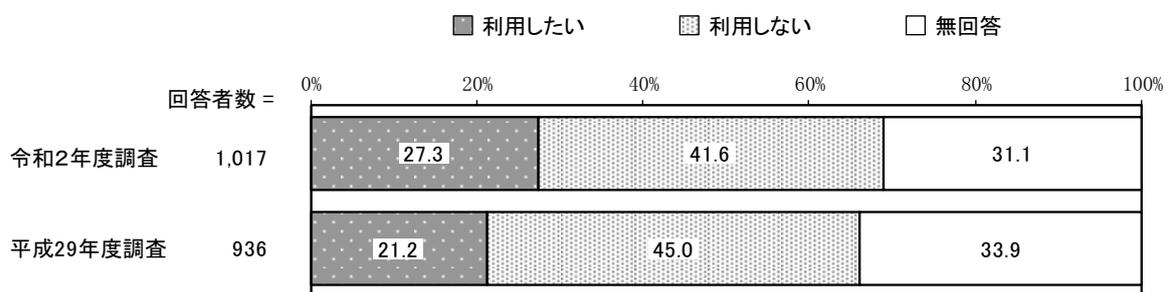
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、発達障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



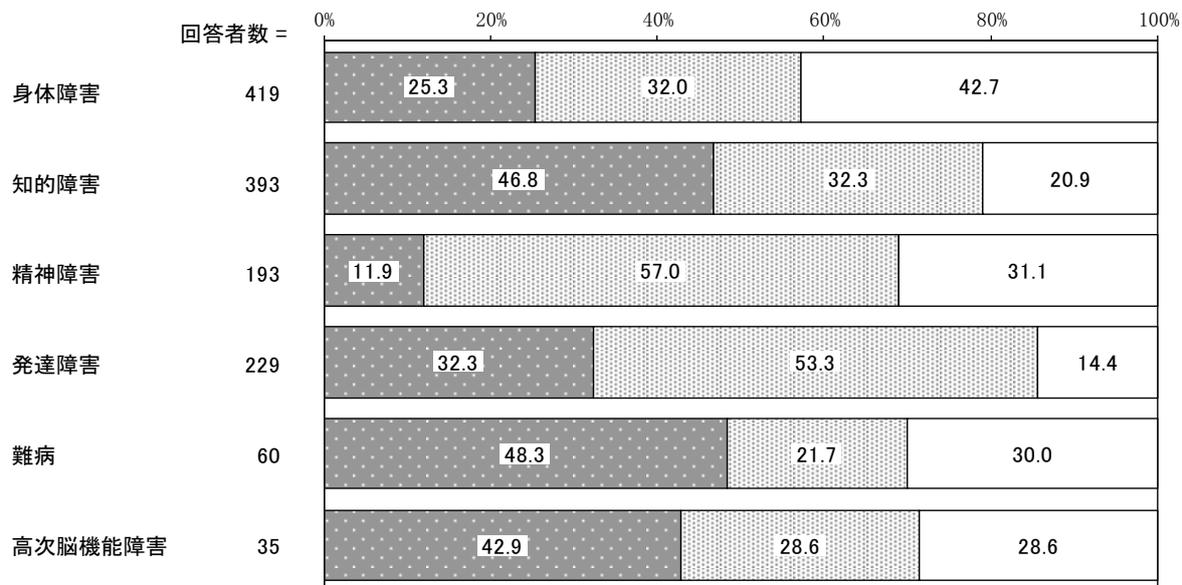
⑳ 今後利用したいか 日中一時支援

「利用したい」の割合が27.3%、「利用しない」の割合が41.6%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「利用したい」の割合が増加しています。



【障がい種別】

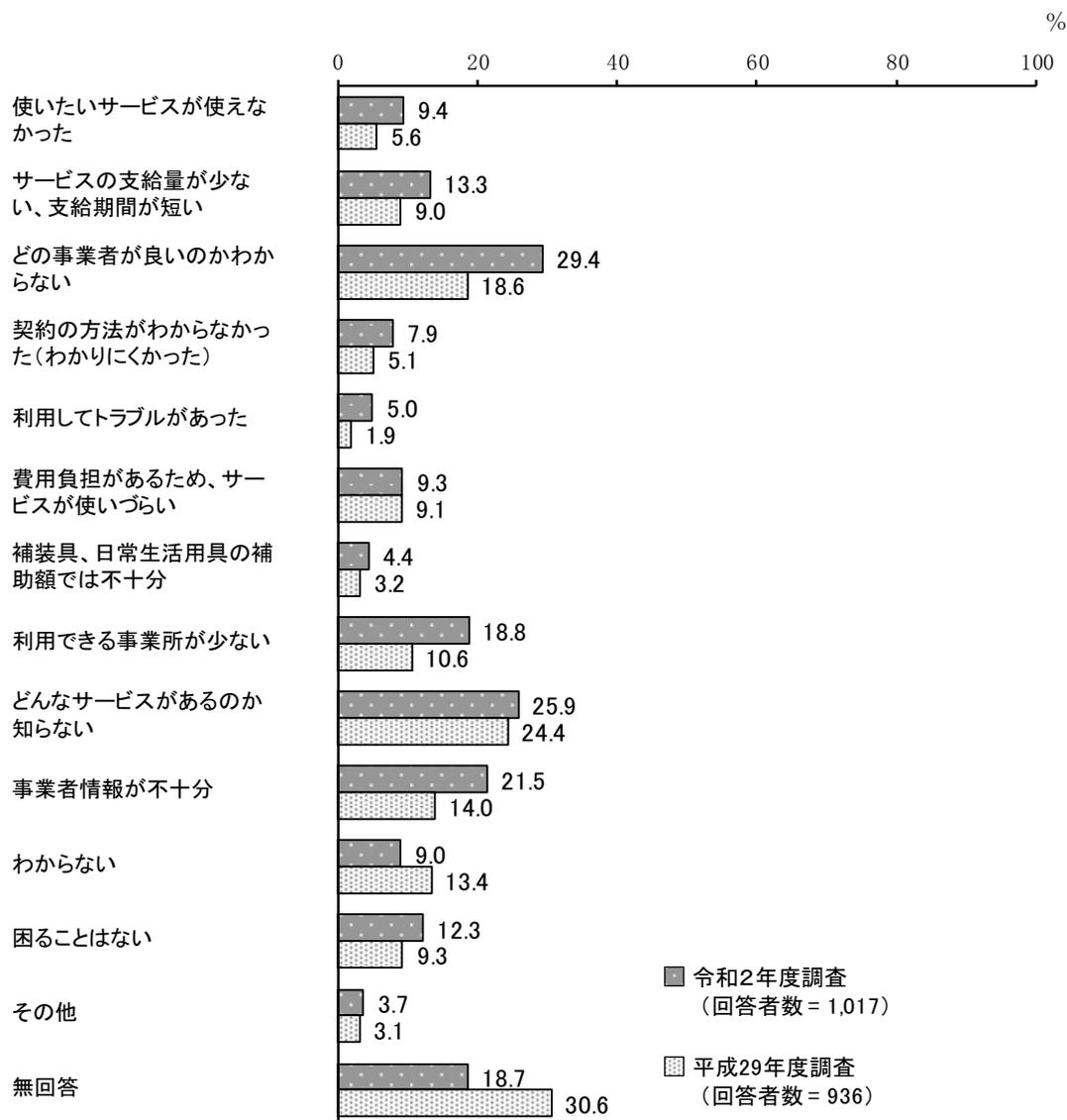
障がい種別で見ると、他に比べ、難病で「利用したい」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、精神障害で「利用しない」の割合が高くなっています。



問 31 福祉サービスを利用するとき何か困ること（困ったこと）がありますか。（あてはまるものすべてに○）

「どの事業者が良いのかわからない」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「どんなサービスがあるのか知らない」の割合が 25.9%、「事業者情報が不十分」の割合が 21.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「どの事業者が良いのかわからない」「利用できる事業所が少ない」「事業者情報が不十分」の割合が増加しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、高次脳機能障害で「使いたいサービスが使えなかった」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「サービスの支給量が少ない、支給期間が短い」「補装具、日常生活用具の補助額では不十分」「利用できる事業所が少ない」の割合が、発達障害で「どの事業者が良いのかわからない」「事業者情報が不十分」の割合が、精神障害で「どんなサービスがあるのか知らない」の割合が高くなっています。

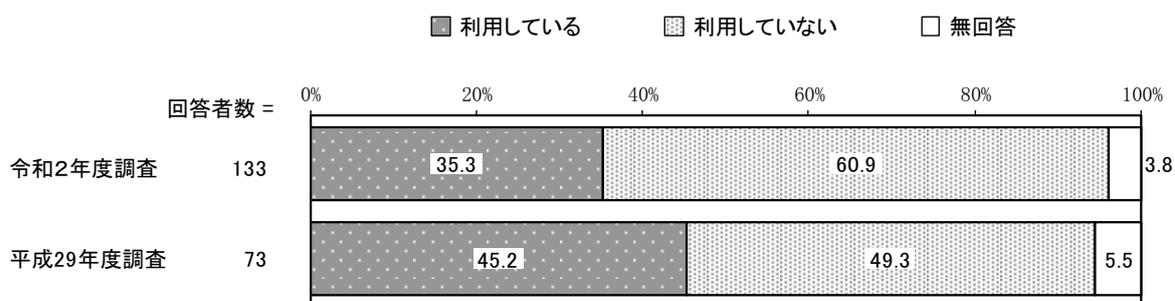
単位：％

区分	有効回答数(件)	使いたいサービスが使えなかった	サービスの支給量が少ない、支給期間が短い	どの事業者が良いのかわからない	契約の方法がわからなかった(わかりにくかった)	利用してトラブルがあった	費用負担があるため、サービスが使いづらい	補装具、日常生活用具の補助額では不十分
身体障害	419	8.4	10.7	21.5	5.0	3.1	11.5	9.5
知的障害	393	14.2	19.8	39.7	8.9	6.6	8.4	4.8
精神障害	193	7.3	10.9	32.6	12.4	8.8	15.0	3.1
発達障害	229	11.8	18.8	42.4	8.3	9.2	7.4	2.2
難病	60	18.3	20.0	38.3	10.0	10.0	10.0	15.0
高次脳機能障害	35	20.0	17.1	31.4	11.4	11.4	14.3	11.4

区分	利用できる事業所が少ない	どんなサービスがあるのかわからない	事業者情報が不十分	わからない	困ることはない	その他	無回答
身体障害	14.8	26.3	14.8	9.8	11.0	2.9	24.8
知的障害	30.3	24.2	28.0	7.6	10.9	5.1	10.2
精神障害	17.6	33.2	26.9	10.4	10.9	2.1	15.0
発達障害	27.9	23.1	33.6	5.2	15.3	4.8	7.9
難病	31.7	31.7	28.3	5.0	8.3	6.7	11.7
高次脳機能障害	22.9	25.7	25.7	5.7	11.4	2.9	17.1

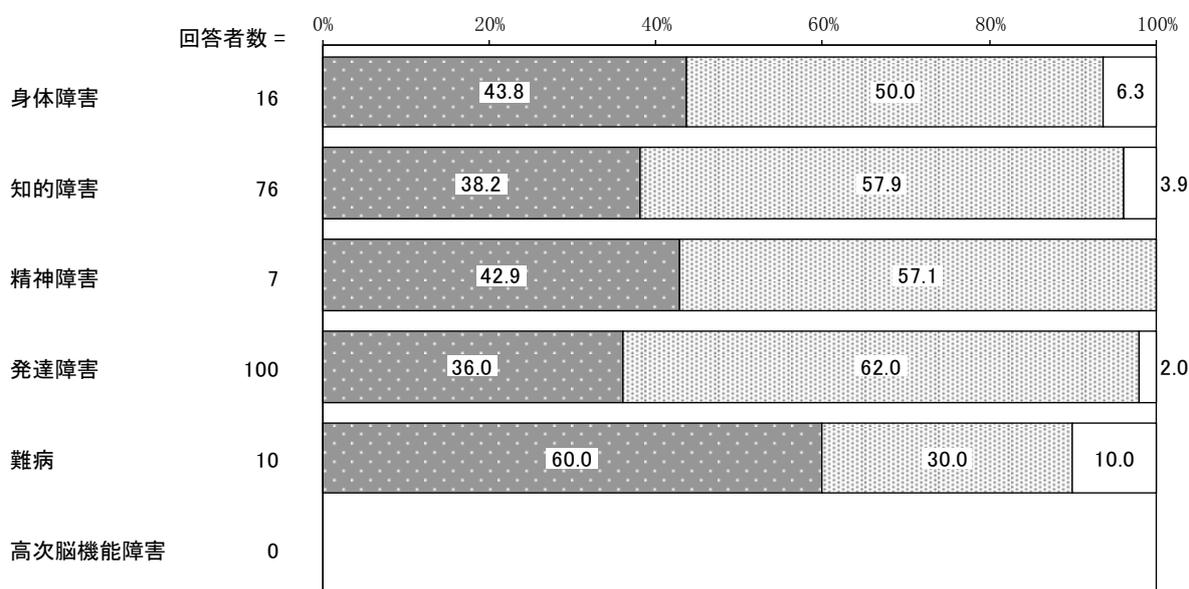
問 32 12歳以下（小学生以下）で児童発達支援又は放課後等デイサービスを利用している方にお聞きします。
あなたは、保育所、幼稚園、放課後児童クラブ（学童保育）を利用していますか。（○は1つだけ）

「利用している」の割合が35.3%、「利用していない」の割合が60.9%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。一方、「利用している」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、難病で「利用している」の割合が高くなっていますが、有効回答数が少ないため、正確なものとはいえません。

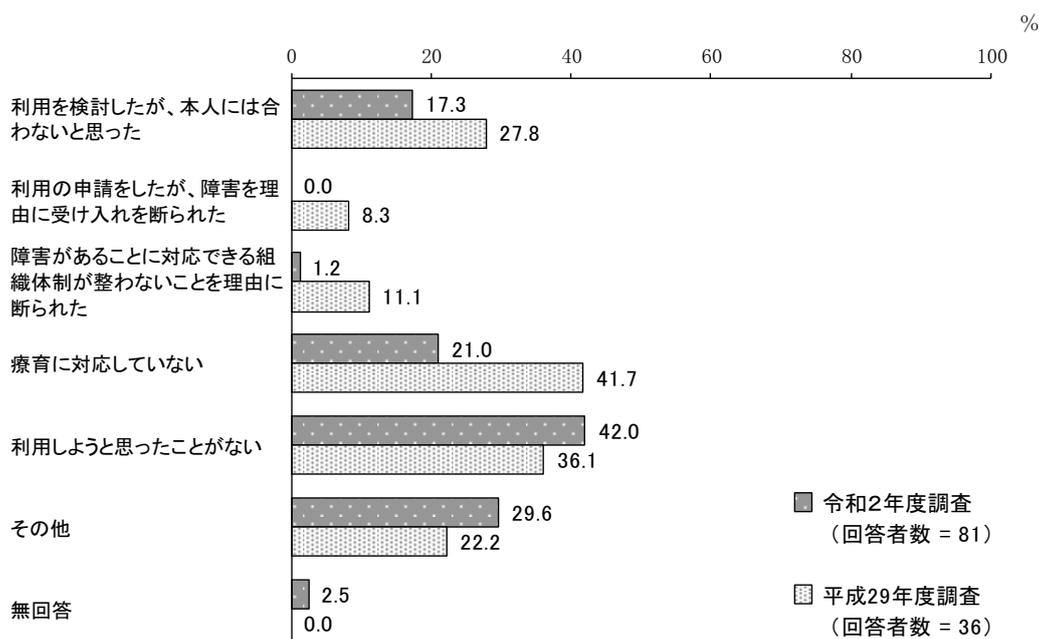


問 32 で、「2. 利用していない」と答えた方にお聞きします。

問 33 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「利用しようと思ったことがない」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「療育に対応していない」の割合が 21.0%、「利用を検討したが、本人には合わないと思った」の割合が 17.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「利用しようと思ったことがない」の割合が増加しています。一方、「利用を検討したが、本人には合わないと思った」「利用の申請をしたが、障害を理由に受け入れを断られた」「障害があることに対応できる組織体制が整わないことを理由に断られた」「療育に対応していない」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、身体障害で「利用しようと思ったことがない」の割合が高くなっていますが、有効回答数が少ないため、正確なものとはいえません。

単位：%

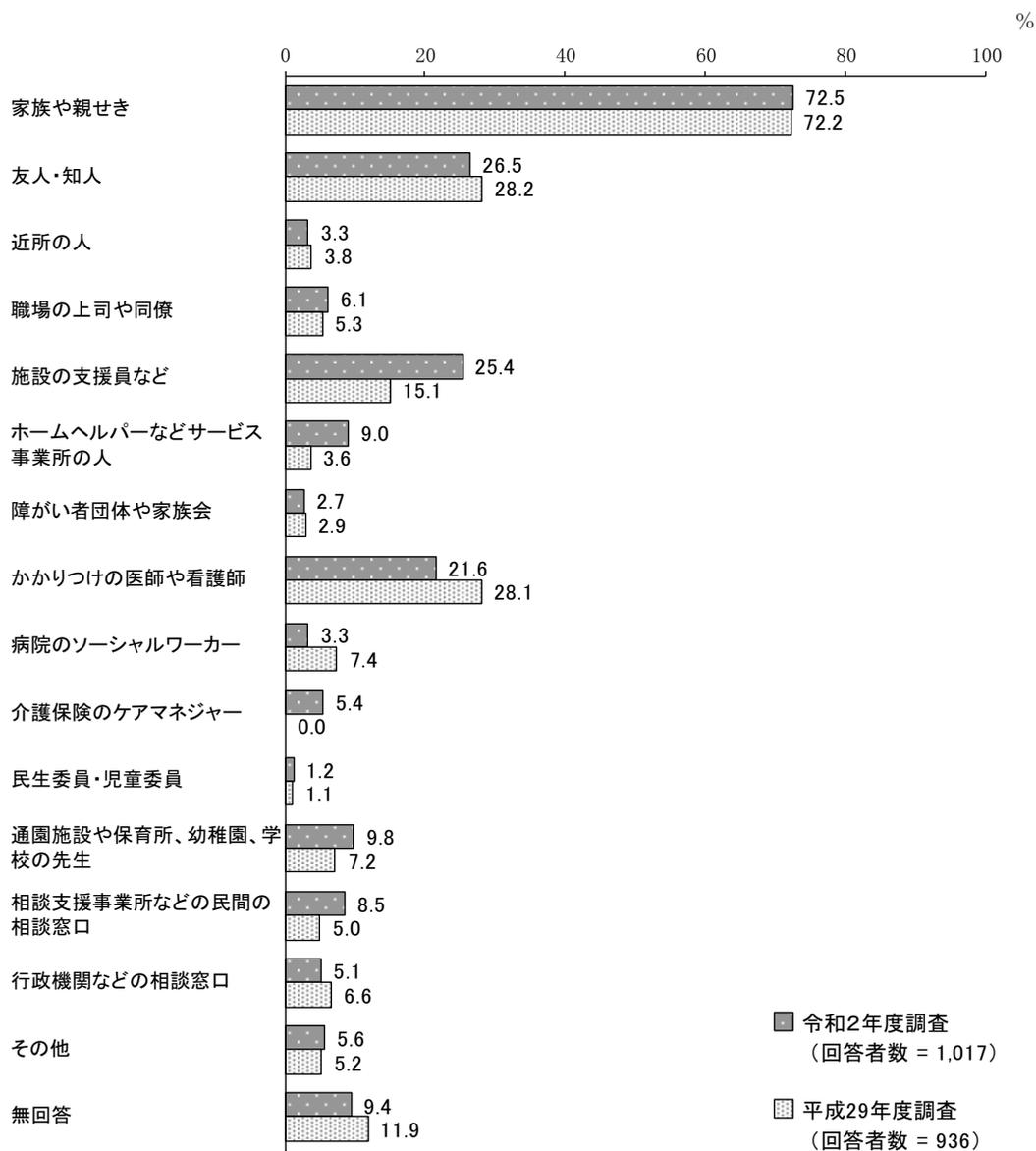
区分	有効回答数(件)	利用を検討したが、本人には合わないと思った	利用の申請をしたが、障害を理由に受け入れを断られた	障害があることに対応できる組織体制が整わないことを理由に断られた	療育に対応していない	利用しようと思ったことがない	その他	無回答
身体障害	8	—	—	—	25.0	62.5	25.0	—
知的障害	44	18.2	—	2.3	25.0	45.5	22.7	2.3
精神障害	4	25.0	—	—	25.0	25.0	—	25.0
発達障害	62	21.0	—	—	17.7	38.7	32.3	3.2
難病	3	—	—	33.3	—	33.3	33.3	—
高次脳機能障害	—	—	—	—	—	—	—	—

(6) 相談相手について

問 34 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族や親せき」の割合が72.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が26.5%、「施設の支援員など」の割合が25.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「施設の支援員など」「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」「介護保険のケアマネジャー」の割合が増加しています。一方、「かかりつけの医師や看護師」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、発達障害で「家族や親せき」「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障害で「友人・知人」「かかりつけの医師や看護師」「病院のソーシャルワーカー」の割合が、知的障害で「施設の支援員など」の割合が、難病で「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」「かかりつけの医師や看護師」「相談支援事業所などの民間の相談窓口」の割合が、高次脳機能障害で「介護保険のケアマネジャー」「行政機関などの相談窓口」の割合が高くなっています。

単位：％

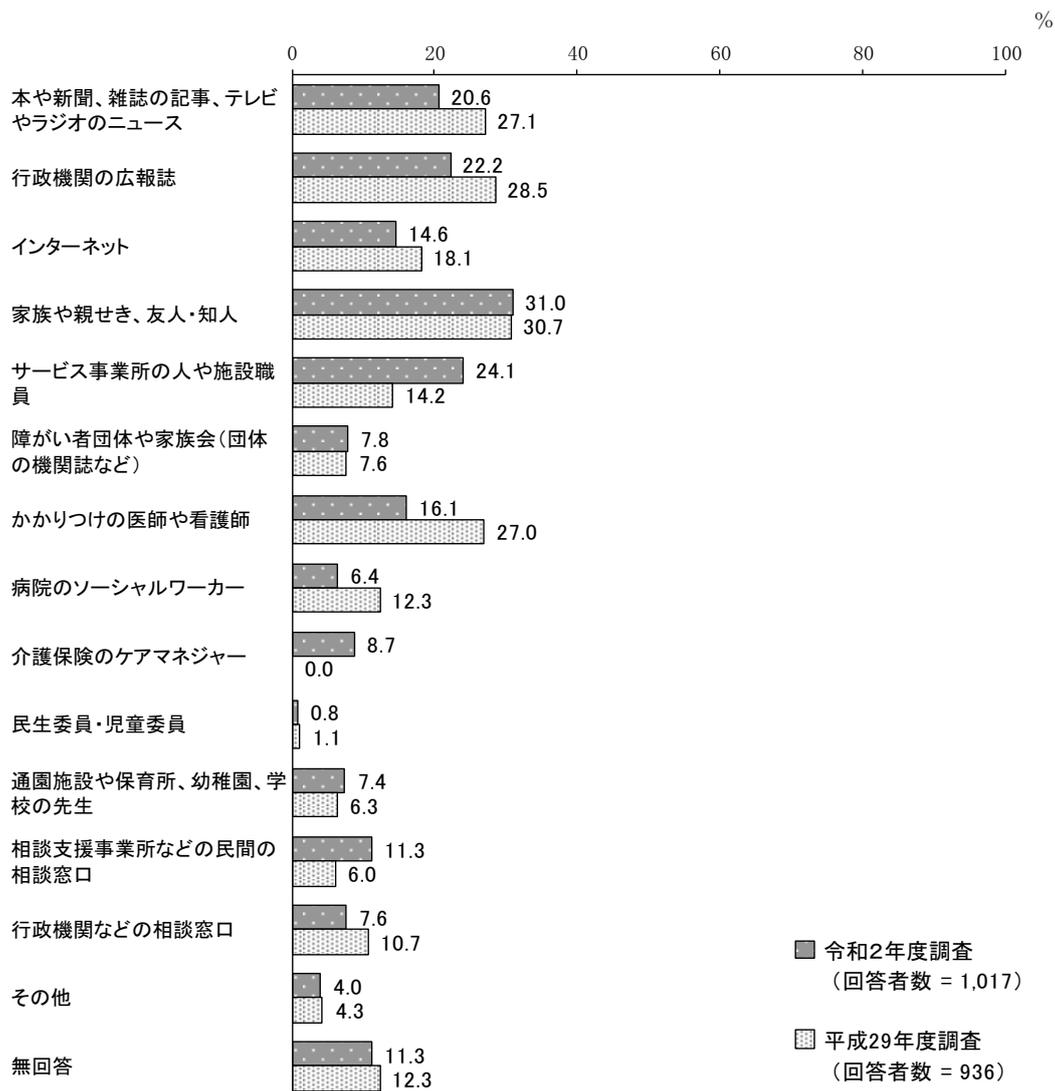
区分	有効回答数 (件)	家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	施設の支援員など	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	障がい者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師
身体障害	419	73.3	26.7	4.8	3.1	14.3	11.7	1.9	24.1
知的障害	393	72.8	23.2	1.5	7.4	38.4	7.9	5.1	18.3
精神障害	193	69.4	31.1	2.6	6.7	29.0	10.4	1.6	31.6
発達障害	229	83.8	27.9	0.9	9.2	32.8	5.2	1.7	19.7
難病	60	66.7	28.3	5.0	3.3	25.0	25.0	6.7	31.7
高次脳機能障害	35	74.3	20.0	5.7	5.7	25.7	14.3	—	22.9

区分	病院のソーシャルワーカー	介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関などの相談窓口	その他	無回答
身体障害	2.4	11.0	1.9	2.9	6.0	7.6	3.8	12.4
知的障害	2.3	1.0	0.5	14.5	13.5	3.3	8.7	7.4
精神障害	12.4	4.1	0.5	3.6	6.7	4.7	7.3	6.2
発達障害	0.9	—	0.9	29.7	14.4	1.7	9.2	4.4
難病	5.0	13.3	1.7	6.7	15.0	6.7	6.7	11.7
高次脳機能障害	2.9	22.9	—	2.9	14.3	11.4	11.4	5.7

問 35 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親せき、友人・知人」の割合が31.0%と最も高く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」の割合が24.1%、「行政機関の広報誌」の割合が22.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「サービス事業所の人や施設職員」「介護保険のケアマネジャー」「相談支援事業所などの民間の相談窓口」の割合が増加しています。一方、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」「行政機関の広報誌」「かかりつけの医師や看護師」「病院のソーシャルワーカー」の割合が減少しています。



【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、身体障害で「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「行政機関の広報誌」「介護保険のケアマネジャー」の割合が、難病で「インターネット」「かかりつけの医師や看護師」の割合が、発達障害で「家族や親せき、友人・知人」「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」の割合が、知的障害で「サービス事業所の人や施設職員」「障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）」の割合が、精神障害で「病院のソーシャルワーカー」の割合が高くなっています。

単位：％

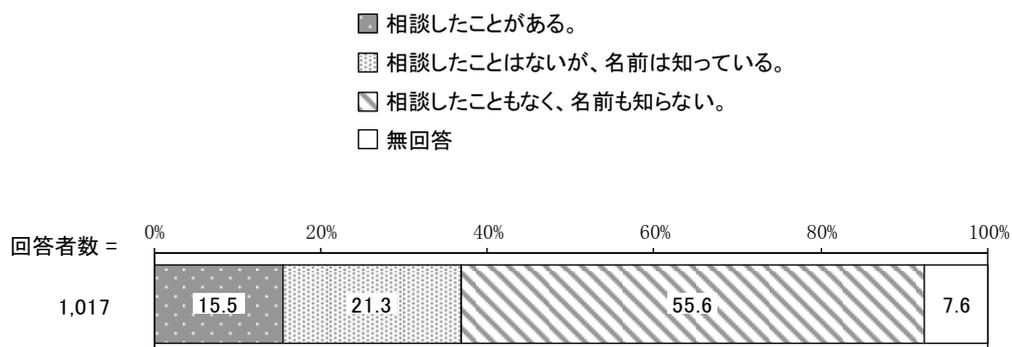
区分	有効回答数 (件)	本や新聞、雑誌の記 事、テレビやラジオ のニュース	行政機関の広報誌	インターネット	家族や親せき、友 人・知人	サービス事業所 の人や施設職員	障がい者団体や家 族会（団体の機関誌 など）	かかりつけの医師 や看護師
身体障害	419	26.3	31.5	13.4	26.5	17.2	6.0	16.2
知的障害	393	14.0	18.1	13.7	38.7	32.3	15.5	10.4
精神障害	193	18.1	16.6	15.0	22.8	28.0	3.1	23.8
発達障害	229	16.2	15.3	19.7	45.0	29.7	7.9	17.5
難病	60	18.3	20.0	26.7	30.0	26.7	10.0	26.7
高次脳機能障害	35	20.0	34.3	17.1	25.7	31.4	2.9	20.0

区分	病院のソ シヤル ワーカー	介護保 険のケ アマン ネジャ ー	民生委員・児童委員	通園施設や保育所、 幼稚園、学校の先生	相談支 援事業 所など の民間 の相談 窓口	行政機 関など の相 談窓口	その他	無回 答
身体障害	6.0	16.7	0.7	4.5	6.9	8.4	3.3	13.4
知的障害	2.3	2.3	1.3	12.7	18.1	7.6	5.1	10.4
精神障害	17.6	6.7	—	3.1	11.9	8.3	4.7	8.8
発達障害	2.6	—	0.4	20.5	18.8	4.4	6.1	7.0
難病	6.7	18.3	—	6.7	18.3	10.0	1.7	11.7
高次脳機能障害	8.6	34.3	2.9	5.7	17.1	11.4	5.7	2.9

加古川市障がい者基幹相談支援センターについてお聞きします。

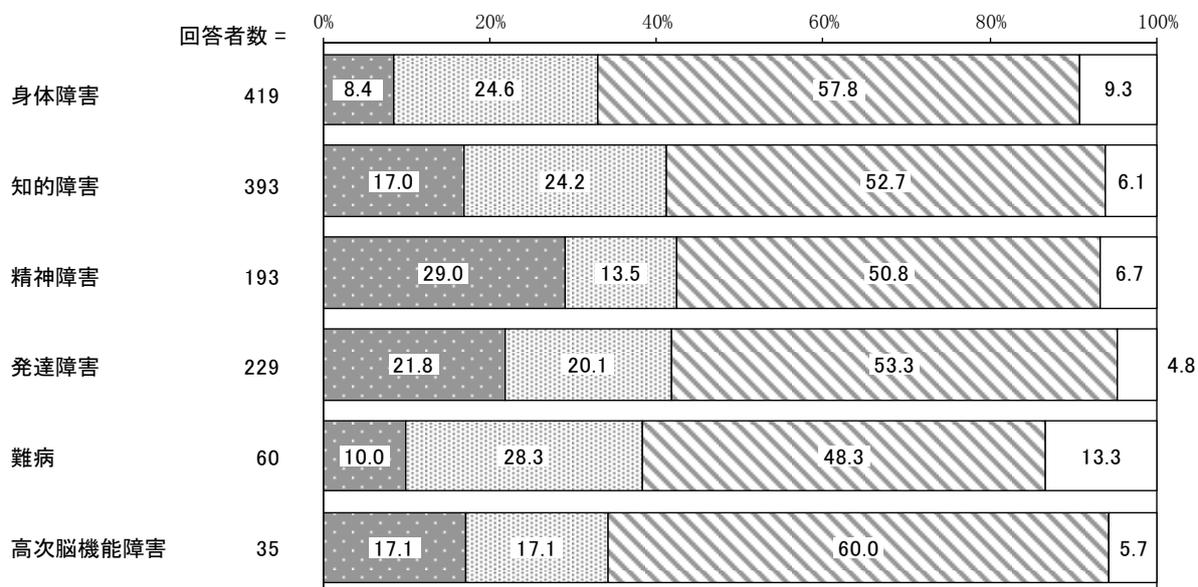
問 36 あなたは、「加古川市障がい者基幹相談支援センター」に相談したことがありますか。(○は1つだけ)

「相談したこともなく、名前も知らない。」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「相談したことはないが、名前は知っている。」の割合が 21.3%、「相談したことがある。」の割合が 15.5%となっています。



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「相談したことがある。」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「相談したことはないが、名前は知っている。」の割合が高くなっています。

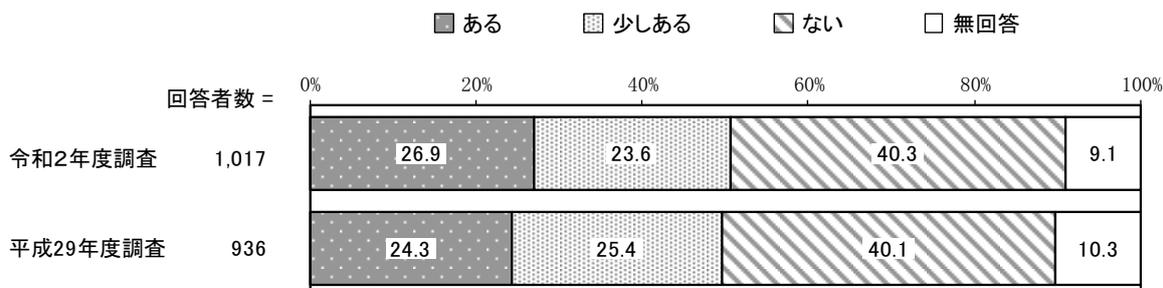


(7) 権利擁護について

問 37 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。
（○は1つだけ）

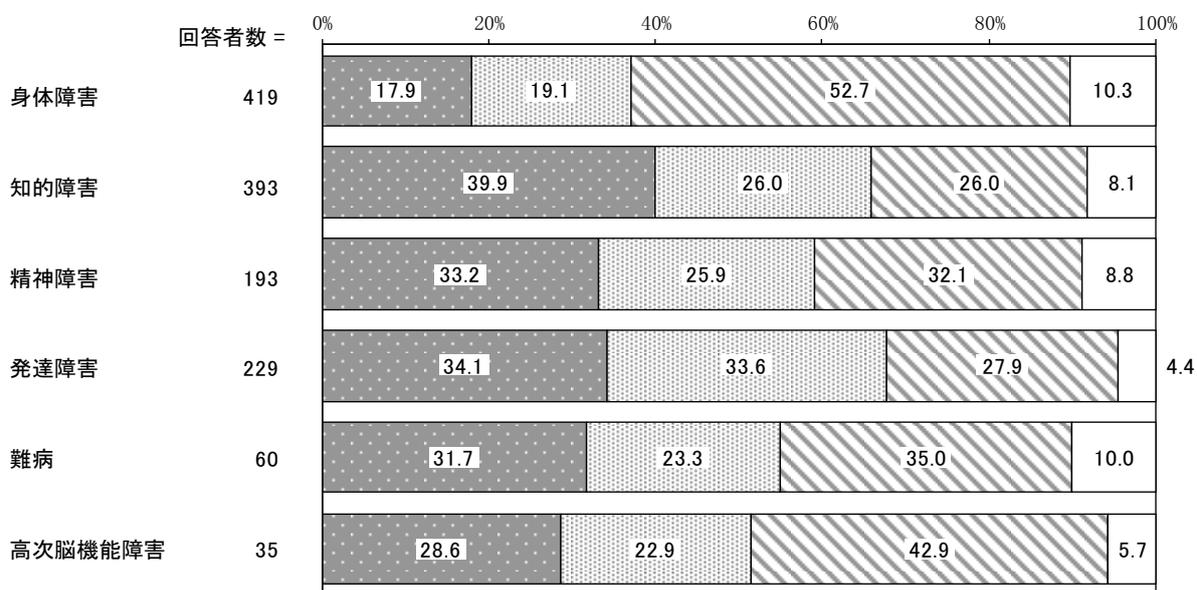
「ない」の割合が40.3%と最も高く、次いで「ある」の割合が26.9%、「少しある」の割合が23.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



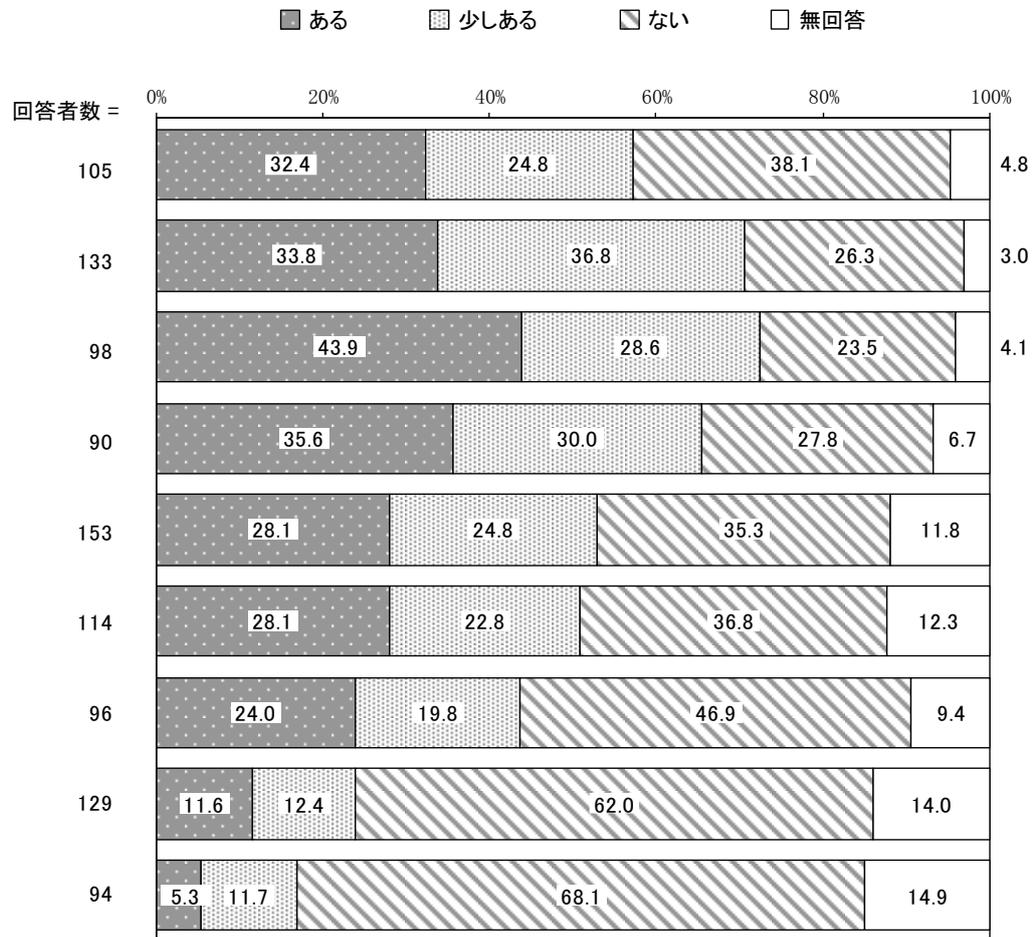
【障がい種別】

障がい種別でみると、他に比べ、知的障害で「ある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、発達障害で「少しある」の割合が、身体障害で「ない」の割合が高くなっています。



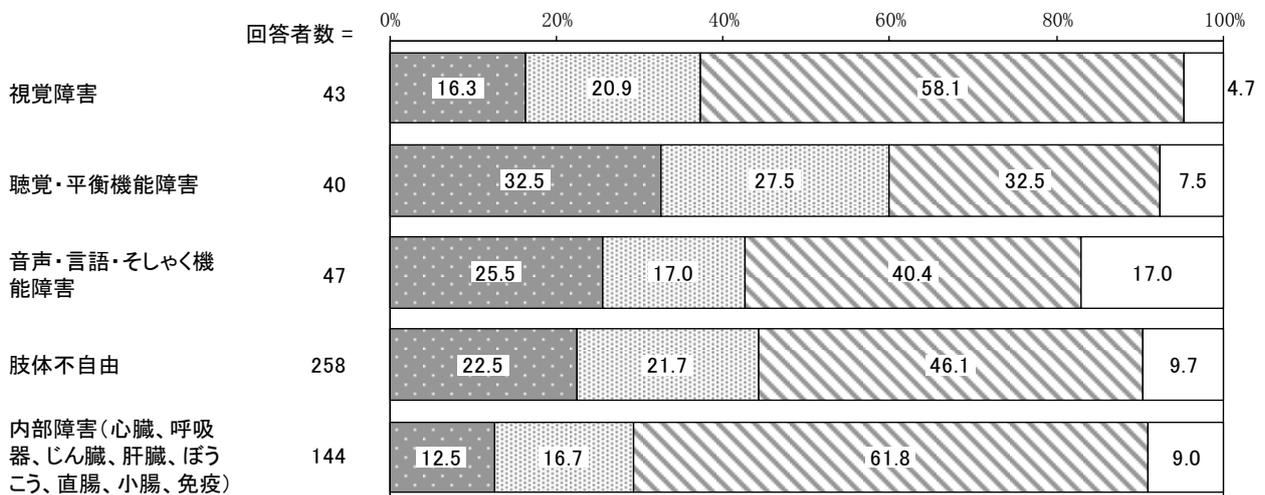
【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「ある」の割合が、10～19歳で「少しある」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて、「ない」の割合が高くなる傾向がみられます。



【障がいの種別】

障がいの種別でみると、他に比べ、聴覚・平衡機能障害で「ある」「少しある」の割合が高くなっています。また、他に比べ、内部障害（心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫）で「ない」の割合が高くなっています。

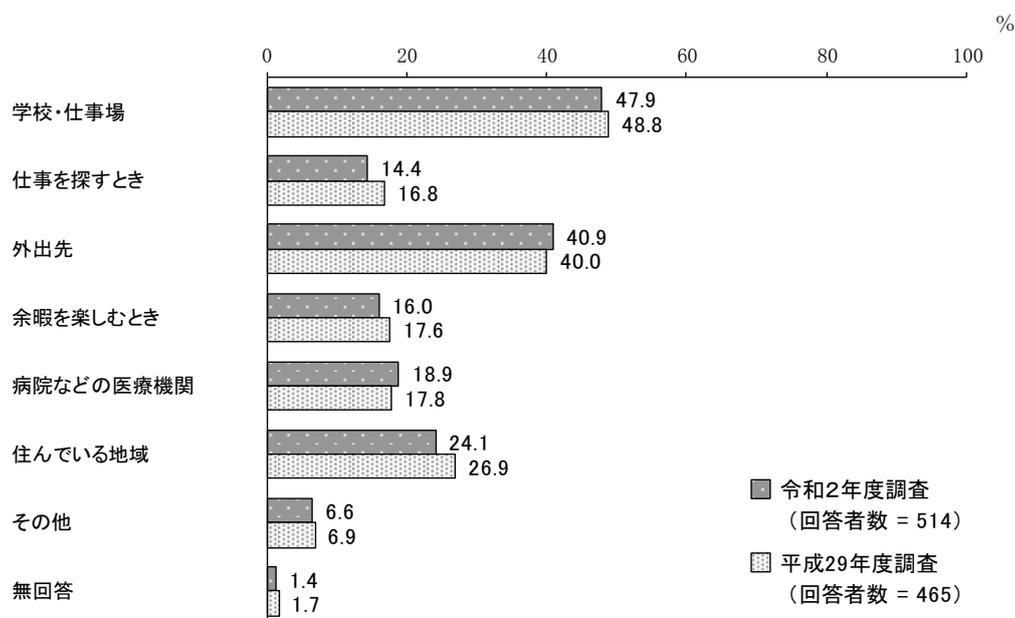


問 37 で、「1. ある」または「2. 少しある」と答えた方にお聞きします。

問 38 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

「学校・仕事場」の割合が 47.9%と最も高く、次いで「外出先」の割合が 40.9%、「住んでいる地域」の割合が 24.1%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

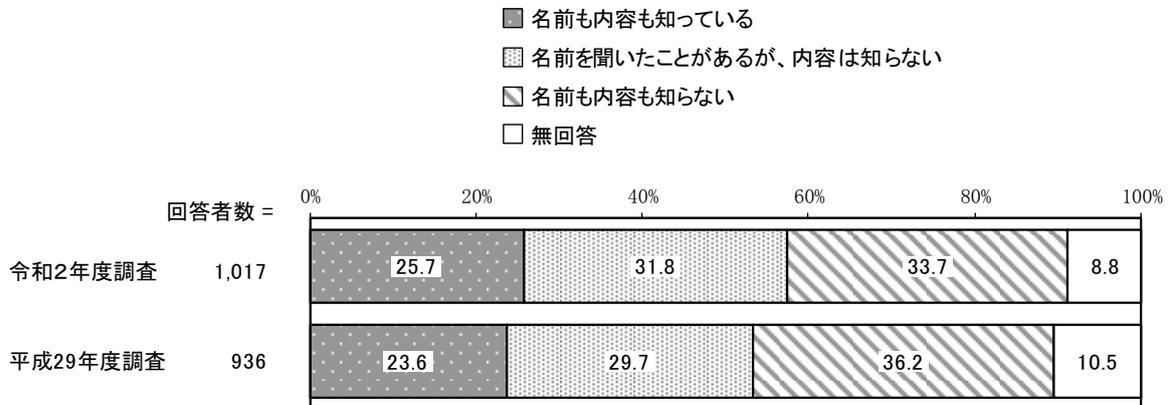
障がい種別で見ると、他に比べ、発達障害で「学校・仕事場」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障害で「仕事を探すとき」「住んでいる地域」の割合が、身体障害で「外出先」の割合が、高次脳機能障害で「余暇を楽しむとき」の割合が、難病で「病院などの医療機関」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校・仕事場	仕事を探すとき	外出先	余暇を楽しむとき	病院などの医療機関	住んでいる地域	その他	無回答
身体障害	155	30.3	15.5	56.1	18.7	19.4	20.0	4.5	1.3
知的障害	259	49.0	8.5	45.2	19.3	19.3	28.2	4.2	—
精神障害	114	43.0	28.9	28.9	10.5	21.1	31.6	10.5	1.8
発達障害	155	69.0	7.1	32.3	15.5	14.8	22.6	7.7	0.6
難病	33	21.2	15.2	48.5	18.2	36.4	24.2	6.1	—
高次脳機能障害	18	22.2	11.1	50.0	22.2	33.3	5.6	16.7	5.6

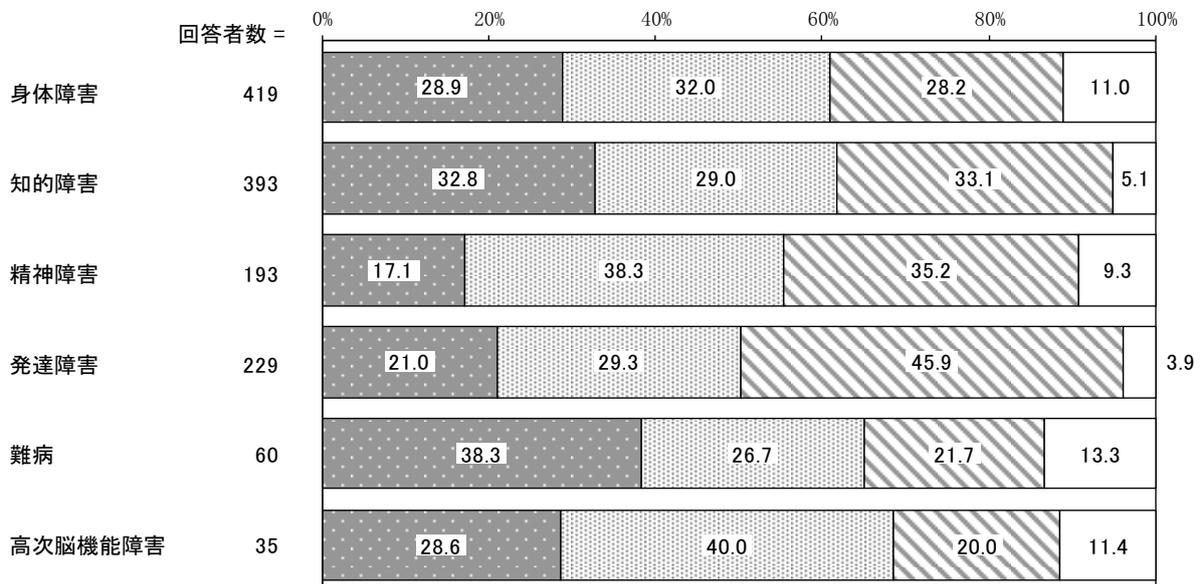
問 39 成年後見制度について知っていますか。(〇は1つだけ)

「名前も内容も知らない」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 31.8%、「名前も内容も知っている」の割合が 25.7%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障がい種別】

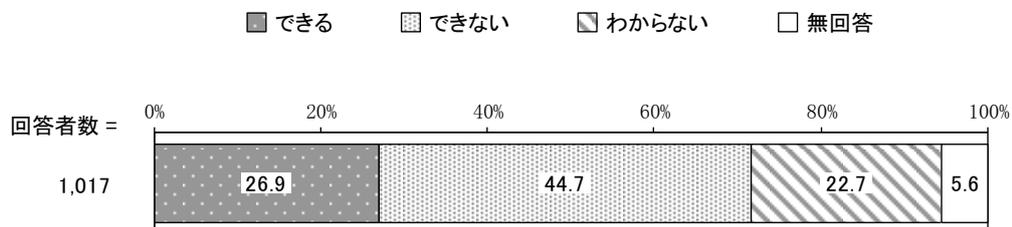
障がい種別で見ると、他に比べ、難病で「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が、発達障害で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



(8) 災害時の避難等について

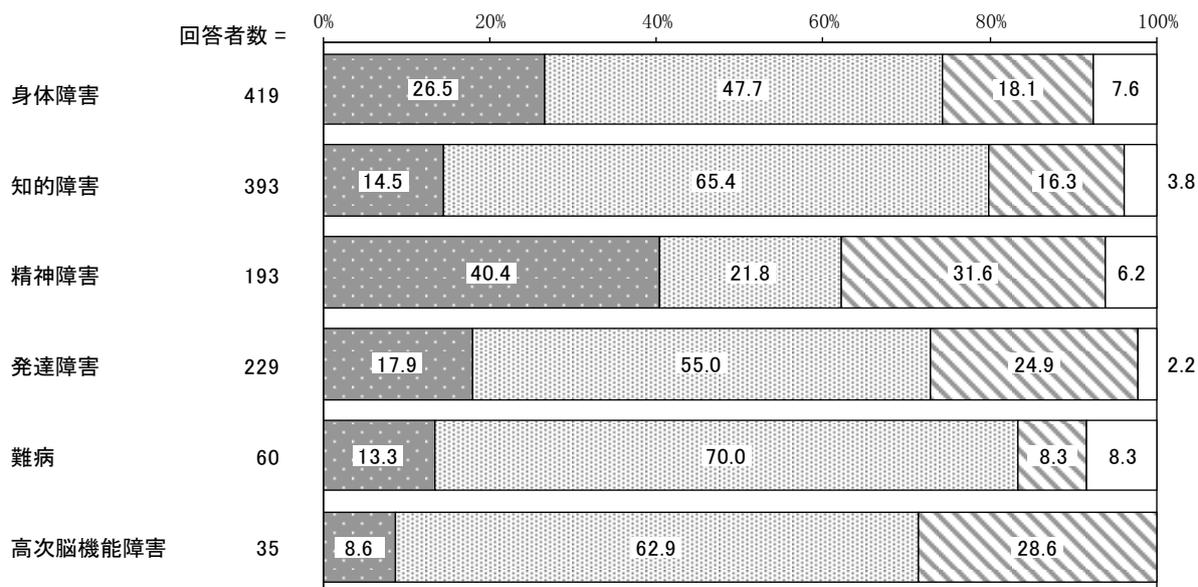
問 40 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

「できない」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「できる」の割合が 26.9%、「わからない」の割合が 22.7%となっています。



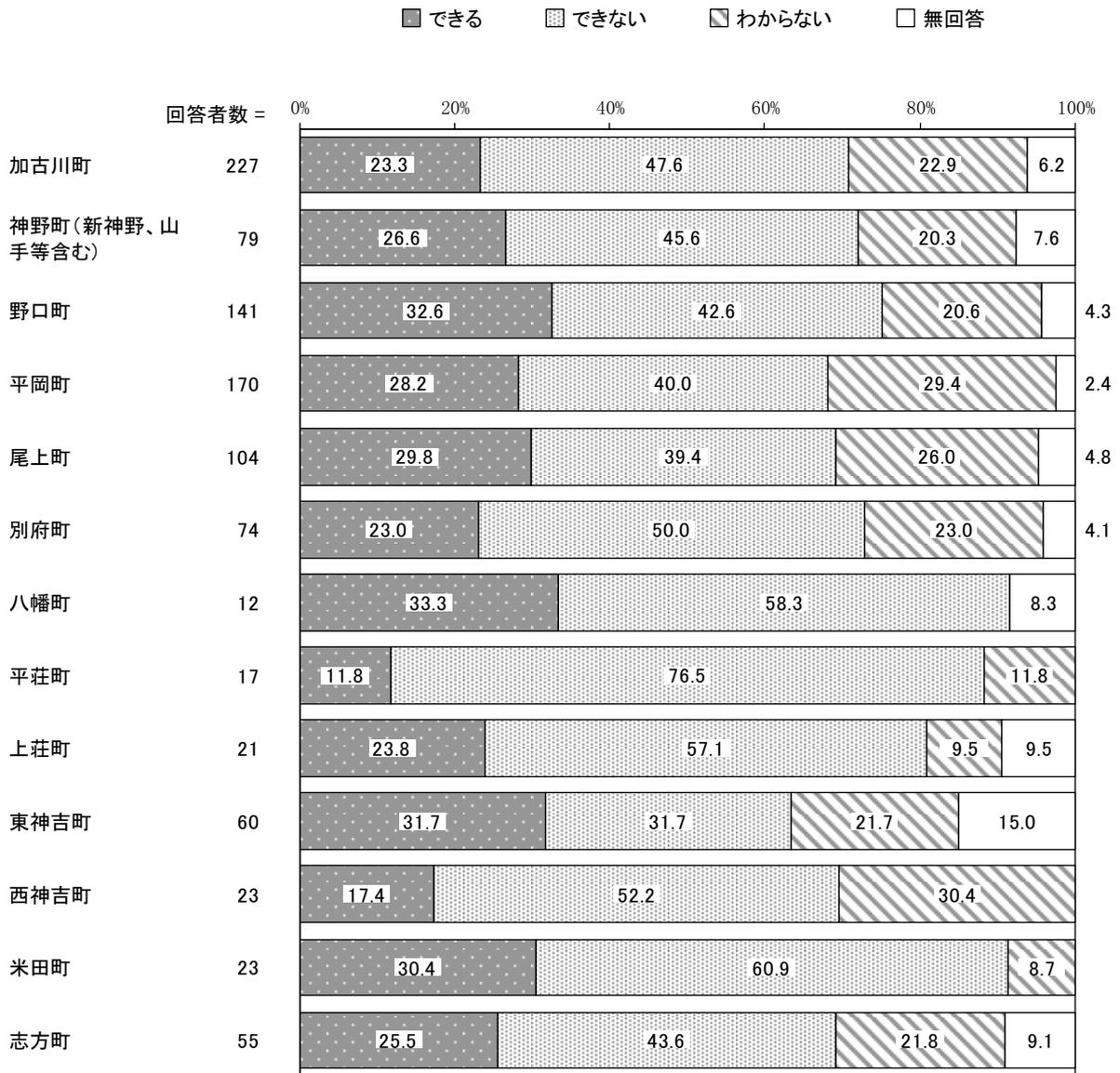
【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「できる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「できない」の割合が高くなっています。



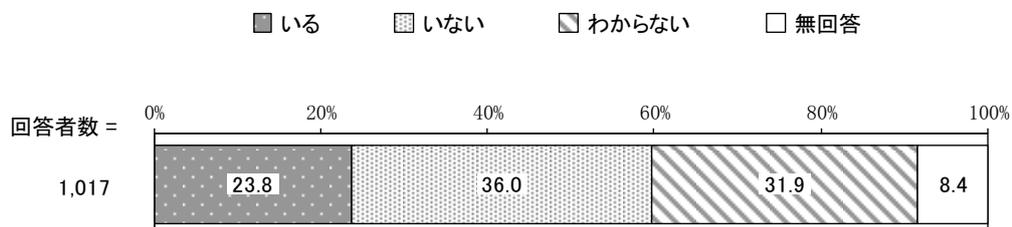
【地区別】

地区別でみると、地域によって若干の差異があります。



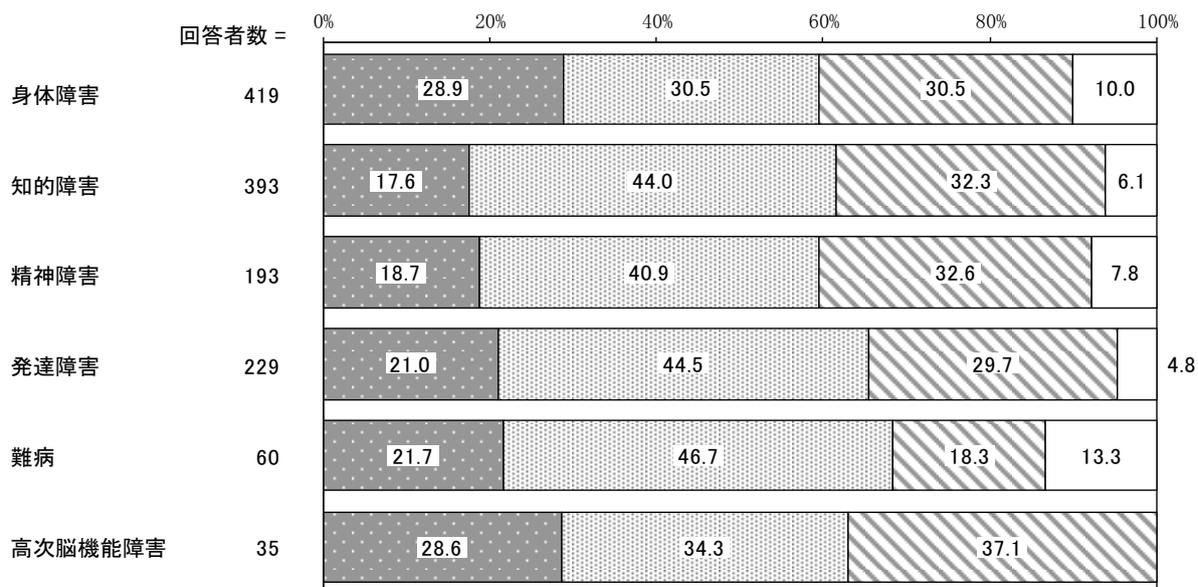
問 41 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つだけ)

「いない」の割合が36.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が31.9%、「いる」の割合が23.8%となっています。



【障がい種別】

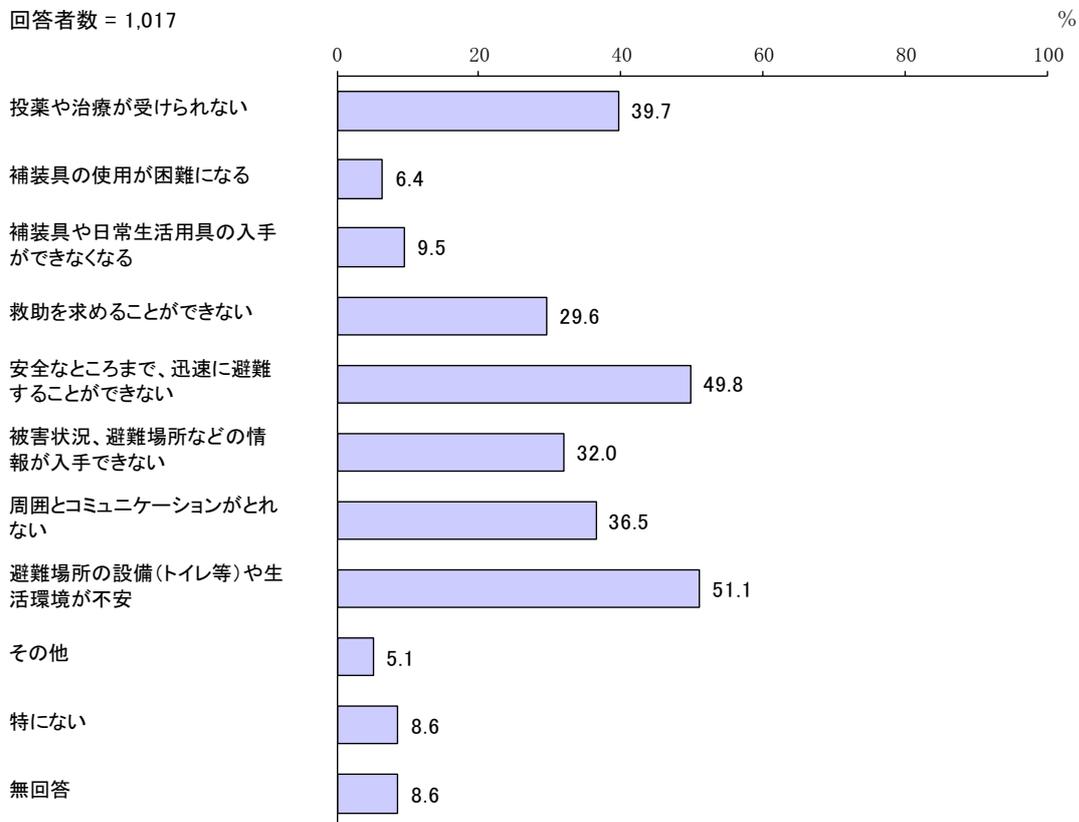
障がい種別で見ると、他に比べ、身体障害、高次脳機能障害で「いる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、難病で「いない」の割合が高くなっています。



問 42 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」の割合が 49.8%、「投薬や治療が受けられない」の割合が 39.7%となっています。

回答者数 = 1,017



【障がい種別】

障がい種別で見ると、他に比べ、精神障害で「投薬や治療が受けられない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、高次脳機能障害で「補装具の使用が困難になる」の割合が、身体障害で「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」の割合が、知的障害で「救助を求めることができない」「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」「周囲とコミュニケーションがとれない」の割合が、難病で「安全なところまで、迅速に避難することができない」「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	その他	特になし	無回答
身体障害	419	44.6	12.4	16.2	23.2	56.1	23.2	20.5	58.7	4.1	6.9	9.8
知的障害	393	34.9	5.6	7.6	48.9	64.6	45.8	59.0	56.5	5.9	4.6	5.6
精神障害	193	61.7	1.0	5.7	21.2	32.1	29.0	35.8	42.5	7.3	7.3	8.8
発達障害	229	24.0	3.9	4.4	40.2	51.5	41.0	57.6	49.3	7.0	10.0	3.9
難病	60	45.0	10.0	15.0	31.7	66.7	18.3	30.0	65.0	13.3	6.7	13.3
高次脳機能障害	35	51.4	20.0	14.3	28.6	60.0	28.6	34.3	60.0	2.9	11.4	5.7